

海軍省教育局檢閱濟
陸戰操式

改正
加除
（昭和六年十月）
正誤訂正

海軍大臣 財 部

達第九十二號
陸戰操式別冊ノ通改正ス
別冊ハ海軍文庫ヲシテ之ヲ所要ノ向ニ配付セシム
昭和五年七月二十六日

陸戰操式

陸戰操式目次

綱領	一
總則	二
第一篇 徒手教練	三
第一章 各個教練	四
一、不動ノ姿勢	五
二、右(左)向キ、半バ右(左)向キ及後口向キ	六
三、行進	七
四、折敷ヶ及伏セ	八
第二章 密集教練	九
目次	一

目次

二

一、密集隊形	二
二、集合及解散	二
三、整頓	二
四、右(左)向キ及後口向キ	二
五、行進	三
六、隊形換及方向變換	三
第二篇 執銃教練	三
通則	三
第一章 各個教練	三
一、不動ノ姿勢、右(左)向キ、後口向キ	三
二、擔銃及立銃	三
三、行進	三
四、折敷ケ及伏セ	四
五、裝填及拔キ出シ	三
六、射撃	三
七、著劍及脫劍	三
八、突擊	三
第二章 分隊教練	三
第一節 戰闘間兵員一般ノ心得	五
第二節 密集集	五
一、密集隊形	五
二、集合、解散、又銃及解銃	五
三、整頓、右(左)向キ、後口向キ、行進、隊形變換及 方向變換	五

目次

四

- 四、装填、抜キ出し及銃ノ點検 卷六
五、突撃及追撃 六

第三節 散開

- 一、散開ノ方法 六

二、運動及射擊

- 三、突撃及追撃 六

四、集合及併合

- 五、突撃及追撃 六

第三章 小隊教練

- 第一節 密集 七

- 第二節 接敵運動 七

第三節 散開

- 六、突撃及追撃 六

一、火線ノ構成

- 七、突撃及追撃 六

二、運動及射擊

- 八、突撃及追撃 六

三、援隊

- 九、突撃及追撃 六

四、突撃及追撃

- 十、突撃及追撃 六

第四章 中隊教練

- 十一、突撃及追撃 六

第五節 集合及併合

- 十二、突撃及追撃 六

第六節 夜戦

- 十三、突撃及追撃 六

第三篇 機銃教練

目次

五

通則

第一章 機銃分隊教練

一、集合

二、右(左)向キ及後口向キ

三、行進

四、陣地進入

五、射擊

六、陣地變換

七、故障ノ處置

第二章 機銃小隊教練

第一節 密集

一、密集隊形

二、集合	一〇九
三、整頓	一〇九
四、右(左)向キ及後口向キ	一〇九
五、行進	一〇九
六、隊形變換及方向變換	一一〇
第二節 接敵運動及射擊	一一〇
一、接敵運動	一一〇
二、陣地進入	一一〇
三、射擊	一一〇
第三章 機銃中隊教練	一一〇
第一節 密集	一一〇
第二節 攻擊	一一〇

目次

八

第三節 防禦

一
九

第四節 追擊及退却

一
九

第五節 夜戰

一
九

第四篇 大隊教練

一
九

通則

101

第一章 密集教練

101

第二章 戰闘

101

第五篇 附屬隊教練

101

通則

101

第一章 通信隊

101

第二章 工作隊

101

第三章 豫備彈藥隊

101

第四章 醫務隊

110

第一節 集合隊形

110

第二節 擔架隊

111

第三節 看護隊

114

第五章 主計隊

116

第六篇 輕機銃教練

116

通則

117

一、不動ノ姿勢

118

二、擔銃及立銃

119

三、折敷ヶ及伏セ

120

四、射擊及運動

120

五、故障ノ處置

121

目 次

一〇

六、彈薬ノ補充

二三九

第七篇 拳銃教練

二三〇

第八篇 射撃教育

二三一

通則

二三二

第一章 照準發射

二三三

通則

二三四

第二章 教練射擊

二三五

第三章 戰闘射擊

二三六

附 錄

二三七

第一章 軍艦旗ノ保持法

二三八

第二章 長剣ノ取扱法

二三九

第三章 捧 銃

二四〇

第四章 觀兵式

二四一

第五章 手榴彈投擲法

二四二

通則

二四三

第一節 基本投擲

二四四

第二節 應用投擲

二四五

第六章 小銃及拳銃保存取扱法

二五五

通則

二五六

第一節 小 銃

二五七

二、各部ノ名稱

二五八

二、分解及結合法

二五九

三、手入法

二六〇

(附)

二六一

目次

一一

第二節 拳銃

一三

一、拳銃各部ノ名稱

一三

二、分解及結合法

一四

三、手入法

一六

附圖

第一圖 開兵式ノ隊形

一七

第二圖 分列準備隊形

一八

第三圖乃至第八圖 三八式小銃

一九

第九圖 陸式拳銃

二〇

附表

第一表 三八式小銃射表

二一

第二表 三八式小銃發射角及落角正切表

二二

第三表 三八式小銃彈道高表

二三

第四表 三八式小銃彈丸侵徹量

二四

第五表 三八式小銃ノ溫度ニ伴フ射距離表

二五

第六表 三八式小銃ノ風向風速ニ依ル射距離ノ増減及強著點ノ側

二六

方偏移量表

第七表 三八式小銃部隊打擊命中效力表

二七

第八表 命中的公算因數表

二八

第九表 三年式機銃射表

二九

第十表 三年式機銃彈道高表

三〇

第十一表 三年式機銃氣溫ニ伴フ射距離表

三一

第十二表 三年式機銃風速一米ニ應ズル射距離ノ増減及側方偏移

量表並ニ定偏量略表

第十三表 留式機銃射表

第十四表 留式機銃道高表

第十五表 十一年式輕機銃射表

第十六表 十一年式輕機銃發射角及落角正切表

第十七表 十一年式輕機銃道高表

陸戰操式目次終

綱領

第一 軍隊ノ用ハ戰鬪ニ在リ故ニ百事皆戰鬪ヲ

以テ基準ト爲スペシ

戰鬪一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒殲滅シテ速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ而シテ確固タル軍人精神ヲ基礎トシ軍紀至嚴ニシテ攻擊精神充溢セル軍隊ハ克ク戰捷ヲ完ウシ得ルモノトス

第二 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ上指揮官ヨリ下一

兵ニ至ルマデ脈絡一貫克ク一定ノ方針ニ從ヒ
衆心一致ノ行動ニ就カシメ得ルモノ即チ軍紀
ナリ而シテ軍紀ノ要素ハ服従ニ在リ全軍ノ將
士ヲシテ至誠上長ニ服従シ其ノ命令ヲ確守ス
ルヲ以テ第二ノ天性ト成サシムルヲ要ス

第三 軍隊ハ常ニ攻撃精神充溢シ士氣旺盛ナラ
ザルベカラズ蓋シ勝敗ノ數ハ必ズシモ兵力ノ
多寡ニ依ラズ精練ニシテ且攻撃精神ニ富メル
軍隊ハ克ク寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノ

ナレバナリ

第四 陸戰隊ハ戰鬪、警備等ニ方リ複雜困難ナ
ル情況ニ於テ各級職員ノ臨機善處ヲ必要トス
ルコト屢ナリ故ニ隊員ハ機敏ニシテ剛毅、周
密ニシテ果斷克ク操式教範ニ通曉シ之ガ活用
ヲ誤ラザルノ用意アルヲ要ス

陸 戰 操 式

總 則

- 第一 教練ノ目的ハ軍隊ヲ練成シテ軍紀ヲ嚴正ニシ精神ヲ鞏固ナラシメ併セテ各種制式及法則ニ習熟セシメ以テ戰鬪ノ要求ニ適應セシムルニ在リ故ニ教練ヲ實施スルニ當リテハ常ニ思ニ實戰ニ致シ軍人ノ本分ヲ自覺シ忠高ナル責任觀念ニ基キ誠意奮勵スルヲ要ス
- 第二 戰鬪ハ非常ナル困難激烈ナル情況ノ下ニ長時間ニ亘リ實施セラルルコト多シ之ガ爲教練ニ於テハ既トヒ如何ナル情況ニ於テモ能ク之ニ堪ヘ自若トシテ奮鬥シ得ル不撓ノ氣力ト體力トノ練成ニ努ムルヲ要ス
- 第三 適切ナル協同動作ト機宜ニ適セル獨斷專行トハ戰鬪ニ於テ極メテ

緊要ニシテ極地戰ニ在リテハ特ニ然リトス故ニ教練ノ實施ニ際シテハ陸戰隊ノ性質ニ鑑ミ之ガ啓發ニ努ムルコト緊要ナリ

第四 武技ノ練達、兵器ノ善用ハ戰鬪ノ勝敗ニ關係スルコト極メテ大ナリ
故ニ如何ナル情況ニ於テモ其ノ全能ヲ發揮シ得ル如ク習熟スルニ努ムルト共ニ平素ヨリ兵器ヲ尊重愛護シ以テ常ニ之ヲ完備ノ狀態ニ保ツヲ要ス又彈藥ノ適切ナル節用並ニ之ガ補充ハ火器ノ效果ヲ充分ニ發揮スル爲極メテ重要ナリ

第五 教育ノ任ニ在ル者ハ教練ノ實施ニ注意シ單ニ外形ノミニ著意スルコトナク深ク内容ヲ察一スルコト肝要ナリ而シテ教育ノ手段ハ自ラ之ガ適切ナル選定ヲ爲スヲ要スト雖モ濫リニ細密ナル事項ヲ規定シ操式ノ内容ヲ複雑ニシ或ハ其ノ活用ノ餘地ヲ減縮スルヲ許サズ又説明ニハ努メテ平易ナル言葉ヲ用フベシ

第六 教練ニ當リ各員ハ其ノ態度及服裝ヲ正シクスペシ是レ態度及服裝ヲ正シクスルハ其ノ精神ヲ緊張セシムル所以ナルヲ以テナリ

第七 操式ノ制式及法則ニハ戰鬪ノ要求ニ從ヒ訓練ノ目的ニ應ジ輕重アルノミナラズ各制式各法則中ニモ自ラ主客ノ部分アリ故ニ教育ノ任ニ在ル者ハ能ク之ヲ判別シ訓練ノ度ヲ適當ニ定メ以テ本末ヲ誤ラザルコトニ留意セザルベカラズ

第八 教練ヲ行フニハ先づ達スベキ目的ヲ定メ其ノ目的ニ適合シタル計畫ヲ立テ指導實施ヲシテ之ニ副ハシムル如ク努ムルヲ要ス漫然タル目的ノ下ニ無計畫ニ實施スル教練ハ其ノ效果ヲ期待スルヲ得ザルモノトス

第九 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其ノ課目ノ案配並ニ經過ヲ適當ナラシムルコトニ深ク注意スルヲ要ス而シテ之ガ實施ニ當リテハ常ニ

熱心懇切事ニ從ヒ些末ノ事項ト雖モ苟モ軍人精神ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スベカラズ

第十 戰闘ノ基礎タル諸教練ハ通常中隊迄ニ於テ之ヲ完了スルモノトス大隊以上ニ於テハ主トシテ指揮並ニ哨般ノ戰況ニ適應スベキ各部隊ノ協同動作ヲ訓練スルモノトス

第十一 敵前上陸及夜間ノ教練ハ極メテ肝要ナリ蓋シ陸戰隊ハ實戰ニ於テ之ガ實施ノ機會少カラザレバナリ

又陸戰隊ハ警備ニ從事スルコト多キヲ以テ一般ニ其ノ要領ヲ會得セシムルヲ要ス

第十二 教練ニ際シ平時ノ顧慮ニ依リ已ムヲ得ズ實際ト異ナル處置動作ヲ爲サシムルコトアリ此ノ場合ニ於テハ指揮官ハ要スレバ部下ニ其ノ理由ヲ説明スベシ又工事破壊等ヲ實施シ能ハザルトキト雖モ其ノ計畫

ヲ立案シ且之ガ準備作業ハ努メテ實行スペシ

第十三 指揮官ハ教練ニ於テモ實戰ニ在リテ取ルベキ姿勢ト位置トヲ選ビ部下ヲ指揮スルコトニ慣ルコト必要ナリ

指揮官ハ教練上必要アルトキハ其ノ欲スル所ニ從ヒ姿勢ト位置トヲ選ブコトヲ得又各部隊長ニモ此ノ如キ自由ヲ許スコトアリ

第十四 命令、報告及通報ヲ確實迅速ニ傳達スルコトハ軍隊指揮ニ缺クカラザル要任ナルノミナラズ各部隊ノ協同動作ノ爲極メテ緊要ナルモノトス故ニ部隊ノ大小ヲ問ハズ部隊長ハ絶エズ通信連絡ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ諸種ノ手段ヲ盡シテ其ノ實施ヲ確實敏活ナラシムル如ク演練スルヲ必要トス

第十五 教練ト共ニ武技、體技ヲ併セ行ヒ體力ト自信力トヲ増進スルト共ニ敏活ナル判断力ト協同ノ精神トヲ練成スルコト肝要ナリ

第十六 指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ能ク部下ヲ驅リテ水火ヲモ敢テ辭セザラシムベキモノナルヲ以テ堅確ナル決意嚴肅ナル態度ヲ以テ下スベシ而シテ號令ハ明快ナル音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ傳達迅速ナルヲ要ス之ガ爲ニハ努メテ號令詞ヲ適用スルヲ便トス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツベキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ノ時間ヲ存スベシ操式中豫令ハ行書シテ區別ス

第十七 指揮官ハ情況ニ依リ號音又ハ記號ヲ以テ號令及命令ニ代ヘ又一

般ニ連絡ノ爲記號ヲ用フルコト多シ

記號ハ左ノ如ク行ヒ必要ニ應ジ之ヲ反復ス

整備又ハ了解 片手ヲ高ク舉グ

前進又ハ行進間方向變換 片手ヲ高ク舉グ次テ之ヲ進ムベキ方向ニ
伸ス

停止 片手ヲ高ク舉グ直ニ下ロス

駆歩 前進ノ記號ヲ迅速ニ數回連續ス

散開 兩手ヲ左右ニ肩ノ高サニ舉グ

射擊開始 片手ヲ體ノ側方ニ伸シ數回環狀ヲ畫ク

射擊中止 片手ヲ體ノ前方ニ伸シ數回左右ニ振ル

武器其ノ他ヲ以テ行フ場合モ亦右ニ準ズ

其ノ他必要ノ記號ハ臨時之ヲ定ムルモノトス又情況ニ依リテハ旗、火光、音響等ニ依ル記號ヲ利用スルヲ便トス

已ムヲ得ザル場合ニ限り部下ノ注意ヲ喚起スル爲小笛ヲ用フルコトア

第一篇 徒手教練

通 則

第十八 徒手教練ノ目的ハ兵員ヲ訓練シテ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ諸制式ニ習熟セシメ以テ戰闘一般ノ基礎ヲ作ルト共ニ軍隊ニ於ケル日常ノ動作ニ適應セシムルニ在リ

又徒手教練ハ就銃教練ニ入ルニ先チ其ノ準備トシテ行フコト必要ナリ
第十九 徒手教練ヲ行フニ際シテハ兵員ニ其ノ目的及精神ヲ説明シ其ノ心得ベキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ然ラザレバ教練ハ形式ニ陥リ終ニ戰闘ニ適セザルニ至ルベシ

第二十 各個教練ハ部隊教練ノ基礎ヲ作ルモノニシテ中ニモ不動ノ姿勢ス

及速歩行進ハ特ニ重要ニシテ右分訓練スルヲ要ス

第二十一 各個教練ハ各兵ノ體力能力ニ鑑ミ適當ニ體操其ノ他ノ體育ヲ加味シ適切ニ指導スルコト肝要ナリ又各個教練ニ於テ生ジタル弊習ハ之ヲ除クコト極メテ困難ナルヲ以テ其ノ教育ハ最綿密嚴格ニ行フヲ要ス

各個教練ハ部隊教練ニ移リタル後ト雖モ屢々之ヲ行フベシ是レ部隊教練ニ於テ各兵各個ノ動作ヲ矯正スルコト頗ル困難ナルヲ以テナリ
第二十二 密集教練ハ軍隊ヲシテ其ノ團結ヲ鞏固ニシ指揮官ノ意圖ニ從ヒ各種ノ動作ヲ整正確實ニ實施シ得シムルヲ主眼トス

第二十三 密集教練ニ在リテハ教練ヲ實施スル人員ノ多寡ニ應ジ適宜中(大)隊ニ準ジ部隊ヲ編成スルヲ可トス此ノ場合ニ在リテハ第二篇ノ中隊(第四篇ノ大隊)ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

第二十四 密集教練ハ主トシテ正面向キニ付キ規定ス背面向キニ付キテハ之ニ準ジテ行フモノニシテ單ニ其ノ要領ヲ知ラシムルヲ以テ足レリ
トス

第一章 各個教練

一、不動ノ姿勢

不動ノ姿勢

第二十五 不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ軍人精神内ニ充溢シ外敵肅端正ナラザルベカラズ
不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

兩踵カカトヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ヲ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ヒザハ凝ラズシテ之ヲ伸シ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸シ

且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍後ロニ引キ一樣ニ之ヲ下ダウチ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸シテ之ヲ並ベ中指ヲ概ネ股モモノ外側中央ニ當テ頸及頭ヲ真直ニ保チ口ヲ閉デ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

第二十六 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

先ヅ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊モトノ所ニ置キ其ノ場ニ立チテ休憩ス
休憩中ト雖モ許可ナクシテ話スコトヲ禁ズ

二、右(左)向キ、半バ右(左)向キ及後ロ向キ

第二十七 右(左)向キ或ハ半バ右(左)向キヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ

下ス

右(左)向け 右(左)

或ハ

半ば右(左)向け 右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上グ左踵ニテ九十度或ハ四十五度右(左)ニ向
キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同様上ニ揃フ

第二十八 後ロ向 キヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
廻はれ 右

右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上グ兩
踵ニテ百八十度右ニ廻リ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

三、行進

第二十九 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス

**第三十 速歩ノ一歩ノ長サハ踵ヨリ踵迄七十五釐ヲ、其ノ速度ハ一分間
百十四步ヲ基準トス**
速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

行進

前へ 進メ

**左股モ少シク上ゲ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五釐ノ所ニ脚ヲ伸シツツ
踏ミ著ケ同時ニ腰ヲ伸シ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著クルト
同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ付キテ示セシ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏
ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ真直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル**

停止

第三十一 行進間停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
今隊止レ

後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

第三十二 行進間右(左)向キヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け前へ 進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ九十度右(左)ノ方
ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

斜行進

第三十三 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜ナカメに右(左)へ 進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ四十五度右(左)ノ方 ト向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜に左(右)へ 進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第三十四 行進間後ロ向キヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
キナカメに右前へ 進メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右ノ方ニ旋回シ續キテ行進ス

第三十五 速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

後行進間
口向

歩調止
調取歩

歩調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス

再ビ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

駆步

第三十六 駆歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マデ約八十五糧トシ其ノ速度ハ一分間約百七十歩トス
駆歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駆歩 進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ゲ時ヒテヲ後ロニス
動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其ノ法兩脚ツノ少シク屈メテ僅ニ左股ウエヲ上ゲ右足ヨリ約八十五糧ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出

シ常ニ體ノ重ニテ踏ミ著ケタル脚ニ移シ兩肘^{ヒヂ}ヲ自然ニ振り續キテ行進ス

「令隊 止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後、後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ロス

駆步行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩^{ナマシ}

進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ兩手ヲ下ロシ續キテ行進ス

第三十七 駆步行進間ニ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ但シ速歩ニ於ケルヨリモ二歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

四、折敷ケ及伏セ

及折敷
伏セ

第三十八 折敷ケ(伏セ)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

折敷^{ハラシ}ケ(伏セ)

折敷ケヲ爲スニハ頭ヲ正面ニ保チタル儘左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半バ右ニ向ケ右脚^{アシ}ヲ屈ゲ股ヲ地ニ著ケ臀ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚ヲ立テ兩手ヲ握リ右手ハ甲ヲ上ニシテ右股ノ上ニ左手ハ甲ヲ下ニシテ前臂^{ハシ}ヲ左膝^{ハヅ}ノ上ニ置ク伏セテ爲スニハ頭ヲ正面ニ保チタル儘左足ヲ折敷ケニ於ケル如ク踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半バ右ニ向ケ右膝ヲ地ニ著ケ次デ左膝ヲ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ體ヲ正面ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ兩手ヲ握リ脈部ヲ合ス如ク右前臂ヲ左前臂ニ載ス

行進間ニ在リテハ停止ノ動作ヲ行フコトナク右ニ準ジテ動作スルモノトス

折敷ケ(伏セ)ニ於テ要スレバ其ノ姿勢ノ儂休憩セシムルコトヲ得

第三十九 折敷ケ(伏セ)ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ

折敷ケニ在ルトキハ臀ヲ地ヨリ離シ右脚ヲ立テ體ヲ正面ニ復シツツ右足ヲ左足ニ引キ著ク
伏セニ在ルトキハ右脚ヲ屈ダ兩膝ヲ地ニ著ケタル儘左手ニテ上體ヲ起シ左足ヲ約一步前ニ踏ミ出シテ立チ體ヲ正面ニ復シツツ右足ヲ左足ニ引キ著ク
直ニ行進スルニハ「前ヘ」或ハ「駐歩」ノ豫令ニテ立チ「進メ」ノ動令ニテ行進ス

第二章 密集教練

一、密集隊形

第四十 密集隊形ハ通常横隊及側面縱隊トス

密集隊形

編隊 第四十一 横隊ハ右ヨリ左ヘ兵員ヲ前後二列ニ排列シタルモノニシテ(其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍ト云フ)員數奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺キ(之ヲ缺伍ト云フ)兩翼ニ通常嚮導ヲ置ク但シ嚮導ヲ置カザルトキハ兩翼ノ兵ハ嚮導ニ準ジ動作ノ基準トナルモノトス後列兵ハ前列兵ノ背(外套)ヨリ胸迄約八十五釐ノ距離ヲ取り正シク前列兵ニ重リ同方向ニ位置ス

各兵ノ横距離ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ軽ク左隣兵ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス
列兵ニ番號ヲ附スルニハ「番號」ノ號令ニテ第一列兵ハ右ヨリ左ヘ順次明確ニ數稱ヲ發唱スルモノトス番號ヲ附シタル向キヲ正面トス
單二人員ヲ調査スル場合モ亦之ニ準ズ
横隊ハ時宜ニ依リ之ヲ一列又ハ三列以上ト爲スコトアリ

第四十二 側面縱隊ハ横隊ヲ側面向キト爲シタルモノニシテ通常四列トシ時宜ニ依リ四列以外ト爲スコトアリ

二、集合及解散

集合 第四十三 集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
集レ

右翼嚮導ハ速ニ指揮者ノ通常約六歩前ニ來リ正シク指揮者ニ面シテ立チ各兵ハ之ヲ基準トシテ其ノ左方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ横隊ノ定位ニ就キ整頓ス

特ニ隊形ヲ示シ集合セシムルコトアリ

解散 第四十四 解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分レ

各員ハ解散ス

三、整頓

整頓

第四十五 整頓完全ナルトキ各兵ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取り頭ヲ右（左）ニ廻ストキ右（左）ノ眼ヲ以テ右（左）隣兵ヲ見他ノ眼ヲ以テ全線ヲ見通スコトヲ得ルモノトス

各兵整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ要ス特ニ足ノ位置正シカラザルトキハ之ガ爲兩肩整頓線ニ在ラズシテ其ノ害自己ニ止ラズ隣兵ニ及ブモノトス

第四十六 嚮導ヲ前ニ出シ横隊ヲ整頓セシムルニハ豫メ「嚮導（何）歩前ヘ」ノ號令ヲ下シ兩翼ノ嚮導ヲ出シ其ノ位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

右（左）ヘ 準ヘ

直ナホレ

準ヘノ動令ニテ各兵ハ前進シ最後ノ一步ヲ縮メテ整頓線ノ少シク後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻シ小足ニテ靜ニ整頓線ニ就キ右(左)方ニ整頓ス但シ各員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ後列兵ハ先ヅ正シク前方ノ兵ニ重ナリ距離ヲ取り次ニ右(左)方ニ整頓ス

整頓翼ノ嚮導ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反対翼ノ嚮導ヲ目標トシ先づ己ニ近キニ、三ノ兵ノ位置ヲ正シ要スレバ逐次ニ整頓ヲ正ス反対翼ノ嚮導ハ要スレバ己ニ近キニ、三ノ兵ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス「直レ」ノ號令ニテ各員ハ頭ヲ正面ニ復シ左手ヲ下ロス

第四十七 其ノ場ニ於テ横隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 草ハ
直ナホレ

各員ハ前項ニ準ジ整頓ヲナス

四、右(左)向キ及後口向キ

右ナホ
左カネ

第四十八

横隊右(左)向キヲ爲セバ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ

右(左)ニ出デ伍ヲ組ミ四兵相並ビ側面縱隊トナル

嚮導ハ其ノ位置ニ在リテ右(左)向キヲ爲ス

側面縱隊ニ在リテ左(右)向キヲ爲セバ伍ヲ解キ第四十一ニ定メタル位置ニ就キ横隊トナリ各自右(左)方ニ整頓ス

第四十九 橫隊後口向キヲ爲セバ嚮導及缺伍ハ前列ニ就ク

五、行 進

後口向
キ

第五十 橫隊ノ行進ハ右翼嚮導ヲ基準トス若シ左翼嚮導ヲ基準トスルトキハ特ニ之ヲ示ス

指揮者ハ行進ノ號令ヲ下スニ先チ通常右(左)嚮導ノ行進目標ヲ示スモ

各兵行進間
キ要ルヘノ
キ守ルヘノ

ノトス各員ハ行進ノ號令ニ依リ第三十二從ヒ一齊ニ行進ヲ起シ右(左)嚮右(左)向キ後口向

嚮右(左)向キ後口向

嚮右(左)向キ後口向

基準嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス

基準嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ嚮導左(右)ノ號令ヲ下シ通常新ニ行進目標ヲ示ス

第五十一 行進間各兵ノ守ルベキ要件

イ 歩長及速度ノ齊一ト距離ノ保持ニ注意スルコト

ロ 常ニ頭ヲ正面ニ保チ整頓翼隣兵並ニ前方ノ兵ニ注意スルコト

ハ 整頓翼ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルト

キハ之ヲ支フルコト

ニ 整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ隣兵トノ横距離ヲ失ヒタルトキハ漸次

二 條復スルコト

ホ 障碍物ニ遭遇シ行進シ能ハザルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足踏ミヲ爲シ隣兵等ニ妨グナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スルコト

ト ヘ 步ノ達ヒタルトキハ踏ミ換ヘテ爲シ速ニ整頓翼隣兵ノ歩ニ準フコ

ト ヘ 步ノ達ヒタルトキハ踏ミ換ヘテ爲シ速ニ整頓翼隣兵ノ歩ニ準フコ

第五十二 行進間ノ右(左)向キハ第三十二及第四十八ニ後口向キハ第三十四及第四十九ニ從ヒ側面縱隊ヨリ横隊ニ移リ續キテ行進スルトキ又

ハ後口向キノトキ要スレバ基準嚮導ヲ示ス

第五十三 側面縱隊ノ行進ニ在リテハ各兵ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ嚮導ノ後口ニ在ル兵ハ其ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ其ノ他ノ兵ハ列中ニ在リテ互ニ重ナリテ行進ス

側面縱隊
ノ行進

斜行進

第五十四 斜行進ニ在リテハ各兵ノ位置正シキトキハ其ノ肩概ネ互ニ平

行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各兵ノ右(左)肩ハ概ネ其ノ右(左)隣兵ノ

左(右)肩ノ後ロニ在ルモノトス各兵ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス直行進

ニ復シタルトキ要スレバ基準嚮導ヲ示ス

停止

第五十五 行進間停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

令隊 止レ

部隊ハ第三十一ニ準ジ停止シ各自基準嚮導ノ方ニ整頓ス但シ側面縱隊ニ在リテハ動クコトナシ

第五十六 側面縱隊ニ在リテ行進セルトキ之ヲ止メ直ニ左(右)ヲ向キ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向け 止レ

部隊ハ停止シ第四十八ニ從ヒ横隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

前進後退ノ數歩

第五十七 停止間數歩ノ前進(後退)ハ「(何)歩前ヘ(後ヘ) 進メ」ノ號令ニテ指示歩數前進後退シ整頓ヲ爲ス

後退ノ要領ハ步幅ヲ約半歩トスル外前進ニ準ズ

足踏ミ

第五十八 停止間又ハ行進間ノ足踏ミハ「足踏み 進メ」ノ號令ニテ進ムコトナク少シク股ヲ上ヶ交互ニ兩足ヲ踏ミ著ク足踏ミ間行進ヲ起サシメ又ハ停止セシムルニハ第三十、第三十六又ハ第五十五ニ準ズ

脚ミ換

第五十九 速歩行進間踏ミ換ヘテ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引き著ケ前

ノ足ヨリ行進ス

第六十 行進間途歩ヲ爲サシムルニハ「途歩」ノ號令ヲ下ス

途歩ニ在リテハ歩ヲ調フルヲ要セズ

遂歩

第一篇 徒手教練 密集教練

道歩行進間速歩(駆歩)ヲ爲サシムルニハ「速歩(駆歩) 進メ」ノ號令ヲ下ス

下ス

六、隊形變換及方向變換

横隊形變換

第六十一 側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
横隊作れ 進メ

停止間ニ在リテハ先頭ニ在ル嚮導ハ動クコトナク其ノ他ハ半バ左向キヲ爲シ伍ヲ解キ步調ヲ取ルコトナク近道ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ右ノ隣兵ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭ニ在ル嚮導ハ續キテ行進シ其ノ他ハ停止間ニ準ジ駆歩ヲ以テ新線ニ就キ續キテ行進ス

第六十二 橫隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に向きを換へ 進メ

横隊形變換

第六十三 側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に向きを換へ 進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル嚮導ハ右(左)向キヲ爲シ其ノ他ハ半バ右(左)向キヲ爲シ步調ヲ取ルコトナク近道ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ其ノ右(左)隣兵ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ停止間ニ準ジ駆歩ヲ以テ新線ニ就キ新方向ニ行進ス隊ガ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ要スレバ基準嚮導及行進目標ヲ示ス

第六十四 側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)に向きを換へ 進メ

横隊形變換

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ノ方ニ在ル兵ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル兵ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其ノ前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換

フ

第六十四 少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スベシ

第一篇 執銃教練

通 則

第六十五 執銃教練ノ目的ハ幹部及兵員ヲ訓練シテ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ併セテ諸制式、諸法則及兵器ノ使用ニ習熟セシメ以テ陸上戦闘ノ要求ニ適應スル軍隊ヲ作ルニ在リ

第六十六 各個教練ハ嚴肅確實ナル實施ニ依リ部隊教練ノ基礎ヲ作ルヲ主眼トス各個教練ニ於テハ不動ノ姿勢、速歩行進、射撃及突撃ハ特に重要ニシテ反復訓練スルヲ要ス

第六十七 各個教練ノ實施ト相待ツテ各兵ヲシテ兵器ノ構造機能ニ通ゼス

シムルハ其ノ威力ヲ充分ニ發揮スル爲極メテ肝要ナリ

第六十八 部隊教練ハ軍隊ヲシテ指揮官ノ意圖ニ從ヒ團結ヲ鞏固ニシ攻撃精神ヲ發揮シテ戰闘ヲ實施シ得ル如ク練成スルヲ主眼トス

第六十九 小隊(分隊)教練ハ各中隊(小隊)教練ヲ準備スル爲必要ナルノミナラズ小隊(分隊)ハ屢獨立シテ戰闘ニ任スルコトアルヲ以テ之ニ對スル演練モ亦肝要ナリ

第七十 執銃教練ハ特ニ規定スルモノノ外徒手教練ニ關スル規定ヲ準用ス

第一章 各個教練

一、不動ノ姿勢、右(左)向キ、後口向キ

第七十一 執銃ノ不動ノ姿勢ハ右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ保持ス其ノ法^{アタマ}腕關

立擔銃及

節ヲ稍前ニ出シ銃ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其ノ他ノ指ハ食指と共に閉ぢ輕ク屈メテ銃床ヲ保チ銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十楓)ヲ隔テ銃身ヲ後ロニシキ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ概ネ垂直ニ保ツ

第七十三 右(左)向キ、半バ右(左)向キ及後ロ向キヲ行フニハ右手ヲ以テ銃ヲ少シク上ゲ腰ニ支ヘ動作終ラバ靜ニ之ヲ下ロス

一、擔銃及立銃

第七十四 擔銃(ニナヘツ)及立銃(タケツ)ハ確實活潑ニ之ヲ行フ

第七十五 擔銃(ニナヘツ)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔へ

第一動 右手ヲ以テ銃ヲ上ゲ銃身ヲ概ネ右ニ且之ヲ垂直ニシ拳ヲ略肩ノ高サニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ輕ク體ニ接ス

第二動 銃身ヲ半バ前ノ方ニ向ケ少シク銃ヲ上グルト同時ニ右手ヲ伸シテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握ル

第三動 右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルト同時ニ左手ヲ尾栓ノ上ニ置キ右上膊ハ體ニ接シ床尾ノ環ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ體ノ中央ノ線ト平行セシメ用心金ヲ肩胛關節ノ稍内方にシテ鎖骨ノ稍下方ニ置ク

第四動 左手ヲ下ロス

第七十六 擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第一動 右手ヲ伸シ銃ヲ下ゲ銃身ヲ半バ右ノ方ニ向ケ概ネ之ヲ垂直ニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ輕ク體ニ接ス

第二動 銃ヲ下ゲ銃身ヲ右ニスルト同時ニ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ

其ノ拳ヲ略肩ノ高サニス

第三動 銃身ヲ後ロニシ之ヲ下グ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ロス

第四動 静ニ銃ヲ地ニ著ク

三、行進

行進 第七十七 執銃ノ行進ハ豫令ニテ擔銃ヲ爲シ動令ニテ發進ス但シ駐步行進ニ在リテハ擔銃ヲ爲シタル後劍鞘ケンザイヲ握ル「止レ」ノ動令ニテ停止シ立銃ヲ爲ス

數歩ノ前進(後退)又ハ銃ヲ擔ハズシテ行進スル場合ニハ右手ヲ以テ銃ヲ握リ少シク之ヲ上ゲ確實ニ覗ニ支フ駆歩ヲ行フトキハ豫令ニテ銃ヲ腰ニ支ヘ劍鞘ヲ握リ停止セバ直ニ不動ノ姿勢ヲ取ル

四、折敷ヶ及伏セ

折敷ヶ 第七十八 執銃ノ折敷ヶハ左手ニテ劍鞘ヲ前ニ拂ヒツツ銃ヲ少シク上ゲ

徒手ニ於ケル如ク姿勢ヲ取り臂ヲ伸シ銃ヲ右膝ノ前ニ立ツ

行進間ニ在リテハ徒手ニ準ジ姿勢ヲ取り立銃ノトキニ於ケル如ク銃ヲ下ロス外前項ニ準ズ

伏セ

第七十九 執銃ノ伏セハ銃ヲ少シク上ゲ徒手ノトキニ於ケル如ク伏臥シ木波ノ所ヲ握リ左前臂ニ載セ銃ヲ右腋下ニ置キ開鎖擬カイセキノミノ上ニス行進間ニ在リテハ徒手ニ準ジ右膝ヲ地ニ著ケ立銃ノトキノ如ク銃ヲ下ロシツツ前手ニ準ジ動作ス

第八十 折敷ヶ(伏セ)ニ在ルトキ起立スルニハ徒手ノ場合ニ準ズ又直ニ行進スルニハ起立シタル後第七十六ニ依リ動作ス

五、装填及抜キ出シ

第八十一 装填ハ通常停止間ニ於テ行フモノトス兵員ハ如何ナル姿勢ト

場合トヲ問ハズ確實迅速ニ之ヲ行ヒ得ザルベカラズ

第八十二 裝填ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈薬包ヲ込メ

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ頭ヲ正面ニ保チタル儘銃口ヲ左前上方ニスル如ク右手ヲ以テ銃ヲ概ネ體ノ中央前ニ上ゲ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重心ノ所ヲ握リ其ノ臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ銃床鼻ヲ右乳ノ右下方ニ在ル如ク床尾ヲ體ニ接ス注目シテ右手ヲ以テ下ヨリ開鎖挺ヲ握リ之ヲ起シツツ充份後ロニ引キ彈薬盒ノ蓋ノ留革ヲ脱シ其ノ蓋ヲ開キ彈薬包ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ捕弾子溝ニ嵌メ拇指ノ頭ヲ藥莢ノ後部ニ他ノ四指ヲ輕ク彈倉底釦ニ當テ彈倉内ニ押シ入レ次ニ開鎖挺ヲ握リ尾栓ヲ閉メ右掌ヲ以テ打針留ヲ押シ右ニ廻シ銃ヲ安全裝置ニシ彈薬盒ノ蓋ヲ閉ヂ留革ヲ懸ケタル後前ノ方ヲ直視シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ不動ノ姿勢ニ復ス

拔キ出

第八十三 弹薬包ヲ抜キ出サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈薬包ヲ抜ケ

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ裝填ニ於ケル如ク銃ヲ構ヘ注目シテ右手ヲ以テ彈薬盒ノ留革ヲ脱シ其ノ蓋ヲ開キ右掌ヲ以テ打針留ヲ押シ左ニ廻シ銃ヲ發裝置ニシ左手ヲ機體ノ所ニ持チ來リ其ノ四指ハ伸シテ方窓部ニ當ツルガ如クシ靜ニ尾栓ヲ進退シテ彈薬包ヲ出シ之ヲ彈薬盒ニ收ム彈薬包ヲ出シ盡セバ藥室及彈倉内ニ殘弾ナキコトヲ確メタル後左手ノ指ヲ以テ彈薬受ヲ壓シ尾栓ヲ閉ヂ靜ニ引金ヲ引キ彈薬盒ノ蓋ヲ閉ヂ留革ヲ懸ケタル後前ノ方ヲ直視シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ不動ノ姿勢ニ復ス

射擊要旨

六、射擊

第八十四 射擊ハ兵員ノ戰鬪動作中特ニ緊要ナルモノナリ故ニ先づ各姿

勢ニ付キ綿密周到ニ教育シ確乎タル射撃ノ基礎ヲ作リタル後据銃、照準及引金ノ引方ヲ習得セシメ次第地形地物ヲ利用シテ行フ射撃ニ及ボスヲ可トス

射撃姿勢ハ身體ヲ直ルコトナク堅固ニ保チ各兵ノ體格ニ適合シ自然ノ狀態ニ在ルヲ要ス然ラザレバ銃ノ安靜ヲ得ザルノミナラズ照準頗ル困難ナリ而シテ被服及裝具ノ身體ニ適合セザルモノモ亦射手ノ動作ヲ妨害スルコト多シ

射撃ハ第八篇射撃教育ノ部ト相俟ツテ教育ノ完成ヲ期スベシ

第八十五 射撃ノ爲地形地物ヲ利用スルノ要旨ハ銃ノ最大威力ヲ現スラ主トシ次ニ遮蔽ノ效用ヲ禦慮スルニ在リ故ニ此ノ趣旨ニ基キ各兵ヲシテ目標ノ狀態ニ應ジ諸種ノ地形地物ニ就キ其ノ價值ヲ判別シ之ヲ利用シテ射撃スルコトニ習熟セシムベシ何レノ場合ニ於テモ其ノ射撃姿勢

ヲシテ各兵ノ體格ニ最能ク適應セシムルコト緊要ナリ

而シテ地形地物ヲ利用シテ行フ射撃ニ在リテハ散兵ノ射撃ト密接ナル達繫ヲ保タシムル如ク訓練スルコト肝要ナリ

第八十六

射撃ノ效果ヲ大ナラシムル爲ニハ如何ナル場合ト雖モ沈著ニシテ射撃ノ諸法則ヲ守ルコト、裝填ノ確實迅速ナルコト、示サレタル目標ヲ速ニ發見スルコト、照尺改調及据銃ノ確實ニシテ速ナルコト、見工難キ目標或ハ隱間ニ隱顯又ハ移動スル目標ト雖モ正確且迅速ニ照準スルコト及引金ヲ正シク引クコトハ缺クベカラザル要件ナリ

第八十七

射撃姿勢ヲ取ラシムニハ目標ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス
立打(タチダ) (膝打(ゲダ)) (伏打(ハマダ)) の擣へ 銃

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立打ノ姿勢ヲ取ルニハ先づ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘右足尖ヲ以テ半バ右ニ向キツツ左足ヲ

膝打

約半歩左前ニ踏ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ゲツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重心ノ所ヲ握リ其ノ臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ銃口ヲ概ネ眼ノ高サニシ銃床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ銃床尾ヲ體ニ接シ装填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目ベ
不動ノ姿勢ニ在ルトキ膝打ノ姿勢ヲ取ルニハ先づ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半バ右ニ向ケ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂ヒツツ右脚ヲ曲ゲ其ノ股ヲ目標ノ方向ト殆ド直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ脣ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立打ノ如ク之ヲ保チ其ノ前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ床尾鉗ヲ右股ノ内部ニ當テ装填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ上體ヲ自然ノ方向ニ概ネ垂直ニ保ツ

伏打

不動ノ姿勢ニ在ルトキ伏打ノ姿勢ヲ取ルニハ先づ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘左手ヲ以テ禦薬盒ヲ左右ニ開キ左足ヲ膝打ニ於ケル如ク踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半バ右ニ向ケ右膝ヲ地ニ著ケ次テ左膝ヲ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ體ヲ射撃方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ左手ヲ以テ立打ノ如ク銃ヲ保チ装填シタル後右手ヲ以テ稍下方ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ銃把ヲ肥ノ稍前ニ在ル如ク兩肘ヲ地ニ支フ

何レノ姿勢ニ在リテモ銃口ヲ概ネ眼ノ高サニシ右手ノ食指ヲ用心金ノ中ニ入レテ伸シ装填シ在ルトキハ注目シテ銃ヲ擊發裝置ニスルモノトス

射撃姿勢ヲ取リタル後不具合ヲ感ズルトキハ据銃ヲ試ミ其ノ姿勢ノ儘速ニ修正シ膝打ノ姿勢ニ在リテハ體格ニ應ジ脣ヲ右足ノ上ニ載スルコ

トヲ得

第八十八 照尺ヲ調ヘ、据銃、照準ヲ爲シ射撃ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

(何)百(要スレバ照準點ヲ示ス)

右手ノ拇指ト食指トヲ以テ注目シテ正確ニ照尺ヲ調ヘ、据銃、照準ヲ行フ

立打ノ姿勢ニ在リテ据銃スルニハ兩手ヲ以テ銃口ヲ上グルコトナク體ニ近ク銃ヲ上ゲ銃ヲ左右ニ傾ケザル如ク主トシテ右手ヲ以テ床尾飯ヲ肩ノ凹ミニ確實ニ壓著シ同時ニ右肘ヲ殆ド肩ノ高サト等シクシ左肘ヲ自然ニ垂直ニシ床尾飯ヲ壓著スル爲コトサラニ肩ヲ上ダ或ハ前ニ出スコトナク既ニ据銃シタル後ハ右手ヲ緩メ又ハ床尾飯ノ位置ヲ動カスコトナク銃把ハ通常右側面ヨリ握ルモノトス

膝打ノ姿勢ニ在リテ、据銃スルニハ左前臂ヲ左膝ノ上ニ立テ立打ノ物ク行フモノトス

伏打ノ姿勢ニ在リテ、据銃スルニハ兩肘ヲ支點トシ胸ヲ少シク地ヨリ離シ左手ハ瓶^{ボトル}ネ立打ニ於ケルガ如クシ右手ヲ以テ銃把ヲ稍下方ヨリ握リ床尾飯ヲ鎖骨ニ接セザル如ク壓著スペシ

照準點ハ特令ナケレバ常ニ目標ノ下際トシ照準ヲ爲スニハ何レノ姿勢ニ在リテ^{(テ)是銃スルト共ニ左眼ヲ閉デ(左眼ヲ閉ざルコトルモ妨ケナシ)}直ニ銃ヲ照準セントスル點ニ指南シ照門^{(テ)開キハ照准ス}及照準點ノ關係ヲ精審ニ上圖ノ如ク導ク此ノトキ頭ハ殆ド自然ニ位置ニ保チ床尾ヲ頬ニ確實ニ接シ右手ノ食指ヲ用心金ノ内ニ入レ引金ニ接ス

打方始メ

引金ヲ引キ射撃ヲ爲ス引金ヲ引クニハ右手ノ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメザル爲右手ヲ以テ銃把ヲ確ニ握リ食指ノ第二節ヲ引金ニ鉤ケ其ノ第一段ヲ壓シ次ニ呼吸ヲ止メ照準線ヲ正シク照準點ニ指向シ得タルトキ發射シ得ル如ク靜ニ食指ヲ握リシメ引金ノ第二段ヲ鬆シ微弱ナル力ニテ終ニ擊發シ得ルニ至ラシムモノトス

ニ彈薬盒ノ蓋ヲ閉デ留革ヲ懸ケ置クモノトス

第九十 射撃ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

打方待テ

照準發射ヲ中止シ射撃姿勢ニ復ス發射後ニ在リテハ次發ノ用意ヲ爲ス

第九十一 射撃ヲ止シムルニハ左ノ號令ヲ下ス

打方止

打方止メ

射撃ヲ止メ注目シテ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ頭ヲ目標ノ方向ニシ立打ニ在リテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左踵ニテ目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ膝打ニ在リテハ臀ヲ地ヨリ離シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ立チ目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ伏打ニ在リテハ其ノ姿勢ヲ取りタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ上體ヲ起シ彈薬盒ヲ舊位ニ復シツツ左足ヲ約一步前ニ踏ミ出シ右足ヲ左足ニ引キ著ケ不動ノ姿勢ニ復ス

第九十二 家屋、垣、樹木又ハ土塊ヲ利用シテ射撃姿勢ヲ堅確ナラシメ又ハ銃ヲ地物ニ依託スルハ射撃效力ヲ發揚スルニ價値アルモノトス故ニ所要ニ應ジ爲シ得レバ地形地物ヲ改修スルノ著意ヲ必要トス胸牆ニ依ル射撃ハ身體ノ左側又ハ前部ヲ内斜面ニ接シ左肘或ハ兩肘ヲ臂坐ニ

第二編 機械教練 各個教練

四百

置キ銃ヲ胸墻ニ托ス此ノ場合ニ於テハ左手ヲ以テ床尾ヲ握リ拂拭ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テ銃ヲ肩ニ引キ著ケテ右手ヲ以テ強ク銃把ヲ握リ射撃スルヲ可トス憲ヲ利用スル場合モ之ニ準ズ

太キ樹木ノ後コニ在リテ立打又ハ膝打ヲ爲ストキハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ托スルヲ通常キス

第九十三 地形地物ヲ利用スル膝打ノ姿勢ニ在リテハ右足尖ヲ立テ脛ヲ右張ノ上ニ載セ或ハ脛ノ筋若ハ右足(右踵)ヨリ上デ或ハ兩膝ヲ開キテ體ニ着ケシハ兩脚ヲ前ニ出シ兩膝ヲ立テテ兩肘ヲ真ノ上ニ置キ脛ヲ地著シ又左足(左踵)ヲ用ひ急エ撃シテ之ヲ内ニ向ケ或ハ左脚ヲ膝ヨリ膝シテ立カシムヲ如キフルタ可ヌルコトアリ

敵ニ對シ左右ニ一斜セル土地ニ於ケル伏打ノ姿勢ニ在リテハ射撃方向ニ對スル體ノ角度ヲ増減シ又ハ片肘ヲ開闊シ或ハ脚ヲ曲ゲル等ノ手段

ニ依リ姿勢ノ安定ト据銃ノ確實トニ注意スルコト必要ナリ

第九十四 地形地物ヲ利用スル射撃ニ在リテハヤマモスレバ地形地物ノ利用ニ専心シ却ワテ姿勢ノ堅確ヲ害シ或ハ銃ヲ左右ニ傾ケ特ニ銃ヲ地物ニ依託スル場合ニ於テハ据銃ノ確實ヲ缺キ又引金ノ引方粗略ニ流ルルノ弊ニ警ラザル類々深々注意スベシ

第九十五 飛行機ヲ射撃スルニハ立打、膝打ノ姿勢ヲ選用シ又ハ逆打ヲ用ヒ通常飛行機ニ及ル直距離六百米以下ニ於テ之ヲ行フモノトス
射撃ハ常ニ三百米ノ照尺ヲ以テ飛行機ノ移動ニ追随シテ行フモノニシテ其ノ標準點ノ標準左表ノ如シ

飛行機射撃ニ於ケル照準點ノ標準

飛行機ニ到ル直距離(米)

照

準

點

一〇〇 以内	飛行機ノ前端
五〇〇 以上	眼ニ映ズル飛行機ノ長サノ約六倍前

原書及
圖打 第九十六 逆打ノ姿勢ヲ取ルニハ「逆打の構サカウチへ 銃」ノ號令ニテ後彈薬盒ヲ體ノ左側ニ廻シ飛行機ノ飛行方向ニ平行ニ仰臥シ得ル如ク體ヲ向ケ膝打ノ要領ニ依リ臂ヲ地ニ著ケ左手ヲ以テ銃ノ左側面ヨリ木被ノ所ヲ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ仰臥シ床尾ヲ右腋下ニシテ床尾尖ヲ地ニ著ケ銃口ヲ上ニシ銃ヲ地面ニ對シ約三十度ニ保チテ體ヲ飛行機ノ方同ニ傾ク

七、著剣及脱剣

第九十七 著剣及脱剣ハ停止、行進間如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハズ確實ニ之ヲ行フヲ要ス

著剣及脱剣ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

第九十八 著剣ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
著剣

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概ネ體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃剣ノ柄ヲ握リ銃剣ヲ抜キテ確ニ銃口ノ所ニ著ケ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

第九十九 脱剣ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
取レ剣

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ著剣ニ於ケル如ク銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃剣ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ゲ其ノ拇指ニテ壓鉄アビットヲ押シ左手ニテ銃剣ヲ脱シ之ヲ右ノ方ニ倒シテ剣尖ヲ下ニシ右手ノ食指中指ト拇指トニテ刃ヲ挟ミ持チ其ノ餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃剣ヲ

全ク銃箱ニ收メ左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握リ右手ヲ下グテ木波ノ所ヲ握
リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

八、突撃

第一百 突撃ハ射撃ト共ニ兵員ノ警戒スルヲ覺マヌル （頭動作ニシテ銃械精ト併セ教育スルモノトス而シテ其ノ實施ハ猛烈果敢ニシテ敵ヲ壓倒スルノ氣勢充溢セザルベカラズ）

第一百一 突撃ヲ爲サシムルニハ著剣ノ後左ノ號令ヲ下ス

突撃に進メ

豫令ニテ右手ヲ以テ本機ノ所ニ據キ銃ヲ儲質ニ握リ銃口ヲ上ニシテ提
ゲ左手ヲ以テ右彈薬盒ヲ右方ニ開キ動令ニテ駆歩ト岡領ニテ前進シ
「突込メ」ノ號令ニテ喊聲ヲ發シ敵ニ向ヒテ突入シ格闘ス但シ突入ノ稍
體ニ於テ兩手ヲ以テ銃ヲ保持シ刺突ノ摩鎗ヲ爲ス

射撃シ在ルトキハ豫令ニテ射撃ヲ止メ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ倒シ觸
ネ其ノ姿勢ニ在リテ前項ニ準ジ準備ヲ爲シ動令ニテ駆進スルモノトス
突撃ニ於テハ銃箱ヲ握ラザルモノダグナシ

夜間ニ在リテハ黒幕藏匿ヲ獲セガルモノトス

實戰以外ニ在リテハ格闘ニ先チ「止レ」ノ號令ヲ下ス然ルトキハ停止シ
敵ヲ刺突スルノ構テ爲ス

不動ノ姿勢ニ復セシムルニハ「立て鏡」ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ右手
ヲ以テ木波ノ所ヲ握リ敵ニ面シツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ銃ヲ下ロシ
罪葉盒ヲ舊位ニ復シ不動ノ姿勢ニ復ス

第二章 分隊教練

第一節 戰闘間兵員一般ノ心得

第百二 戰闘ハ激動ヲ爲シ缺乏ニ堪ヘタル後始リ且長時間ニ亘ルコトアリ故ニ各兵ハ困苦ニ堪ユルト共ニ慘烈ナル戰闘場裡ニ在リテ克ク勇猛沈著ニシテ自信ト忍耐トヲ以テ事ニ當リ戰闘ノ要求ヲ充足シ得ザルベカラズ

第百三 各兵ハ敵ノ火力盛ニシテ死傷極メテ多キトキト雖モ自己ノ責任ノ重大ナルヲ自覺シ從容自若トシテ事ニ當リ常ニ邁進シ決シテ退走スベカラズ是レ退走ハ敗滅ニ陥リ勝利ハ常ニ猛烈果敢ナル前進ニ依リ得ラルモノナレバナリ

第百四 住民地、蔭蔽地等ノ戰闘ニ在リテハ紛戰ヲ生ズルコト多シ此ノ時ニ當リテハ一兵ト雖モ勇敢ニシテ機宜ニ適スル行動ヲ爲ストキハ能ク全隊戰勝ノ基ヲ開キ得ルコトアリ故ニ各兵ハ指揮及バザル場合ニ於テモ時々刻々變化スル戰況ニ應ジ各所信ヲ決行シ特ニ己ヲ捨テテ他ヲ

勝タシムルノ覺悟アルヲ要ス

第百五 各兵ハ戰線ニ於テ負傷スルモ百方手段ヲ盡シテ戰闘ヲ繼續スペシ而シテ遂ニ戰闘ニ堪ヘザルニ至リ指揮官ノ命アラバ彈薬ヲ戰友ニ渡シタル後徐ロニ戰線ヲ退クモノトス

第百六 數個ノ部隊相混ジ新ニ區分セラレザルトキハ各兵ハ最寄分隊下士官ノ指揮ヲ受ケ奮闘スルコト所屬分隊ニ於ケルガ如クナルベシ

第百七 各兵ハ許可ナク其ノ所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ズ若シ任務ヲ帶ビズ或ハ尙戰闘ニ堪ヘ得ベキ負傷ニシテ恣ニ戰線ヲ去リ又ハ戰闘中命令ヲ受ケズシテ負傷者ヲ介護若ハ運搬シ其ノ他任務ヲ受ケテ一時戰線ヲ離ルル場合ニ於テモ其ノ任務遂行後速ニ復歸セザルガ如キハ卑怯ノ行爲ニシテ軍人ノ本分ニ反スルモノトス

兵員若シ所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ直ニ近傍ニ於テ戰闘スル部

隊ニ合シ其ノ隊長ニ届出テ其ノ命ニ從フベシ而シテ戰闘終レバ速ニ其ノ所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス

第二節 密 集

密集圖

第一百八 分隊ノ密集隊形ハ機銃及側面機銃トス

機銃ノ隊形左ノ如シ

一、密集隊形



分隊下士官

□ 列 個



二、集合、解散、又銃及解銃

集合圖

第一百九 分隊ノ集合及解散ハ徒手教練ニ同ジ但シ又銃シアル場合ノ集合ニ在リテハ又銃ノ位置ニ集リ銃ヲ他ノ又銃ニ寄セ掛ケタル者ハ其ノ銃ヲ取り解散ニ在リテハ各兵ハ之ニ調ルルコトナク解散シ分隊下士官及又銃ノ組ヲ得ザル者ハ通常銃ヲ適宜ノ又銃ニ寄セ掛クルモノトス但シ

一又銃ハ五挺ヲ超ユベカラズ

第一百十 又銃及解銃ハ注目シテ確實ニ之ヲ行フモノトス

又銃

解散及
又銃

解散

又銃

又銃

奇數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシフツ床尾踵ヲ右足尖ヨリ床尾釦ノ約三倍ダケ前ニ出シ兩手ヲ以テ銃ヲ左ノ方ニ懸ク個數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨリ床

尾銃ノ約三倍ダケ前ニ出シ銃身ヲ後ロニシ兩手ヲ以テ銃ヲ右ノ方ニ傾ケ右隣兵ト棚杖ヲ組ミ合ス奇數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上ゲ右足ヲ踏ミ出シ既ニ組ミタル前列兵ノ棚杖ニ組ミ合ハシ床尾踵ヲ左隣兵トノ間ノ中央前ニ置キ銃ヲ組ミ合ハシタル所ヲ前列兵ノ中央ニ在ル如クス

偶數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃身ヲ右斜ニシ左足ヲ踏ミ出シ其ノ照星ノ下ノ所ヲ既ニ組ミタル棚杖ニ寄セ掛け奇數伍ノ後列兵ノ銃ト平行ニス但シ又銃ノ組ヲ得ザル者ハ動作スルコトナシ

著剣シタルトキ又銃ヲ爲スニハ右ノ要領ニ準シ銃ヲ以テ組ミ合スモノトス

第一百十二 又銃ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解ケ銃

偶數伍ノ後列兵ハ左足ヲ踏ミ出シ兩手ヲ以テ其ノ銃ヲ取り其ノ他ノ三名(奇數伍ノ後列兵ヘ)ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ銃ヲ上ゲ靜ニ交叉ヲ解キ不動ノ姿勢ヲ取ル

三、整頓、右(左)向キ、後ロ向キ、行進、隊形變換

換及方向變換

第一百十三 分隊ノ整頓、右(左)向キ、後ロ向キ、行進、隊形變換及方向變換ハ徒手教練ニ同ジ但シ整頓、停止間ノ隊形變換及方向變換ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナシ

四、裝填、拔キ出シ及銃ノ點檢

第一百十四 裝填及拔キ出シハ第八十一、第八十二、第八十三ニ同ジ但シ銃ヲ脊負ヒタル者ハ彈藥包ヲ裝填又ハ拔キ出シタル後冉ビ脊負フモノ

トス

銃ノ點

第一百十五 銃ノ點後ハ殘弾ノ有無又ハ銃ノ状態ヲ檢スル際之ヲ行フ弾薬
包ヲ挿キ出シタルトキハ成ルベク速ナル時機ニ於テ殘弾ノ有無ヲ檢ス
ベシ

第一百十六 銃ヲ點検スルニハ左ノ號令ヲ下ス

（一）（二）（三）

不敵ノ姿勢ヨリ立打ノ姿勢ニ準テ銃ヲ構ヘ尾全ヲ開キ右手ヲ以テ床尾
ヲ握ル且シ點検ノ際ニハ點検ス便ナル如ク銃口ヲ本ツ點検致レバ各自
差控テ後ア前ア引金ヲ引キ第九十一ニ準テ不動ノ姿勢ニ復ス
後此更ニ點検ニシテ約一步五脚ニ距離ヲ置チ點検終レバ定位置ニ復ス

銃

第百十七 住民地、營戦地、後方等ニ於テハ通常密集隊形ヲ以テ突撃リ

銃

五、突撃及追撃

實施ス

此ノ際分隊下士官ハ自ラ率先先頭ニ立チ分隊ハ團結シテ勇猛果敢ニ敵
陣ニ突入スベシ
敵ヲ擊退シタルトキハ敗残兵ノ掃蕩ヲ爲シツツ速ニ猛烈ナル追撃ヲ決
行スベシ

第三節 散開

散開

銃

第一百十八 散開ハ戰闘ノ主要ナル方式ニシテ火力ヲ充分ニ發揚シ且敵
火ノ效力ヲ減殺スルヲ本旨トス突撃モ亦此ノ隊形ヲ以テ行フコト多シ
散開ハ通常有效ナル敵ノ射撃ヲ受ケントスルニ至ルカ若ハ特ニ敵ニ對
シ有效ナル射撃ヲ豫期シ得ルニ至リ行フベキモノトス

第一百十九 散開教練ニ在リテハ散兵ヲシテ耳目ヲ活動シ絶エズ敵兵及指
揮官ニ注意シ、隣兵ヲ顧慮シ、地形ヲ利用シテ行進シ、停止シ、射撃シ、

突撃スルコトニ習熟セシメ且攻撃精神ヲ養成セシムルコト緊要ナリ

第百二十 散兵ハ障碍物ヲ超エ或ハ遮蔽シテ前進シ又ハ身體ヲ屈シテ地形地物ノ利用ニ習熟スルコトニ努ムルヲ要ス

第百二十一 散兵ハ地形地物ヲ充分ニ利用シ其ノ任務ヲ盡スニ便ナル爲必ズシモ整頓、隣兵間ノ距離等ヲ墨守スルヲ要セズ位置、姿勢、歩法及銃ノ使用ニ關シ自由ヲ與フルモノトス又散兵ハ前彈薬盒ヲ左右ニ開キ運動中銃ハ銃口ヲ上ニシ木被ノ所ヲ確實ニ握リテ提ゲ射撃ノ爲停止セバ地形地物ヲ適當ニ選ビ之ニ應ズル射撃姿勢ヲ取り據ルベキ地形地物ナキトキハ通常伏打ノ姿勢ヲ爲シ銃ヲ擊發裝置ニス若シ裝填シアラザルトキハ直ニ裝填ス

方法ノ

第一百二十二 散開ハ諸方向ニ對シ努メテ順序正シク敏活且靜肅ニ行ヒ得

一、散開ノ方法

ルヲ要ス

散開ハ分隊ノ右翼伍ノ前列兵若ハ先頭兵（二列以上ノ側面縱隊ニ在リテハ左側ノ先頭兵）ヲ常ニ基準トシテ行ヒ各散兵ノ横距離ハ情況ニ依リ之ヲ定ムベキモノトス而シテ特令ナケレバ約四步トス

第一百二十三 停止或ハ行進シアル分隊ヲ其ノ位置ニ散開セシムルニハ要スレバ基準兵ノ位置等散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

其ノ場ニ散レ

散兵ハ前彈薬盒ヲ左右ニ開キツツ基準兵ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ又ハ駆歩ヲ以テ指示位置ニ就キ其ノ他ノ兵ハ左圖ノ如ク迅速ニ逐次距離ヲ取リ基準兵ノ線ニ就キテ位置ヲ占メ各兵ハ地形地物ヲ適當ニ選ビ之ニ應ズル射撃姿勢ヲ取ル

左圖以外ノ隊形ヨリ散開セシムルトキハ之ニ準ズ
第二圖 執銃教練 分隊教練

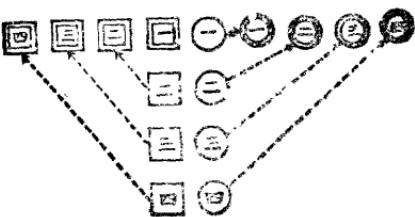
第二圖 執銃教練 分隊教練

六二

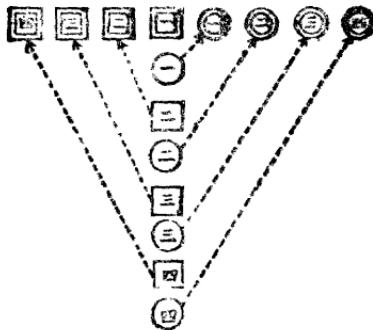
開放 1 = 隊列横



開放 1 = 隊列直列一



開放 1 = 隊列直列二



開放 1 = 隊列直列四



□ □
前散開兵
前利開步
前散開步

○ ○
後列兵
後列開步

第一百二十四 散開後續キテ前進セシムルニハ要スレバ基準兵ノ位置等散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

散チレ

散兵ハ前彈薬盒ヲ左右ニ開キツツ基準兵ハ速歩ニテ真直ニ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ若ハ駆歩ヲ以テ指示位置ニ就キタル後速歩ニテ舊正面ニ向ヒ行進シ其ノ他ノ兵ハ前項ニ準ジ動作シ基準兵ニ準ヒ行進ス
第一百二十五 四歩以外ノ距離ニ散開セシムルニハ「散レ」ノ號令ノ前ニ「(何)歩ニ」ヲ加フ斜方向ニ散開セシムルニハ散開ノ號令ヲ下スニ先チ目標(方向)ヲ示スベシ

二、運動及射擊

第一百二十六 散兵ハ基準兵ヲ、基準兵ハ分隊下士官ヲ基準トシ小隊ノ目標ニ向ヒテ行進ス分隊下士官ハ小隊ノ中央ヲ基準トシ通常分隊ノ中央

前ニ在リテ其ノ部下ヲ誘導ス
分隊下士官ハ絶エズ分隊ノ行進方向ヲ維持シ特ニ戰闘酣ナルニ當リテハ部下ノ誘導方向ヲ誤ラザルコト肝要ナリ
第一百二十七 射撃中ノ散兵ヲ駆歩(早駆)ニテ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
駆歩かく(早駆)

前ヘ

「駆歩」「早駆」ノ號令ニテ散兵ハ銃ヲ安全裝置シ照尺ヲ倒シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ迅速ニ發進ノ準備ヲ整ヘ「前ヘ」ノ號令ニテ直ニ駆歩(早駆)ニテ前進ス但シ此ノ際前進準備ノ爲著シク姿勢ヲ變化シ敵ノ注意ヲ喚起シ無益ノ損害ヲ受ケザルコト肝要ナリ
駆歩若ハ早駆ヲ爲ス場合ニ於テハ劍鞘ケンザイヲ握ラザルモ妨ナシ

速歩ニテ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前ヘ

散兵ハ前項ニ準ジ動作シ速歩ニテ前進ス
射擊シアラザルトキノ發進ハ前項ニ準ジ行フモノトス

第百二十九 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜ニ右(左)ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜ニ左(右)ヘ

第百三十 散兵ヲ退却セシムルニハ「後ヘ」ノ號令ヲ下ス此ノ際散兵ハ速

歩ノ速度ヲ用フルモノトス
ヲ下ス

第百三十一 散兵ヲ射擊ノ爲止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
止レ

散兵ハ常ニ敵方ニ面シ分隊下士官ノ義導ニ依リ第百二十二ニ從ヒ適當
ナル位置ニ最速ニ停止ス

射擊ノ目的ヲ有セズシテ散開セル分隊ヲ止ラシムルニハ「伏セ」(「折敷
ケ」)ノ號令ヲ下ス散兵ハ充分地形地物ヲ利用シテ伏セ(折敷ケ)ヲ爲シ
敵ノ目視ヲ遮クルヲ必要トス

第百三十二 停止或ハ行進間散兵線ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標(方
向)ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス
右(左)ニ向キヲ換ヘ

分隊下士官ハ部下ヲ誘導シ軸翼ニ在ル兵ハ速ニ其ノ位置ニテ新方向ニ
向キヲ換ヘ或ハ新方向ニ向キヲ換ヘ續キテ行進シ其ノ他ノ散兵ハ迅速

ニ新線ニ就キテ停止シ或ハ續キテ行進ス

紀射擊軍

士分隊
下士官
戰官

第一百三十三 射擊軍紀ノ嚴止ハ射擊指揮ノ適切ナルト相待テ射擊ノ效果ヲ偉大ナラシムルモノナリ凡テ射擊軍紀正シキ軍隊ハ敵火ノ下ニ在リテモ其ノ長ノ命令ヲ嚴守シ確實ニ射擊ノ諸法則ヲ實行シ地形地物ノ利用及發射ノ時機ニ注意シ常ニ其ノ指揮官及敵兵ニ留意シ目標消滅スルカ或ハ射擊中止ノ號令アルトキハ直ニ之ヲ中止シ又タヒ混戰亂闘ニ陥リ射擊指揮充分ニ徹底セザル場合ニ於テモ各自ノ思慮ト判断トニ基キ依然射擊ノ效果ヲ維持シ得ルモノナリ

第一百三十四 分隊下士官ハ小隊長ヲ輔佐シ其ノ意圖ノ實行ヲ以テ主要ナル任務トス即チ分隊下士官ハ分隊ヲ指揮スルニ便ナル地ニ占位シ所要ニ應ジ小隊長ノ號令ヲ復令シ分隊ヲ誘導シテ射擊ニ便ナル位置ニ就キテ射擊ヲ行ハシメ且常ニ敵情ニ注意シ隣接分隊トノ連繫ヲ顧慮シ要ス

レバ分隊ノ射擊目標ヲ示シ各兵能ク地形地物ヲ利用スルヤ、能ク射擊ノ諸法則ヲ守ルヤ、能ク指揮官ニ注意スルヤ等ヲ監視スルコト緊要ニシテ尙絶エズ小隊長トノ連絡ニ注意シ要スレバ小隊長ノ號令又ハ命令ヲ隣接分隊ニ傳達スペシ

又必要ト認ムレバ自ラ火線ニ加ハリ射擊ヲ行フベシ

分隊下士官ハ小隊長ノ指示ニ基キ又ハ戰鬪酣ナルニ當リテハ機宜ニ適スル獨斷ヲ以テ分隊ノ運動及射擊ヲ指揮シ或ハ小隊長ニ代リテ小隊ヲ指揮スルコトアリ故ニ地形ノ利用、目標ノ判斷、射彈ノ觀測、距離ノ測定等ニ習熟セザルベカラズ

第一百三十五 射擊ニ當リテハ地形地物ヲ利用シテ火力ノ發揚ヲ計ルベシ
之ガ爲各分隊ハ強テ同一線上ニ在ルヲ要セズト雖モ友隊相互ノ射擊ヲ妨害セザルコトニ留意スルヲ要ス

第一百三十六 分隊下士官ハ豫メ射撃目標ヲ示サレタルトキハ速ニ之ヲ列兵ニ示シ各種ノ時機ヲ利用シテ之ヲ了解セシムルコトニ努メ以テ射撃位置ニ就キタル後迅速ニ射撃ヲ開始シ得ルコト必要ナリ散兵ハ指示サレタル目標中己ニ對向スル部ニ於テ比較的暗黒ナルモノヲ射撃スルモノトス

第一百三十七 射撃ノ職合ハ左例ニ從フ

森ノ右端ヨリ左一軒屋迄ノ散兵

五百

打方始メ

既ニ射撃ヲ開始シタル後前進等ノ爲射撃ヲ中止シ更ニ撃テ失セズ射撃セシムル爲ニハ誤解ナキトキハ目標、照尺等ヲ遠宜省略シ必要ノ事項ノミヲ合スルコトヲ當

「打方始メ」、「打方待テ」又ハ「打方止メ」ヲ令スルニ當リテハ要スレバ之ニ分隊威ヲ冠ス

三、突撃及追撃

第一百三十八 攻撃進捗シ漸次敵ニ近接セバ分隊下士官以下益、沈著シテ其ノ火力ヲ最高度ニ發揚シ適時交互ニ銃剣ヲ著ケ要スレバ手榴弾ヲ準備スルモノトス

突撃ノ令アラバ分隊下士官ハ率先先頭ニ立チ部下ヲ掌摑シテ最勇敢ニ敵陣地ニ突入シ各兵ハ諸々團結シテ全力ヲ揮ヒ勇猛果敢ニ突撃ヲ奮行スペシ

第一百三十九 手榴弾ハ其ノ發行數通常多カラザルヲ以テ必ズ充分ナル效果ヲ豫期シ得ルトキニ於テノミ使用スペキモノニシテ之ヲ最勇ノ突撃ニ用フルハ必ズシモ有利ナラズ寧ロ突入後ノ戰闘ニ之ヲ使用スルヲ有

第二篇 執銃教練 分隊教練

七二

利トスルコト多シ而シテ其ノ何レノ場合ヲ問ハズ手榴弾ヲ以テ戦闘ヲ交ヘタル後突入セントスルガ如キハ概不失敗ニ終ルモノニシテ通常其ノ爆裂ノ瞬時ヲ利用スルヲ可トス

追撃 第百四十 突撃功ヲ奏セバ速ニ猛烈ナル追撃ヲ決行スペシ

集合及併合 四、集合及併合

第百四十一 散開セル分隊ヲ集結スルニハ集合又ハ併合ヲ用ア
集合ニハ第四十三ヲ準用ス

併合セシムルニハ隊形ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス
併セ

各兵ハ各自ノ定位ニ復スルコトヲ求メズ駆歩ニテ分隊下士官ノ許シ
リ示サレタル隊形ヲ取ル

第百四十二 戰闘一段落ヲ告グ情況之ヲ許スニ至ラバ分隊下士官ハ速ニ

分隊ヲ集合スベシ

第三章 小隊教練

第一節 密集

密集隊 第百四十三 小隊ノ密集隊形ハ横隊及側面縱隊トス
横隊ノ隊形左ノ如シ

密集隊

小隊長
 分隊下士官
 小隊長等令



兩翼分隊下士官以外ノ分隊下士官ハ其ノ分隊ノ路中央後ニ位置ス（之ヲ押伍ト云ヒ押伍ト同列ニ在ル列ヲ押伍列ト云フ）

機槍及ユ森ル者ハ機ヲ背後後ニ置ナムモノトス
機銃班隊ニ在リテハ小隊長ハ通常先頭分隊ノ分隊下士官ノ外側ニ機シテ並置ス

第百四十四 全隊ノ集合、解散、又銃、解銃、整頓、右（左）向キ及後ロ向キ、行進、隊形變換、方向變換、銃ノ點検、突擊及追擊ハ左側ノ外分隊或連ニ開ク

空頭ニ於テ「（突擊（西）歩前ヘ）」ノ命令アリタルトキハ兩翼分隊下士官ハ銃ヲ垂ハズレシモ指示歩兵前進ス押伍列ニ在ルモノノ動作ハ後列兵ニ訓行進及停車モミエルニハ「小隊止レ」ノ號令ヲ用フ

第百四十五 密東隊ノ射撃ハ方向目標（要スレバ照準點）姿勢及照尺ヲ合

第二篇 軍械訓練 小隊教練

七六

シタル後開始スルモノトス

射撃姿勢ハ張スレバ前列兵ニ低キ姿勢ヲ取ラシムルコトアリ

伏打ハ通常一列ニテ行フモノトス

「矢打(膝打)の講ヘ」ノ豫令ニテ後列兵ハ約一步左前ニ距離ヲ閉チ「銃」ノ動令ニテ前後列兵共ニ射撃姿勢ヲ取ル

押伍列ニ在ル者ハ立打ニ在リテハ動作スルコトナク膝打(伏打、逆打)ニ在リテハ折敷ケ(伏セ)ヲ爲ス押伍列若シ前方ニ在ルトキハ豫令ニテ後列ノ後方ニ移ル

小隊長及分隊下士官ハ所要ニ應ジ適宜ノ位置ト姿勢ヲ選ビ敵情及列

兵ノ動作ニ注意ス

射撃ヲ止メタルトキハ分隊下士官、押伍列ニ在ル者及後列兵ハ定位置ニ就ク

特種ノ場合ニ於テ一齊打方ヲ用フルトキハ左ノ號令ヲ下ス

發射用意

打テ

「發射用意」ノ號令ニテ据銃、照準ヲ行ヒ「打テ」ノ號令ニテ發射ス

第二節 接敵運動

動機訓練

第一百四十六 小隊敵ニ近接スルニハ努メテ緊縮隊形ヲ用ヒ所要ノ警戒兵ヲ配シ敵ノ認識ヲ避け且敵火ノ損害ヲ減ズル爲極力地形天象等ヲ利用シ要スレバ適宜ノ隊形ヲ取り一意前進ニ努メ我射撃效果ヲ充分發揚シ得ベキ距離ニ到達スルコトニ努ムベシ接敵運動ニ於テ發進停止ニハ通常散兵ニ對スル號令ヲ適用シ各兵ハ正規ノ姿勢及歩法ヲ取ルヲ要セザルモノトス

第百四十七 接敵運動ニ於テ小隊長ハ特ニ步度ノ選擇ニ注意シ或ハ敵火ノ面断ヲ利用シテ一地區ヨリ一地區ニ躍進シ努メテ顯著ナル目標ヲ現ハサザエ知ク其ノ行動ヲ律スルコト極メテ肝要ナリ然レドモ之ガ爲小隊ノ前進運動ヲ堅苦セザルコトニ注意スルヲ要ス

又停止ニ當リテハ小隊長ハ情況、地形ニ適應スル如ク適宜小隊ノ位置、隊形及姿勢ヲ選定スベシ

第百四十八 小隊接敵中情況ニ依リ一部ノ分隊ヲ分離接敵セシムルコトアリ此ノ場合分離セス分隊ハ既ニ小隊ニ擧シ動作スルモノトス

第三節 敵 戰

機動
火線

一、大綫ノ構成

第百四十九 小隊長ハ射撃ヲ開始スルニ先テ大綫ヲ構成ス之ガ屬小隊ハ

機銃火綫ト機銃トニ四分ス

第百五十 大綫ニ用フル兵力ハ當初ハ成ルバク之ヲ確約スルヲ可トシ通常少タモ一ヶ分隊ノ機銃ヲ控置スルモノトス然レドモ情況之ヲ要スレバ初回リ充分ノ火力ヲ火綫ニ配置スルニ躊躇スベカラズ

第百五十一 大綫ヲ構成スルニハ小隊長ハ通常左記順序ノ示シ散開ノ體令ヲ下ス

小隊ノ射撃目標又ハ地域(要スレバ之ヲ各分隊ニ分配ス)

火線ニ出スベキ分隊

基準分隊(要スレバ基準分隊ノ散開位置)又ハ各分隊ノ散開位置

大綫ヲ命ぜラレタル分隊ハ特令ナケレバ右ヨリ分隊番號順序ニ分隊下士官ノ號等ニ依リ散開ス

小隊長ハ機銃ニ行動ノ準據ヲ與ヘ通常機銃ノ長ヲシテ適宜行動をシム

ルモノトス

情況ニ依リ小隊長ハ各分隊下士官ニ火線構成ノ爲必要ナル命令ヲ與ヘ
分隊下士官ノ號令ニ依リ散開セシムルコトアリ

二、運動及射擊

第百五十二 火線ノ運動及射擊ハ小隊長之ヲ指揮ス即チ小隊長ハ射擊目標、照尺、其ノ他所要ノ事項ヲ示シテ射擊ヲ開始シ終始有效ナル射擊ノ持續ニ努ムルト共ニ小隊ノ前進停止ヲ號令シテ成ルベク速ニ敵ニ近接スルモノトス而シテ火線ノ運動及射擊指揮ニ關スル號令ハ分隊教練ニ準ズ

情況ニ依リ小隊長ハ分隊下士官ニ自己ノ意圖ヲ示シ運動及射擊ニ關シ直接其ノ分隊ヲ指揮セシムルコトアリ

第百五十三 火線ノ運動ハ多クノ場合ニ於テ敵ニ向ヒ直進スルヲ有利ト

ス是レ速ニ敵ニ近ヅケバ火器ヲ有利ニ用ヒ且敵火ニ暴露スル時間ヲ減小シ得ルモノナレバナリ然レドモ亦友隊ノ運動及射擊ヲ妨ゲザル限り地形ヲ利用シテ前進スルコトニ顧慮スルヲ要ス

第百五十四 火線ノ歩度ハ駆歩ヲ用フルヲ通常トシ情況ニ依リ早駆ヲ用

フルモノトス然レ共敵ノ有効射程ヲ被ラザル場合ニ於テハ速歩ヲ用フルコトアリ駆歩又ハ早駆ヲ以テ一轍シテ經過スペキ距離ハ十地ノ情況各兵ノ狀態、敵火ノ強弱等ニ依リ一定セズト越モ通常五十米ヲ超エザルテ可トス而シテ前進意図難ナルトキハ更ニ速至難ニ止ムルヲ必要トスルモ過度ニ之ヲ短縮シテ前進ノ氣勢ヲ減殺スルコトナキニ注意スペシリ但シ區分前進ハ前進ヲ緩慢シ或ハ他部ノ射擊ヲ妨グ且指揮ノ統一テ

困難ナラシムルコトアルニ注意スルヲ要ス

區分前進ニ在リテハ小隊長ハ各分隊下士官ニ所要ノ命令ヲ下シ散兵ハ

分隊下士官ノ職令ニ依リ製作ハルモノトス

**第百五十六 敵ノ機械射撃下ニ在リテ一連エ織レル散兵ハ往々其ノ地ニ
開港シ易ク更ニ之ヲ制御セシムルコト困難ニシテ敵ニ近接スルニ從ヒ
益其ノ度ヲ増スモノトス故ニ必要以外ニ長ク停止セシムルコトヲ避ケ
間断ナタ要達スルノ氣勢ヲ保持セシムベシ能ク速戦セラレタル敵ノ射
撃下ニ久シタ停止シ或ハ著明ナル地形地物ノ附近ニ集團スルハ徒ニ多
クノ機会ヲ握クモノナルコトニ警覺セザルベカラズ**

前進ノ時機ハ敵情、地形及友隊ノ情況ニ依リ一樣ナラズト雖モ火力ヲ
以テ敵ヲ制逕シタルトキ或ハ敵ノ自動火器ヲ以テスル射撃ノ間断等激
烈ナル機会既ニ在リテモ其ノ機會少カラダルヲ以テ能ク此等機会ノ間

ニ機会ルコト必獲ナリ

**第百五十七 小銃ノ射撃ハ近距離ニ於テ敵兵ヲ確認シ必ズ充分ナル戦量
ヲ識別シ得ルニ至リ開始スルヲ原則トス**

開港ナル区域ハタトモ敵火ノ下ニ在リテ未だ射撃ノ效果ヲ充分ニ理
知得サヌトキハ其若トシテ僅ニ射撃セザルモノナリ

**第百五十八 射撃ハ己ニ對スル正面ニ爲ステ最容易ナリトシ其ノ左右各
十五度以上ニ偏テ指向シテ射撃スルハ困難ナリ故ニ射撃スル爲ニハ火
線ノ正面ハ目標ニ對スル方向ト成ルベク直角ナラシムルコト肝要ナリ
第百五十九 斜射及側射ハ問題及目標ノ如何ニ拘ラズ直射ニ比シ有効ナ
ルモノトス**

夜間又ハ濃霧煙煙ノ際ノ如キ直接補綴ニ照準シ能ハザルトキニ在リテ
モ照準ヲ設クルカ又ハ統テ地西ト平行ニシ且正確ニ据統スルトキバ正

射擊目

近ノ距離ニ於テ相當ノ效果ヲ收メ得ベク又夜間照明具ヲ使用セバ射擊ノ效果ヲ増大シ得ルモノトス

第百六十 射擊目標ハ最多ク我ニ危害ヲ與フルモノ又ハ速ニ撃滅スルヲ要スルモノノ如キ戰術上ノ價值ニ從ヒ選定スペキモノニシテ通常小隊ノ對向セル部分ヲ射擊スペキモノトス而シテ射擊目標ハ努メテ隣接友隊ノ目標トノ間ニ空隙ヲ生ゼザルコトニ注意スペシ是レ敵ノ一部ト雖モ我射擊ノ制壓ヲ免レシムルトキハ該部ノ敵ハ有效ナル射擊ヲ我ニ向ヒ送ルコト多キヲ以テナリ

第百六十一 射擊目標ハ明確ニ射擊スペキ限界ヲ示シテ誤解ナカラシメ且目標ヲ認メ得ルニ至ラバ爲シ得ル限り射擊開始前鏡メ示シ置クコト緊要ナリ若シ目標ノ指示困難ナルトキハ成ルベク敵襲ニ近キ著明ナル地物ヲ示シテ其ノ補助ト爲スベシ又要スレバ之ヲ基準トシ指幅又ハ照

尺ノ幅等ヲ以テ指示スルヲ司トスルコトアリ

第百六十二 目標ハ敵線ノ著シキ變化又ハ我火線ヲ延伸增加セシトキ等特ニ必要アルニ非ザレバ變換スペカラズ是レ屬目標ヲ換フルトキハ射擊ヲ錯亂スルヲ以テナリ

我ト對戰スル敵ノ後方ニ近ク現出スル部隊等ニ對シテハ銃ヲ指向セザルヲ通常トルモ敵ノ機銃隊、砲隊及密集隊等ノ運動中或ハ陣地進入若ハ撤去等ヲ認ムル場合ニハ機ヲ失セズ小隊長ハ之ニ全部又ハ一部ノ銃ヲ指向スルヲ有利トス

第百六十三 射擊ノ效力ハ射手ノ伎倆、部隊ノ狀態、距離及射擊彈數特ニ射擊指揮ノ適否ニ依リ變化ス其ノ他目標所在ノ地形及距離同一ナルトキハ主トシテ目標ノ高さ、幅、縱長、疎密及明暗ニ關係シ天候、氣象モ亦影響ヲ及ボスコトアリ而シテ射擊ニ關スル諸法則ヲ充分ニ會得

射擊力ノ

シ且正確、迅速ニ距離ヲ測定スルハ射擊指揮ヲ完全ナラシムル基礎ヲ
爲スモノトス
第百六十四・距離ノ測定ハ多クノ場合ニ於テ目測ヲ以テシ尙其ノ近傍ニ
於テ射擊スル部隊ニ之ヲ問ヒ以テ目測ノ補助ト爲スヲ可トス
既ニ射擊ヲ在メ部隊ノ長ハ新ニ戰闘ニ加ハル部隊ノ長ニ其ノ射距離ヲ
告ガルノ義務アリ然レドモ新ニ加ハル部隊ノ長モ亦成ルベク之ニ就キ
射距離ヲ認知スルコトニ努ムベシ

第百六十五・距離目測ニ當リ土地ノ形狀、目標ノ位置、天候、氣象其ノ
他種々ノ現象ハ目測ニ達致ヲ生ゼシムルモノニシテ概ネ左ノ如シ
一、近ク風リ易キ誤合

天候晴朗ナストキ、満手太陽ヲ背ニスルトキ、目標其ノ背後ノ物色
トノ關係ニ依リ鮮明ナムトキ、遮蔽ケル明瞭ナル獨立物體、水面、

岸壁等、測量地、特ニ中國ノ土地ヲ通識シ得ザルトキ

二、遠ク風リ易キ誤合

及據ノトキ、颶子太陽ニ遇スル時モ、日暮時ノ背後ノ棕色トノ關係
ニ依リ鮮明ナラザルトキ、曇天、濃霧、薄暮、森林内及狹長ナル土
地等

而シテ戰闘ニ於テハ目測ハ一般ニ近キニ失シ又延キ姿勢ニ在リテ目測
スルトキハ遠キニ失スルヲ常トス

第百六十六・黑尺ヲ定ムルニハ測定ミテ距離ヨリ氣壓、風等ニ依
リ増減スベキ距離ヲ加減シ以テ集束彈ノ中央部ヲ目標ニ導ク如クスル
ヲ必要トス

目標ニ對スル上下ノ修正ハ通常照尺ノ變換ニ依リテ之ヲ行フモノトス
第百六十七・躍進スル敵ニ對シテハ通常其ノ運動中ニ照尺ヲ換フルコト

第二篇 執銃教練 小隊教練

八八

ナク射撃ヲ繼續シ敵ノ停止ヲ待チテ之ヲ換フルヲ有利トス又前進シ來ル乘馬兵ニ對スルトキハ七百米以内ノ距離ニ在リテハ照尺ヲ換フルヲ要セズ

狹正面ノ目標ニ對シテハ要スレバ左右ニ於ケル照準ノ修正ヲ爲スコト肝要ナリ之ガ爲射線ノ方向ニ關係スル風向、風力等ニ注意スルヲ必要トス

第一百六十八 射撃ハ目標ノ景況、弾薬ノ現數、氣象ノ關係並ニ射手ノ精神狀態、體力及伎倆ニ依リ自ラ速度ニ緩急ヲ生ズルモノナリト雖モ若シ其ノ速度ヲ増減スルノ必要ヲ認メタルトキハ「モット早ク」或ハ「モット遅ク」ノ注意ヲ與フベシ

第一百六十九 一目標ニ對スル射撃ノ效力ハタトヒ同一ナル時ニ在リテモ射擊時間愈短縮スルニ從ヒ益敵ヲ震駭セシムルコトヲ得ベシ然レドモ

此ノ目的ヲ達スルモノハ良好ナル射撃指揮ト嚴肅ナル射撃軍紀トニシテ速度ヲ過度ニ要求スルガ如キハ彈薬ヲ浪費スルニ過ギザルモノトス
第一百七十 敵ノ將校又ハ砲隊ノ觀測所等ヲ發見セルトキハ射擊區域外ト雖モ熟練ナル射手ヲ指命シテ之ヲ狙撃セシムルヲ可トス

第一百七十一 視工難キ目標ヲ射撃スルニ當リ輔助ノ照準點ヲ其ノ目標ニ通ズル標準線上ニ選ブトキハ其ノ照準點ノ遠近ニ關セズ目標ニ到ル距離ニ應ズル照尺距離ヲ用フルモノトス

補助ノ照準點ヲ目標ニ通ズル線ノ上方又ハ下方ニ選ブトキハ其ノ探ルベキ照尺ハ目標ヲ通ズル線ト補助照準點ヲ通ズル線トニテ爲ス角度ヲ目標距離ニ應ズル照尺距離ニ修正シタルモノナルヲ要ス通常使用スル方法ハ騎ヲ充分前方ニ伸シ細キモノヲ指ニテ垂直ニ持チ目標ヲ通ズル線ト補助照準點ヲ通ズル線トニテ爲ス角度ニ應ズル長サヲ測リ補助照

準點目標ノ下方ニ在ルカ或ハ上方ニ在ルカニ健ニ目標距離ニ相當スル照尺分量ニ其ノ測定修正置ヲ加ヘ或ハ減ジテ採用照尺距離ヲ定ム
第百七十二 射撃效果ノ觀察ハ最必要ナリ而シテ絶エズ彈著ヲ觀測シ且敵ノ狀態ヲ観察スルトキハ之ニ依リテ射撃指揮ヲ適當ナラシムルコトヲ得セモノトス

低キ目標ニ對シテハ幾側シ尋々彈著ノ約二分ノ一ヲ、高キ目標ニ對シテハ約三分ノ一ヲ當參ノ直前ニ認ムルヲ得バ其ノ射撃ハ通常良好ノ状態ニ在ルモノトス然レドモ彈著ノ誤差ハ目標所在地ノ地形、地質其ノ地ノ關係、該地彈著アルモノシテ少數ノ彈著ヲ特ニ良ク觀測シ得ル場合ニハ判斷ヲ誤リ易ク又長地端ニ對スル射撃ニ當リテハ目標射線ノ彈著ノミヲ觀測シ得ルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

第百七十三 戰闘間小隊長ノ觀命令ノ適時各分隊ニ徹底スルト西トハ

戰闘ノ實施ニ至大ノ關係ヲ有ス之ガ爲小隊長ハ部下ノ掌握ニ努力ベシト雖モ小隊長傳令ノ活動ト各分隊下士官ノ注意トニ依ルコト甚大ナルモノトス

又小隊長ト遠隔セル分隊へ要スレバ其ノ中間ニ傳令ヲ配スベシ

第百七十四 戰闘間小隊長ハ小隊ヲ指揮スルニ便ナル位置ニ占位シ部下ヲ監視シ且常ニ敵情ニ注意シ彈著ヲ觀測シ戰況及地形ヲ顧慮シテ小隊ノ運動及射撃ヲ適切ナラシメ又中隊長トノ連絡ニ注意シ隣接小隊ト協力スルコトニ努ムベシ

第一線ニ在ル小隊長へ能ク敵情地形ニ應ジ占有シ得ベキ利益ヲ看破シ得ルコト多キヲ以テ其ノ任務ヲ實行スルト共ニ戰況ニ應ジ獨斷事ヲ處スルコトニ熟練セザルベカラズ

第百七十五 彈藥ヲ適當ニ節用シ緊要ノ時機ニ臨ミ效果ヲ收ムルニ必要

ナル弾薬ニ不足ナカラシムルハ特ニ注意スペキ所ナリ

之ガ爲小隊長ハ要スレバ其ノ使用ヲ制限シ又ハ死傷者ノ弾薬ヲ集メ之ヲ他ニ補充スル等機宜ノ處置ヲ講シ且戰闘間適時弾薬ノ現在數ヲ中隊長ニ報告スベシ

三、援 隊

第百七十六 援隊ノ用途ハ主トシテ大線ヲ増加シ又ハ突撃ニ際シ斬銃ノ威力ヲ加アルニ在リ

援隊ハ又主參ノ機首ヲ警戒スペキモノトス

第百七十七 援隊ト火線トノ距離ハ戰況ト地形トニ依リ定ムベキモノニシテ其ノ主トスル所ハ機テ失セズ小隊長ノ使用ニ應ジ得ルニ在リ之ガ爲ニハ距離ヲ短縮スルヲ必娶トス然レドモ敵火ノ損害ヲ少クスルコトモ亦顧慮セザルベカラズ

第百七十八 援隊ハ通常其ノ先任分隊下士官之ヲ指揮ス

援隊ハ指揮掌權ニ便ニシテ且敵火ノ損害ヲ減ズル隊形及運動ヲ以テ火線ニ從フモノトス

第百七十九 援隊ノ長ハ現在ノ戰況、火線ノ使用、照尺距離等ニ注意シ必要ナル事項ヲ援隊ニ示シ置クヲ可トス

第百八十 援隊ノ長ハ命令ニ應ジテ直ニ火線ヲ増加シ又ハ突撃ヲ援助シ得ンガ爲敵情及火線ノ情況ニ適應スル如ク援隊ヲ誘導シ成ルベク小隊長ヨリ通視セラル所ニ位置シ要スレバ中間ニ傳令ヲ配置シ確實ニ小隊長ト連絡ヲ保ツベシ

第百八十一 小隊長ハ所要ニ從ヒ援隊ヲ火線ニ増加シ適當ニ我火力ノ維持増大ヲ計ラザルベカラズ然レドモ如何ナル場合ニ於テモ必要以外ニ火線ヲ濃密ナラシメザルコト及敵火ノ爲多大ノ損害ヲ蒙リタル部分ニ

直ニ捕獲スベキヤ或ハ之ヲ他ノ部分ニ使用シテ情況ヲ發展セシムベキヤ等ヲ顧慮スルコト必要ナリ

第一百八十二 援隊ヲ火線ニ増加スルニハ小隊長ノ命令ヲ以テ通常翼側ニ延伸ス然レドモ已ムヲ得ザルトキハ伍間ニ増加ス

伍間増加ニ在リテハ分隊下士官ハ成ルベク速ニ新ニ其ノ部下ヲ區分スベシ

第一百八十三 援隊ヲ新ニ火線ニ増加スルニ當リ要スレバ之ヲシテ火線ニ對シ彈薬ノ補充ヲ行ハシムルヲ可トスルコトアリ

第一百八十四 小隊長ハ一度援隊全部ヲ使用シタル後ト雖モ情況之ヲ許スニ至ラバ改メテ援隊ヲ設クルヲ可トス

四、突撃及追撃

突撃 第百八十五 戰闘漸次進捗シテ敵ニ近迫スルニ從ヒ小隊長ハ逐次突撃準

備ヲ整フベシ即チ敵陣地ノ情況ヲ詳ニ偵察シ特ニ我突撃ヲ最妨害すべき敵機銃ノ位置及狀態、障礙物ノ程度ヲ確メ要スレバ之ガ制壓破壊ノ手段ヲ盡シ且敵陣地ノ弱點ヲ看破シ突撃路ニ應ジ適切ナル計畫ヲ立て突撃ノ部署ヲ定ムル等情況ニ適應スル如ク諸種ノ手段ヲ講ズベシ

第一百八十六 敵陣地ニ突入後ハ往々小隊長ノ命令適時ニ各分隊ニ到達セザル事アルヲ以テ突撃實施ニ先チ小隊ノ前進方向、各分隊ノ奪取スベキ目標、其ノ他自己ノ意圖ヲ各分隊下士官ニ示シ以テ適切ナル獨斷專行ノ準據ヲ與フベシ

第一百八十七 突撃ノ實施ハ各部隊連繫シテ行フヲ要ス之ガ爲突撃ハ通常中隊長ノ命ニ依リ行フモノトス然レドモ好機ノ乘ズベキモノアラバ第一線ノ各小隊長ハ獨斷之ヲ決行スベシ

第一百八十八 突撃實行ニ當リ小隊長ハ自ラ率先先頭ニ立チ小隊ハ團結シ

ヲ勇猛果敢ニ敵陣ニ突入スベシ

突入後ハ通常到ル所ニ紛戦格闘ヲ生ズルヲ以テ小隊長以下能ク團結シ不屈不撓勇敢ナル突撃ト猛烈ナル射撃トヲ反復シ敵陣内ノ状態ヲ看破シ各部ノ抵抗ヲ排除シ若シ一部ニ抵抗ヲ持續スル敵アラバ一部隊ヲ以テ其ノ翼側ニ迫ラシメ主力ハ其ノ方向ヲ保チテ專心突進シ友隊ト協力シテ敵ヲ全滅スルコトニ努ムベシ

第百八十九 小隊長ハ住民地、蔭蔽地ニ在リテハ情況ニ應ジ銃ヲ安全裝置ニスルコトナク警戒姿勢ノ後突撃ヲ實施セシムルコトヲ得ルモノトス

第百九十 突撃功ヲ奏セバ速ニ轉速ナル運動ト猛烈ナル射撃トニ依リ敗退セル敵ヲ急追スベシ

ス

集合及併合

第四節 集合及併合

第百九十一 戰闘中ノ集合及併合ハ分隊教練ニ準ズ各分隊ハ駆歩ニシ小隊長ノ許ニ到リ號令ニ集合シ又ハ示サレタル隊形ニ併合ス

第四章 中隊教練

第一節 審 算

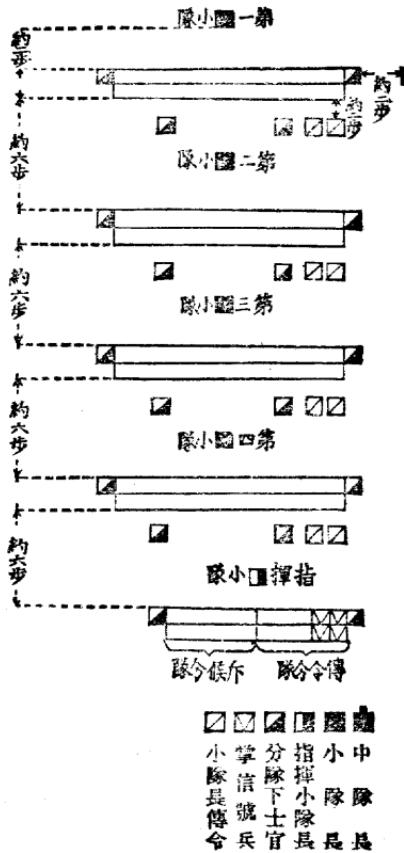
第百九十二 審集隊形ハ軍隊ノ團結力ヲ維持シ指揮掌握容易ナリ故ニ敵火ノ效力甚ダシカラザル場合ニハ旁メテ此ノ隊形ヲ用フベシ特ニ住民地、蔭蔽地、夜間ニ在リテハ多ク此ノ隊形ヲ以テ突撃ヲ實行スルモノ

審 算

形圖集解

第百九十三 中隊密集教練ニ在リテハ小隊長ハ其ノ小隊ノ爲スペキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ゲナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ小隊ノ動作ヲ監視スルモノトス
第百九十四 中隊ノ密集隊形ハ通常中隊縱隊、併立縱隊及側面縱隊トス
 中隊縱隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ用ヒ併立縱隊、側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

第百九十五 中隊縱隊ノ隊形左ノ如シ



要スレバ 中隊長ハ六歩ノ距離ヲ伸縮シ又小隊ノ順序ニ拘ラズ重疊シ或ハ指揮小隊ノ位置ヲ適宜定ムルコトヲ得其ノ他ノ隊形ニ在リテモ亦之ニ準ズ

第百九十六 併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面ニ向ケタルモノ、側面縱隊ハ側面ニ向キタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四列トス但シ左ヲ向キ併立縱隊ヲ作リタル場合各小隊ハ齊頭トナル爲特ニ位置ヲ變ズルコトナシ

併立(側面)縱隊ニ在リテハ中隊長ハ通常左(先頭)小隊ノ小隊員ノ外側二歩ノ廣ニ位置ス

特ニ必要ナル場合ニハ横隊ヲ作ル横隊ハ各小隊ヲ一線ニ併列シタルモノトス

第百九十七 中隊ノ集合、解散、又統、解統、整頓、右(左)向キ及後ロ

向キ、行進、隊形變換、方向變換、裝填、抜キ出シ、銃ノ點檢、突擊及追擊ハ特ニ規定スルモノノ外小隊教練ニ同ジ

第一百九十八 中隊ノ集合ニ在リテハ「集レ」ノ號令ニテ先頭小隊ノ右翼分隊下士官ハ速ニ中隊長ノ通常約六歩前ニ來リ其ノ他ノ者ハ之ヲ基準トシテ中隊縱隊ノ定位ニ就キ體頸ス

第一百九十九 中隊縱隊ノ號令ニ於テハ後方小隊ノ嚮導ハ前方小隊ヨリ規定ノ距離ヲ取り且前方小隊ノ嚮導ニ重ナルモノトス

中隊縱隊ニ於テ「嚮導(向)歩調ヘ」ノ號令アリタルトキハ先頭小隊ノ兩翼分隊下士官ノミ指示歩調前進ス

第二百 中隊ノ行進ニ於テ中隊縱隊ニ在リテハ後方小隊ノ嚮導ハ其ノ前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ常ニ規定ノ距離ヲ保ツベシ
併立縱隊ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示シ且要スレバ其ノ小隊ノ嚮導ノ

行進目標ヲ示スモノトス行進間他小隊ノ嚮導ハ正シキ關係位置ヲ保ツ
爲頭ヲ左右ニ廻スヲ妨ゲズ

第二百一 行進間停止セシムルニハ「中隊止レ」ノ號令ヲ用フ

**第二百二 中隊ノ隊形變換ニ於テ側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ「中隊縱隊作れ 進メ」ノ號令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ第
五十九ニ準ジ先頭ニ在ル分隊下士官ハ動カザルカ或ハ續キテ行進シ先頭小隊ノ各兵ハ伍ヲ解キ近道ヲ經テ横隊ヲ作り右隣兵ニ整頓スルカ或ハ續キテ行進シ後方小隊ハ先頭小隊ニ準ジテ小隊毎ニ横隊ヲ作りツツ規定ノ距離ヲ取リテ停止シ整頓スルカ或ハ續キテ行進ス**

側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ「側面縱隊作れ 進メ」ノ號令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カザルカ或ハ續キテ行進シ後方小隊ハ右方ニ規定ノ距離ヲ得ル如ク進出シテ停止スルカ

或ハ續キテ行進ス

横向變換

纵向變換

第二百三 中隊ノ方向變換ニ於テ中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「右(左)に向きを換へ 進メ」ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換ヘ後方小隊ハ半バ左(右)ヲ向キ各兵各自ニ己ノ占ムベキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス行進間ニ在リテハ停止間ニ準ジ先頭小隊ハ駆歩ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ新方向ニ行進シ後方小隊ハ先頭小隊ト同所ニ到リ號令ナクシテ先頭小隊ニ準ジ方向ヲ換ヘツツ先頭小隊ニ續行ス中隊長ハ先頭小隊ノ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ要スレバ嚮導ヲ示ス

併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「右(左)に向きを換へ 進メ」ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ組々右(左)ヲ爲シ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サダケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次

其ノ齊頭面ニ到リテ停止ス、行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ行進シ其ノ他ノ小隊ハ駆歩ヲ以テ逐次其ノ齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

第二百四 銃ノ點検ノ際點検ハ通常小隊長ヲシテ實施セシム

突撃 第二百五 中隊突撃ヲ爲ストキハ中隊長ハ適宜各小隊ヲ部署シ擧信號兵ハ晝間ニ在リテハ突撃諸ヲ連携ス敵ヲ擊退スルヤ速ニ猛烈ナル追撃ヲ行フベシ

第二節 攻撃

四 種

第一種

砲ノ掩護射撃等ヲ利用シ以テ速ニ敵ニ近接スルニハ努メテ緊縛ナル隊形ヲ用ヒ所要ノ搜索及警戒ノ處置ヲ講ジ爲シ得ル限リ地上及空中ノ敵ノ認識ヲ遙ケ且敵火ノ損害ヲ減少セシガ爲地形、天候等ヲ利用シ隊形ヲ選擇シ又巧ニ我艦

第二百六 中隊敵ニ近接スルニハ努メテ緊縛ナル隊形ヲ用ヒ所要ノ搜索及警戒ノ處置ヲ講ジ爲シ得ル限リ地上及空中ノ敵ノ認識ヲ遙ケ且敵火ノ損害ヲ減少セシガ爲地形、天候等ヲ利用シ隊形ヲ選擇シ又巧ニ我艦

第二百七 中隊敵ニ近接半地形其ノ他ノ利用スペキモノナク敵ノ有效ナル砲撃ヲ被ラントスル裏アリ場合ハ小隊間ノ統率ノ距離ヲ離キテ前進スルヲ有病トス

此ノ場合小隊ノ配置ヲ如何ニスペキヤハ主トミテ精來ノ展開ヲ繼續シテ決定スペキモノニシテ各小隊間ノ縱横ノ距離ハ地形及敵火ノ情況ニ應ジ速宣伸縮スペキモノナリト雖モ特令ナケレバ約百米トス

第二百八 各小隊間ノ距離ヲ開キテ前進スルニハ中隊長ハ各小隊ノ關係位置、基準小隊及其ノ行進目標(方向)ヲ指示ス

各小隊ハ小隊長ノ誘導ニ依リ通常側面縱隊ヲ以テ互ニ能ク連繫ヲ保チ

フツ前進ス

第二百九 各小隊間ノ距離ヲ開キタル後ハ中隊ハ通常中隊長ノ命令ニ依

リ小隊長ノ號令ヲ以テ動作シ停止ニ當リテハ小隊長ハ情況、地形ニ適應スル如ク適宜小隊ノ位置、隊形及姿勢ヲ選定スペシ
第二百十 中隊敵ニ近接中中隊長ハ爲シ得ル限り斥候ヲ派遣シテ攻撃ノ爲必要ナル資料ヲ收集シ以テ爾後ノ展開及戦闘指揮ヲ容易ナラシムルコト繁要ナリ

第二百十一 中隊長ハ戦闘開始ニ先チ其ノ正面ニ中隊ヲ展開スペシ展開テ行フニハ中隊ヲ第一線ノ小隊ト豫備隊トニ區分ス而シテ第一線ニ幾何ノ小隊ヲ出スベキヤハ情況ニ依ルベキモノナレドモ通常少クモ一小隊ノ豫備隊ヲ控置スベキモノトス

第二百十二 展開ヲ行フニハ中隊長ハ爲シ得レバ各小隊長ヲ集メ現地ニ就キ現在ノ情況及中隊ノ攻撃スペキ目標、第一線ニ出スベキ小隊、豫備隊及各小隊ノ關係位置並ニ要スレバ基準小隊ヲ示スベシ情況ニ依リ

各小隊ニ射撃スペキ目標又ハ區域ヲ示スヲ可トスルコトアリ

攻撃目標ヲ指示スルニハ通常自視シ得ル第一線ト爾後攻撃シテ到達スベキ地點トヲ以テスルモノトス

第二百十三 展開ハ停止間ト行進間トヲ間ハズ展開スペキ小隊ヲ前方ニ進メテ行フヲ有利トス何レノ場合ニ於テモ展開スル正面ヲシテ攻撃方向ト直角ナラシムルヲ要ス

第二百十四 戰闘間各部ノ連絡確實ナルハ最繁要ナリ之ガ爲要スレバ展開ニ當リ中隊長ハ小隊長トノ間ニ所要ノ連絡法ヲ講ズベシ
 中隊長ト小隊長トノ間ノ連絡ハ主トシテ指揮小隊之ニ任ズベシト雖モ要スレバ各小隊長モ亦必要ナル人員ヲ配シ之ガ確シヲ期スルコト肝要ナリ又中隊長ハ大隊長及隣接部隊特ニ機銃隊トノ連給ニ關シ充分注意スルヲ要ス

中隊長
位置圖

中隊長
間接圖

第二百十五 戰闘間中隊長ノ位置ハ敵情ヲ察知シ各小隊ヲ統一指揮シ得ルテ主眼トシテ選定スベシト雖モ各部トノ連絡ニ便ニシテ隣接部隊ノ情況ヲ観察シ得ルコトモ顧慮スベシ

第二百十六 中隊長ハ絶エズ敵情ニ注意シテ乘ズベキ弱點ヲ看破シ機ヲ失セズ之ヲ第一線小隊ニ利用セシムルノミナラズ所要ニ應ジ隣接部隊及機銃ノ行動特ニ其ノ射撃ニ關シ小隊長ニ通知シ各小隊ノ行動ヲシテ密接ニ之ニ連繫セシメ又情況ノ變化ニ應ジ要スレバ第一線小隊ニ射撃スペキ目標ヲ示シ或ハ小隊ノ運動ヲ視正スル等敵ニ近ヅキ前進愈困難ナルニ從ヒ益各小隊ノ指導ヲ適切ニシ以テ自己ノ意圖ノ如ク戰闘シ得シムルコト緊要ナリ

第二百十七 中隊長ハ戰闘間情況特ニ地形之ヲ許セバ努メテ包囲ヲ行フベシタトヒ包囲ヲ行フ能ハザル場合ニ於テモ斜射、側射ヲ有效ニ利用

調査

シ射撃ニ依ル包囲的效果ヲ獲得スルコトニ努ムルヲ要ス

第二百十八 戰闘間中隊長ハ部下中隊ヲシテ彈薬ヲ節用セシムルト共ニ之ガ補充ヲ適切ナラシムルコトニ關シ絶エズ注意ヲ怠ラザルコト必要ナリ之ガ爲情況特ニ之ヲ要スレバ豫備隊ノ彈薬ヲ第一線小隊ニ補充スルコトアリ

中隊長ハ戰闘間彈薬ノ現在數ヲ遼時大隊長ニ報告スベシ

警備隊

第二百十九 警備隊ノ用途ハ之ヲ適當ニ使用シテ狀況ノ變化ニ應ゼシメ或ハ第一線ヲ增加シ之ヲ推進シ又ハ戰果ノ擴張ニ任ジ若ハ敵ノ攻擊ヲ受クル懸念アル側面及背面ヲ掩護スルニ在リ特ニ中隊長ハ戰況ニ應ジ機ノ乗ズベキモノアラ豫備隊ヲ機動的ニ使用シ敵ノ意表ニ出テ其ノ弱點ヲ衝クコト肝要ナリ

第二百二十 中隊長ハ情況ノ許ス限リ常ニ若干ノ豫備隊ヲ手裏ニ存置ス

第二篇 執銃教練 中隊教練

一一〇

ルコトヲ努ムベシ故ニタヒ豫備隊ヲ使用シ盡シタル後ト雖モ情況之ヲ許サバ直ニ豫備隊ヲ設ケ爾後ノ戰闘ニ備フルコト必要ナリ

第二百二十一 豫備隊ノ長ハ命令ニ應ジ直ニ豫備隊ノ使用ニ支障ナカラシムルコトニ注意スルヲ必要トス之ガ爲絶エズ戰況ト地形トヲ顧慮シ依托ナキ側背ニ斥候ヲ出しシ搜索警戒ニ任ゼシメ中隊長ト確實ニ連絡ヲ保チ其ノ意圖ニ從ヒ豫備隊ノ位置及運動ヲ定メ特ニ地形ヲ利用シ隊形ノ選擇ヲ適切ニシ爲シ得ル限り敵眼及敵火ノ損害ヲ避クルコトニ注意スルヲ必要トス又豫備隊ノ長ハ常に現在ノ戰況ニ注意シ必要ナル事項ヲ豫備隊全部又ハ幹部ニ示シ置クヲ要ス

第二百二十二 豫備隊ヲ第一線ニ増加スルニハ中隊長ノ命令ニ依リ通常所屬小隊長ノ指揮ヲ以テ火線ヲ構成セシム此ノ場合ニ於テハ努メテ第一線ニ在ル小隊ノ間ニ挿入シ若ハ其ノ翼側ニ延伸スルコトヲ計ルベシ

ト雖モ他ノ小隊ト混ジタル場合ニハ各小隊長ハ成ルベク速ニ新ニ其ノ部下ヲ區分スベシ

第二百二十三 戰闘ノ進捗ニ伴ヒ逐次突擊ノ爲唔準備ヲ整ヘ火力ヲ以テ敵ヲ震駭セシメ第一線ノ各小隊ヲシテ連繫アル突擊ヲ斷行セシムルハ中隊長ノ重大ナル責務ナリ

第二百二十四 戰闘ノ進捗ニ伴ヒ中隊長ハ益敵陣ノ情況ヲ詳ニ偵察シ我突擊ヲ妨害スベキ敵ノ機銃、毒瓦斯ノ設備又ハ破壊ヲ必要トル障礙物ノ位置ヲ確メ機ヲ失セズ之ヲ大隊長、隣接部隊及附近ニ在ル機銃隊ニ通報シ特ニ敵ノ弱點ヲ看破シ適時各小隊長ニ奪取スベキ目標、突入後ノ前進方向等自己ノ企圖ヲ明示シ所要ニ從ヒ豫備隊ノ一部ヲ第一線ニ增加シ、部下諸隊ノ配置ヲ定メ、障碍物ノ破壊ヲ命ジ突擊路ヲ配當スル等情況ニ應ズル如ク逐次諸準備ヲ完了スルヲ必要トス

第二百二十五 障碍物ヲ破壊スルニ當リテハ夜間等視界小ナル時機ヲ選ビ勢メテ地形地物ヲ利用シテ之ニ近接シ成ルベク隠密ニ作業スルヲ可トスレドモ要スレバ射撃ヲ以テ掩護スルカ煙幕等ヲ以テ遮蔽スル等ノ手段ヲ講ズベシ

突撃路ハ多クノ場合少數ヲ完全ニ破壊スルヨリモ不充分ナルモ其ノ數ノ多キヲ有利トス

第二百二十六 突撃ノ實施ハ友隊トノ連絡持ニ肝要ナリ然レドモ苟モ好魔ノ乗スベキモノアラバ直ニ突撃サ決行スベシ之ガ爲中隊長ハ能ク情況ヲ判斷シ好機ヲ看破スルニ努ムルコト肝要ナリ

第二百二十七 突撃實行ニ當リテハ中隊長ハ中隊ノ全力ヲ揮ヒテ最勇猛果敢ニ敵陣ニ突入スベシ

中隊敵陣ニ突入セバ第一線小隊ハ敵ヲシテ抵抗ノ餘裕ナカラシムル如

ク猛烈果敢ニ敵陣深入シ中隊長ハ盡備隊ヲ以テ機ヲ失セズ第一線小隊ノ獲得セル戰果ヲ擴張シ一舉ニ敵陣ヲ突破スルコトヲ計ルベシ此ノ際友隊ノ協力ハ勢ヒ充分ナル能ハザルベキモ中隊長ハ斷乎タル決心ヲ以テ飽クマデ猛烈ナル突撃ト射撃トヲ反復シ爲シ得ル限り部下ヲ掌握シテ敵ノ逆襲ヲ撃退シ要スレバ一部ヲ以テ尙我側背ニ在リテ抵抗ヲ持續スル敵ヲ掃蕩セシメ主力ヲ以テ速ニ敵陣ノ後端ニ突入スベシ
敵陣内ニ在リテハ特ニ行進方向ノ維持、各部隊間ノ連絡困難ナルモノトス故ニ各種ノ手段ヲ講ジ連絡ヲ確實ニシ又行進方向ヲ覗ラザルコトニ注意スルコト必要ナリ之ガ爲此ノ時期ニ於ケル指揮小隊ノ適切ナル活動ヲ最緊要トス

第二百二十八 突撃順序シタルトキハ毫モ之ニ屈スルコトナク中隊長以下沈着シテ占領セル位置ヲ確保シ遇ニ氣勢ヲ回復シ勢勢ヲ整ヘ百方半

第二篇 執銃教練 中隊教練

一一四

段ヲ盡シテ所期ノ目的ヲ達スル迄突撃ヲ復行スペシ苟モ死力ヲ盡シテ奮戦セバ如何ナル敵ト雖モ之ヲ敗滅ニ陥ラシムルコトヲ得ルモノナリ
第二百二十九 慘烈ナル戰況ニ下ニ在リテハ屢幹部ヲ失フコトアリ此ノ際ニ於テモ各隊ハ混亂ヲ來スコトナク順次指揮ヲ繼承シ飽クマデ奮闘セザルベカラズ

第二百三十 中隊彈薬ヲ使用シ盡シタルトキハ格闘ヲ以テ敵ヲ擊滅スルコトニ努ムベシ

第三節 防 禦

第二百三十一 防禦ニ在リテハ中隊長ハ全般特ニ隣接部隊トノ關係ヲ顧慮シ任務ニ適合スル如ク兵力ヲ適切ニ配備シ地形ヲ利用シ死角ヲ作ラザルコトニ注意シ有效ニ障碍物ヲ利用シ火力ノ發揚ト逆襲トニ依リ敵ク準備スルコト肝要ナリ

第二百三十二 中隊ヲ配備スルニハ中隊長ハ搜索及警戒ノ爲所要ノ處置ヲ講ジ情況ノ許ス限り縝密ニ地形ヲ偵察シテ計畫ヲ立て配備ヲ決定シ通常各小隊長ヲ集メ現地ニ就キ自己ノ企圖特ニ火力配置ニ關スル一般計畫、比隣部隊トノ關係、第一線ニ出スベキ兵力、其ノ配置スベキ區域及射撃區域、豫備隊ノ配備、工事並ニ連絡ニ關スル處置等ヲ令シ小隊長ヲシテ各其ノ小隊ノ配備ヲ實施セシム

中隊長ハ爾後勞メテ自ラ第一線ヲ巡視シ要スレバ其ノ配備ニ修正ヲ加ヘ又ハ各小隊内ノ配備ニ關シ詳細ナル指示ヲ與ヘ其ノ完全ヲ期スルコ

ト肝要ナリ情況ニ依リ中隊長ハ各小隊ヲシテ先ヅ其ノ占ムベキ位置ニ就カシメ逐次命令ヲ籠足シ以テ配備ヲ完成スルヲ必要トスルコトアリニ依リ隣接部隊ノ戰況不利ナル場合之ニ應ズル爲使用スルモノトス情況ニ其ノ用途ニ適スル如ク地形ヲ利用シテ配置シ且之ガ爲必要ナル設備ヲ爲サシムルモノトス

火力配

第二百三十四 中隊ノ火力配置ハ能ク地形ヲ利用シ正面射ニ適宜斜射、側射ヲ配合シテ陣地前ニ調密ナル火網ヲ設ケ全火力ヲ最有效ニ發揚スル者以テ要旨トス

正面射ノ爲ニハ第一線小隊ノ小銃ヲ用ヒ斜射、側射ノ爲ニハ主トシテ配屬サレタル輕機銃若ハ機銃ヲ用ヒ又ハ小隊一部ノ火力ヲ他ノ小隊ノ前地ニ指向スルモノトス但シ小隊相互ノ協力ニ偏重スルトキハ戰闘指

揮ヲ著シク困難ナラシメ且小隊當面ノ防禦ヲ薄弱ナラシムルヲ以テ注意スルヲ要ス而シテ中隊ノ火力配置ハ敵兵我陣地ニ近接スルニ從ヒ益我射擊威力ヲ盛ナラシメ得ル如ク定ムルコト聚要ナリ

小隊ノ火力配置ノ要領亦右ニ準ズルモノトス

第二百三十五 小隊長ハ中隊長ノ命令ニ基キ情況ノ許ス限リ縝密ニ地形ヲ偵察シ小隊ノ配備ヲ決定シ火線ニ出スベキ分隊、其ノ占領スベキ位置及射擊區域、援隊ノ配置、工事ニ關スル事項等ニ關シ現地ニ就キ分隊下士官ニ命令ヲ與フ

火線ハ適宜分隊毎ニ縱横ニ分置シテ敵火ノ損害ヲ減少スルコトヲ顧慮スベキモ過度ニ分置シテ分隊相互ノ連繫及小隊長ノ指揮掌握ヲ害スルコトアルベカラズ

援隊ノ爲ニハ火線ノ補填ト逆襲トニ便ナル如ク其ノ位置ヲ選定シ且所

備隊

要ノ位置ニ射撃設備ヲ施スベシ

書戒兵

第二百三十六 中隊長ハ敵情地形ヲ捜索スル爲斥候ヲ派遣シ又敵ノ搜索ヲ妨害シテ我陣地ヲ祕匿シ且敵情ノ監視ヲ繼續スル爲陣地ノ前方ニ一個又ハ數個ノ警戒兵ヲ配置スルヲ通常トス
警戒兵ノ兵力ハ通常一ヶ分隊以内ヲ以テ足レリトシ又其ノ配置スベキ位置ハ情況特ニ地形ニ依リ定ムベキモ主陣地ト密接ナル連繫ヲ保持シ得ルニ顧慮スルヲ要ス
警戒兵撤退ノ時機、撤退路等ニ關シテハ中隊長ハ明確ニ指示スルコト必要ナリ

工事

第二百三十七 工事ハ通常中隊長之ヲ統一計畫スベキモノニシテ中隊全般ノ陣地ハ勿論各小隊ノ陣地ニモ獨立性ヲ附與スル如ク障礙物ノ設置、火線ノ位置、交通壕ノ經始等ヲ定メ且適宜作業力ノ安排ヲ爲シ工キモノトス

事ノ進捗ヲ情況ニ適合セシメ以テ時間、材料ノ許ス限リ戰闘力ノ増進ニ努ムベシ

小隊長ハ通常中隊長ノ工事ニ關スル命令ニ基キ小隊ノ工事ヲ實施ス即チ小隊長ハ陣地ノ經始ヲ定メ作業ノ方法ヲ示シ工事ノ實施ヲ指導スベキモノトス

此ノ場合適切ナル經始及偽裝ノ利用等ニ依リ地上及上空ノ敵ヲシテ陣地タルコトヲ察知シ難カラシムルノ注意ヲ必要トス又小隊長ハ射界ヲ清掃シ且主要ナル地點ニ到ル距離ヲ測定シテ之ヲ標示シ或ハ前方ノ要點ニ簡單ナル名稱ヲ附シテ目標ノ指示及理解ヲ迅速ナラシムル等射撃指揮ヲ容易ナラシムル爲有ラユル手段ヲ講ズベシ

敵ハ煙幕ニ蔽ハレテ近迫シ來ルコトアリ故ニ斯ノ如キ顧慮アル場合ニ於テハ之ニ對スル射撃ノ設備ヲ施シ置クヲ要ス

第二百三十八 敵兵未ダ我射程ニ近接セザル間ハ守兵ヲ掩蔽下ニ入ラシメ以テ配備ヲ祕匿シ且敵火ノ損害ヲ避クルニ努ムルヲ要ス然レ共此ノ間各部隊長ハ自ラ敵情ヲ監視シ且所要ノ監視兵ヲ殘シテ敵情ヲ監視ニ任ゼシムベシ此ノ場合ニ於ケル更に硝ノ利用ハ其ノ效果大ナルモノトス

防禦圖

ス

第二百三十九 敵兵我陣地ニ近接セバ中隊長ハ速時守六ヲ陣地ニ配備シ其ノ有效射程内ニ進入スルニ及ビ小隊長ハ適時小隊ノ射撃ヲ開始ス敵兵益近接スルニ從ヒ守兵ハ一層沈著シテ敵撃威方ヲ熾烈ナラシメ以テ敵ヲ我陣地前ニ撃滅スルニ努ムベシタヒ隣接部隊ノ戰況不利ナルモ飽ク迄其ノ地ヲ固守シ終始自若トシテ動搖スルコトナク最後ノ一兵ニ到ル迄奮戦力嗣スルモノトス若シ彈薬ヲ打チ盡シ又ハ敵ノ重壓ニ陥リタル時ト雖モ自己ノ銃剣ニ信頼シテ最後ノ勝利ヲ獲得スルヲ要ス

四二 第二百四十 中隊長ハ戰闘間常ニ戰闘ノ推移ニ注意シ要スレバ小隊ノ火力指向ニ關シ所要ノ指示ヲ與ヘ又適時第一線ノ兵力ヲ補填シ若シ隣接部隊ノ戰況不利ナル場合ニ於テハ當面ノ戰況之ヲ許ス限り之ニ協力シテ戰勢ノ挽回ニ努ムル等絶エズ中隊ノ戰闘ヲ指導シテ防禦能力ノ發揚ニ努ムルヲ要ス

四三 第二百四十一 輕擧ニ陣地ヲ捨テテ出撃スルハ之ヲ戒メザルベカラズ然レ共我陣地前至近ノ距離ニ於テ我大方ノ爲敵ノ攻擊頓挫シ混亂ヲ來シ之ヲ驅逐スル好機ヲ發見シタル場合ニ於テハ中隊長タルト小隊長タルトヲ問ハズ決然逆襲ヲ斷行シ敵ヲ擊滅スベシ此ノ際敵ノ側面又ハ背後ニ向ヒ之ヲ實施シ得バ其ノ效果大ナルモノトス

第四節 追撃及退却

追撃 第二百四十二

敵ヲ急追シ極力之ガ殲滅ヲ期スベシ此ノ際敵陣ヲ奪取シ得タル成功ニ甘ンジ攻撃ノ激動ニ届シ部下愛惜ノ情ニ捉ハレテ苟モ追撃ヲ躊躇スルガ如キコトアルベカラズ

退却**第二百四十三** 退却ハ特ニ命令アル場合ノ外之ヲ行フコトナシ

第二百四十四 退却ハ全線同時ニ行フヲ有利トス情況ニ依リテハ中隊ハ第一線ノ一部ヲシテ敵ヲ抗拒セシメ以テ他部ノ退却ヲ掩護セシムルコトアリ又豫備隊ヲ有スルトキハ成ルベク側方後ノ地點ヲ占領シ前線ノ退却ヲ收容セシムルヲ可トス
退却ハ沈著ニシテ秩序ヲ保チ整然トシテ之ヲ行ヒ幹部ハ特ニ部下ヲ掌握スルコトニ努ムベシ

第二百四十五 收容隊及第一線ニ残置セラレタル部隊ハ其ノ火力ニ依リ

敵ノ急迫ヲ妨ゲ爲シ得ル限り遠ク其ノ前進ヲ阻止スルコトニ努ムベキモ情況之ヲ要スレバ敢然逆撃ヲ行ヒ主力ノ退却ヲ容易ナラシムルコト必娶ナリ

第五節 夜 戰**要旨****第二百四十六**

夜戦ハ其ノ準備ヲ最周密ナラシムルト共ニ總テ爲シ得ル
限り簡單ヲ旨トスルヲ要ス是レ準備ニ些少ノ缺陷アルカ又ハ行動複雑ナルトキハ思ハザル過誤ヲ生ズルコト多ケレバナリ又夜間ノ行動ハ敵ニ對シ祕匿スルコト最肝要ナリ

第二百四十七

各員ハ夜暗ニ慣レ特ニ耳目ヲ活動シテ大膽且靜肅ニ動作シ得ザルベカラズ之ガ爲夜暗ニ於ケル各員ノ動作中ニモ不齊地ニ於ケル行進及突撃ニ熟スルヲ要ス

第二百四十八 夜戦ハ特ニ規定スルモノノ外晝間戰闘ノ要領ニ準據スルモノトス

夜間攻

第二百四十九 夜間ノ攻撃實行ハ特ニ周到ナル準備ヲ整ヘ中隊長以下確乎タル自信ヲ以テ之ヲ斷行シ銃剣突撃ヲ以テ一舉ニ敵陣地ヲ奪取スルヲ要ス而シテ我企圖ヲ祕センガ爲特ニ武装ヲ堅確ニシ音響ヲ發セザル處置ヲ施シ燈火其ノ火光ヲ敵ノ觀察ニ對シ隠匿シ成ルベク記號ニ依リ運動ヲ行ヒ突入ノ外號令ヲ用ヒザルヲ可トス又連繫ヲ確實ナラシメ且要スレバ彼我ノ色別ヲ容易ナラシムル爲標識ヲ爲シ合ヒ言葉ヲ定ムベシ

第二百五十 夜暗ヲ利用シ敵ニ近接スル場合ニ於テハ特ニ諸種ノ手段ヲ盡シテ連繫ヲ確保シ舒蘭ニシテ且確實迅速ニ所期ノ地點ニ到達シ得ルコト必要ナリ

第二百五十一 中隊夜間敵ニ近接スルニハ努メテ緊縮ナル隊形ヲ用ヒ萬ノ隊形ハ行動容易ナルコトヲ主眼トシ突撃隊形ニ移ルニ便ナルコトテモ顧慮シテ之ヲ選定スベシ

之ガ爲中隊ハ通常側面向キノ隊形ヲ用フルモノトス而シテ前方及側方要スレバ後方各至近ノ距離ニ警戒兵ヲ出シ又大隊長ト確實ニ連絡ヲ取り基準中隊ノ動作ニ準ヒテ運動スベシ

第二百五十二 夜間ハヤモスレバ方向ヲ誤リ易シ故ニ行進方向ヲ確保スルタメ威ルベク書簡ニ於テ充分ノ準備ヲ爲シ且地形ニ精通セル將校ヲシテ嚮導セシムルヲ可トス

第二百五十三 夜間ノ運動ニ在リテハ他方面ノ銃聲又ハ喊聲ニ引カレテ其ノ行進方向ヲ誤ルコトナキヲ要ス又前方ニ在ル者ハ特ニ其ノ歩度ト連絡トニ注意シ要スレバ時々停止シテ連絡及秩序ヲ回復スベシ

行進中敵ノ有效射撃ヲ受クルカ又ハ照明セラレタルトキハ其ノ效力及注意ヲ減殺スル爲一時停止スルヲ可トスルコトアリ然レドモ之ガ爲成ルベク前進運動ヲ澁滞セシメザルコトニ注意スベシ

第二百五十四 夜間ニ於ケル中隊ノ突撃隊形ハ指揮掌握確實ニシテ正面ニ對シ多クノ銃剣ヲ使用シ得且成ルベク運動容易ナルヲ要ス而シテ情況之ヲ諸サバ敵火ノ損害ヲ減少シ得ルコトヲモ顧慮スルヲ必要トス之ガ爲通常併立縱隊取ハ分隊ノ側面縱隊ヲ併列セル小隊ヲ併列シタル隊形ヲ用フ時トシテ中隊ヲ第一線ト豫備隊トニ區分スルコトアリ此ノ場合ニ在リテハ豫備隊ハ成ルベク第一線ニ近ク位置セシメ且中隊長ハ豫メ豫備隊ニ所要ノ命令ヲ與ヘ中隊ノ突撃ニ當リテハ其ノ長ヲシテ適宜動作セシムルモノトス

豫備隊ノ用途ハ不時ノ事變ニ備ヘ且中隊突撃ノ奏功ヲ確實ナラシムル

ニ在リ

第二百五十五 夜間ノ攻撃ニ在リテハ中隊長ハ中隊ノ先頭ニ位置シ記號ニ依リ中隊ヲ指揮誘導シ通常銃火ヲ交フルコトナク敵前至近ノ距離ニ近接シ不意ニ敵陣地ニ突入スルヲ可トス之ガ爲要スレバ豫メ裝填ヲ禁ズベシ

攻撃前進中敵ノ斥候又ハ監視兵等ニ遭遇セバ警戒兵ハ之ヲ急襲シ又要スレバ中隊長ハ指揮小隊取ハ一部ノ隊ヲ指定シテ之ヲ驅逐セシムル等適宜ノ處置ヲ講ジ中隊主力ハ特ニ團結ト靜肅トヲ保持シ之ニ拘ルコトナク極力企圖ノ祕匿ニ努メ若シ突入前敵ニ發覺セラルルニ至ラバ遲疑スルコトナク突撃ヲ斷行スベシ

突撃ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク之ヲ行ヒ且通常喊聲ヲ發セザルモノトス

第二百五十六 中隊長ハ示サレタル目標ヲ奪取セバ其ノ占領ヲ確實ニシ斥候ヲ以テ敵ト觸接シ其ノ情況ヲ捜索シ大隊長並ニ隣接部隊ト連絡ヲ取リ速ニ秩序ヲ回復シ敵ノ逆襲ニ備ヘ且爾後ノ行動ヲ準備スベシ

第二百五十七 夜間障碍物ヲ破壊シテ攻撃ヲ實施セムトスル場合ニ於テハ突撃實行ニ先チ豫メ勇敢ナル兵ヲシテ努メテ隱密ニ之ガ作業ヲ爲サシムベシ而シテ一旦破壊シ得タル部分ニ對シテハ絶エズ敵ノ補修作業ヲ妨害スペキ處置ヲ施スコト肝要ナリ

第二百五十八 夜間ノ防禦ニ在リテハ中隊ハ必要ニ應ジ最初ヨリ第一線ノ兵力ヲ増加シ小隊毎ニ當面ノ敵ニ對シ防禦セシムルモノトス

第二百五十九 第一線ノ各小隊ハ射撃威力ヲ發揚スルニ妨ナキ限り努メテ兵力ヲ集結シ指揮掌握ヲ確實ニシ以テ白兵戦ヲ有效ニ實施シ得ルコトヲ考慮スルヲ要ス此ノ際敵ノ包囲的行動ヲ阻止セムガ爲一部ヲ翼後セシム

ニ梯次ニ配置スルヲ有利トスルコト少カラズ而シテ援隊ハ機ヲ失セズ逆襲シ或ハ側背ニ來襲スペキ敵ニ備フル爲適宜之ヲ火線ノ後方ニ近接セシム

第二百六十 火力配置ハ至近ノ距離ニ於テ熾烈ナル火力ヲ發揚シ得ル如ク定ムベキモノニシテ夜間射撃ノ爲ニハ努メテ前地ヲ照明スル處置ヲ講ジ且所望ノ方向ニ對シ銃ヲ正シク固定スルノ設備ヲ爲スペシ設備ヲ爲ス暇ナキ場合ニ於テモ銃ヲ地面ト平行ニシ且正確ナル据銃ニ依リ射撃ノ效果ヲ增大スルニ努ムベシ
又夜間射撃ノ爲ニハ友軍相互ニ危害ヲ及ボサザル如ク嚴密ニ規定スルヲ要ス

第二百六十一 夜間ハ輕易ナル障碍物ト雖モ之ヲ利用スルトキハ其ノ效果極メテ大ナルモノトス故ニ各種障碍物特ニ移動性障碍物ヲ巧ニ利用

スルノ考慮ヲ必要トス
又障碍物ヲ設置セシ場合ハ特ニ之ガ破壊ヲ防止スル爲所要ノ監視方法
ヲ講ズルヲ要ス

第二百六十二 中隊長及小隊長ハ陣地前ニ斥候ヲ派遣シテ敵情ヲ捜索シ
速ニ其ノ企圖ヲ偵知スルヲ要ス
敵ノ攻撃ヲ豫察セバ情況ニ依リ一部ヲ前方ニ派遣シ敵ノ行動ヲ攬亂ス
ルヲ有利トスルコトアリ然レ共之ガ爲中隊ノ戰闘の齟齬ヲ生ズルニ到
ラシメザルヲ要ス

敵兵我陣地ニ近接シ工事ヲ爲スカ或ハ障碍物ヲ破壊スルコトヲ偵知セ
バ一部ヲ以テ出撃スルカ或ハ射撃ヲ以テ之ヲ妨害シ障碍物ノ破壊セラ
レタル部分ハ機ヲ失セズ之ヲ補修スルコトニ努ムベシ

第二百六十三 敵兵至近ノ距離ニ達セバ守兵ハ沈着シテ之ニ猛烈ナル射

擊ヲ加ヘ或ハ手榴弾ヲ投ジテ之ヲ擊退スベシ而シテ敵兵尙數歩ノ地ニ
前進シ來ルヤ銃剣ヲ揮ヒ奮闘以テ之ヲ擊滅スベシ

敵兵若シ我陣地ニ突入セバ各部隊ハ極力其ノ陣地ヲ固守シ此ノ際尙豫
備隊又ハ援隊ヲ有スルトキハ中隊長及小隊長ハ之ヲ以テ我陣地ニ侵入
セル敵ニ向ヒ突進シ之ヲ擊滅スベシ
夜間防禦ニ於テハ一局部ニ於ケル敵ノ攻擊ニ警戒セラレザルコト緊要
ナリ又敵ヲ擊退シタルトキハ速ニ秩序ヲ回復シ再び防禦ノ諸準備ヲ整
ヘ敵ノ爾後ノ行動ヲ偵知スルヲ必要トス

第二百六十四 夜間ノ追撃ニ在リテハ中隊長ハ特ニ部下掌握ヲ確實ニシ
友隊トノ連繫及方向ノ保持ニ努メ前方及側方ヲ警戒シ常ニ接戦ヲ準備
シ断乎トシテ當進スペシ

第二百六十五 敵ニ近シタルトキ夜間退却ヲ爲スニハ特ニ細心ナル注
意退却ノ

意ヲ以テ我企圖ヲ察知ヒラレザルコト緊要ナリ之ガ爲日沒前ニ於ケル部隊ノ移動ヲ避ケザルベカラズ
夜間退却ヲ實施スルニ當リテハ第一線ニ一部隊ヲ残置シ以テ我退却ヲ祕置スルヲ可トスルコト多シ
又敵ノ進路上ニタトヒ輕易ナル障碍物ト雖モ之ヲ設クルトキハ敵ノ追撃ヲ澁滞セシムルコトヲ得ルモノトス

第六節 集合及併合

第二百六十六 戰闘中ノ集合及併合ハ小隊教練ニ準ズ
各小隊ハ駆歩ニテ中隊長ノ許ニ到リ中隊縱隊ニ集合シ又ハ示サレタル隊形ニ併合ス

第三篇 機銃教練

通則

第二百六十七 機銃教練ノ目的ハ幹部及兵員ヲ訓練シテ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ併セテ諸制式、諸法則並ニ兵器ノ使用ニ習熟セシメ以テ陸上戰闘ノ要求ニ適應スル軍隊ヲ作ルニ在リ

第二百六十八 機銃隊ハ重量大ナル兵器彈藥ヲ携行シ且戰闘最激烈ナル方面ニ使用セラルヲ通常トシ各員ノ適切ナル協同ニ依リ初メテ其ノ威力ヲ充分ニ發揮シ得ルモノナルヲ以テ特ニ攻擊精神旺盛ナルト共ニ團結鞏固ナルヲ要ス

第二百六十九 機銃員ハ機銃ノ構造、機能及其ノ現狀ニ通ジ支障ナク統

第三篇 機銃教練 通則

一三四

ヲ使用スルコトニ熟達スルト共ニ常ニ兵器ヲ整備シ之ガ使用ニ際シ故障ヲ生ゼシムルコトナク機銃ノ威力ヲ極度ニ發揮スルヲ要ス

第二百七十 機銃教練ニ於テ陣地進入、射撃及故障ニ對スル處置ハ特ニ重要ニシテ充分訓練ヲ重ヌルヲ要ス

第二百七十一 譚撃隊ノ運彈薦員ハ銃ヲ脊負ヒ停止間ニ在リテハ彈薦筐

ヲ足尖ノ前ニ置キ動作スルトキハ豫令ニテ彈薦筐ヲ携ヘ動作終リタル後之ヲ下ニ置キ行進間ハ通常彈薦筐ヲ肩ニ擔グ外銃隊ニ準ズ

彈薦筐ノ運搬ニ車馬ヲ利用スルトキハ本篇ニ準ジ動作スルモノトス

第二百七十二 銃手中死傷其ノ他ノ事故ニ因リ缺員ヲ生ジタルトキハ彈薦隊其ノ他ヨリ補充ヲ受クル迄分隊下士官ノ指示ニ依リ適宜減員ヲ以テ動作ヲ繼續スルモノトス

第二百七十三 機銃及機銃隊ノ操作ニ就キテハ本篇ニ規定スル外執銃教

練及艦砲操式ノ規定ヲ準用シ機銃ノ取扱ニ關シテハ艦砲取扱教範ニ依ルモノトス

第二百七十四 本篇ハ留式機銃ニ付キ規定ス三年式機銃ニ付キテハ其ノ異ル所ヲ()内ニ示ス其ノ他ノ機銃ニ在リテハ留式ニ準ズ

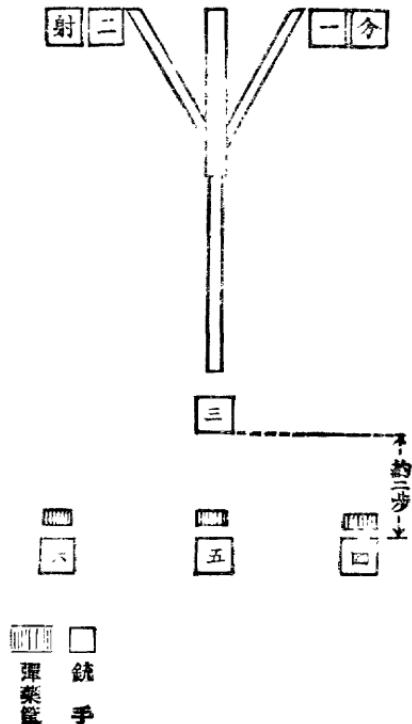
第一章 機銃分隊教練

一、集合

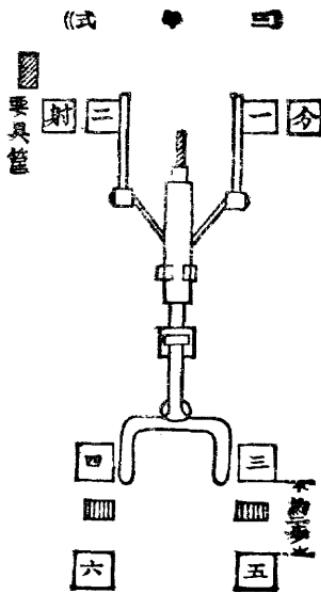
集合

第二百七十五 銃手ヲ銃側ニ集合セシムルニハ「集レ」ノ號令ヲ下ス

各銃手ハ左圖ノ如ク銃側ニ集合ス



備考
(射)ハ要具置ヲ左肩ヨリ右腋下ニ掛ケ



(一)、(二)ハ各内側ノ足尖ヲ棍端ノ下方ニ在ラシム

第二百七十六 銃手ヲ調査スルニハ「番號」ノ號令ヲ下ス

分隊下士官以外ノ各銃手ハ左ノ例ニ依リ明確ニ順次ニ其ノ職名ヲ發唱ス

(射) (一) (二) (三) (四) (五) (六)
二、右左向キ及後口向キ
右(左)
向右(左)
向左(右)
及後口(左)
後口(右)

第二百七十七 停止前右(左)向キ又ハ後口向キヲ爲サシムルニハ「右(左)
向け 右(左)ニ「廻れ 右」ノ號令ヲ下ス號令ニテ「一二三」ハ脚端(射ハ
要具筐ヲ提ゲ「一二三四」ハ棍端)ニ就キ成ルベク銃ヲ傾ケザル如ク提グ
(五六)ハ彈薬筐ヲ持チ動令ニテ(分)左向キニ在リテハ(射)ハ徒手
教練ニ準ジ右(左)向キヲ爲シ(後口向キニ在リテハ分)ハ後口向キヲ爲
シ) 其ノ他ノ銃手ハ(分)(射)ヲ基準トシテ右(左)(後口)ニ方向ヲ換ヘ各
銃手ハ機銃及弾薬筐(要具筐)ヲ靜ニ下ニ置ク

三、行進

行進

第二百七十八 行進ハ「前ヘ」「駐歩」ノ豫令ニテ前項ニ從ヒ各銃手ハ機銃
(要具筐)ヲ提ゲ弾薬筐ヲ擔ギ「進メ」ノ動令ニテ徒手教練ニ準ジ行進ヲ
起ス

停止ハ徒手教練ニ準ジ動作シタル後各銃手ハ機銃及弾薬筐(要具筐)ヲ
靜ニ下ニ置ク

要スレバ「銃ヲ擔ゲ」或ハ「銃ヲ提ゲ」ト令シ機銃ノ携行法ヲ變更セシメ
又(一)(二)(三)(四)ヲシテ左右其ノ位置ヲ換ヘシムルコトヲ得

第二百七十九 行進間右(左)向キ若ハ後口向キヲ爲サシムルニハ「右左
向(前)ヘ 進メ」(廻れ右前ヘ 進メ)ノ號令ヲ下シ(分)(射)ハ徒手教
練ニ準ジ右(左)向キ(後口向キ)ヲ爲シ其ノ他ノ銃手ハ(分)(射)ヲ基準ト
シ(分)(射)及旋回軸ニ近キ銃手ハ數步步度ヲ縮メ右(左)(後口)ニ方向ヲ
換ヘ續イテ行進ス

機銃及ノ
組立

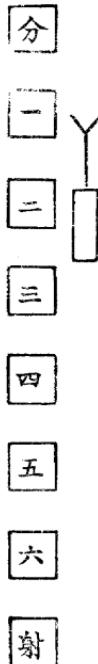
第二百八十 折數ヶ(伏セ)ヲ爲スニハ機銃及彈藥筐(要具筐)ニ觸レザル如ク其ノ姿勢ヲ取ルモノトス但シ折數ヶヲ爲スニハ右足ヲ後方に引ク又伏セヲ爲スニハ各銃手ハ兩手ヲ足尖ノ所ニ著ケ伏臥ス行進間ニ在リテハ一旦停止シ機銃及彈藥筐(要具筐)ヲ靜ニ下ニ置キタル後動作ス

第二百八十一 折數ヶ(伏セ)ヨリ起立スルニハ機銃及彈藥筐(要具筐)ニ觸レザル如ク舊位ニ復ス直ニ行進スルニハ起立シタル後第二百七十七ニ依リ行進ヲ起ス

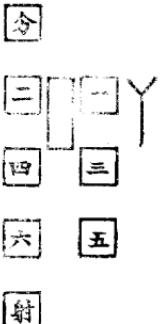
第二百八十二 機銃ノ分離及組立ハ如何ナル情況ニ在リテモ確實迅速ニ行フヲ要ス機銃ヲ分離シ一(二)列側面縱隊ヲ作ラシムルニハ「銃ヲ解ケ一(二)列側面縱隊作レ」ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ各銃手ハ行進間ニ在リテハ停止シ一(二)(三)(一)(二)(三)(四)ハ機銃ヲ靜ニ下ニ置キ銃ト銃架ト

ヲ分離シ通常一(一)(三)ハ銃架ヲ二(二)(四)ハ銃ヲ四(五)(六)(五)(六)ハ彈藥筐ヲ擔ギ左圖ノ如ク指示隊形ヲ作り行進間ニ在リテハ續キテ行進ス情況ニ依リ前脚ヲ折疊ミ携行スルヲ便トスルコトアリ

一列側面縱隊



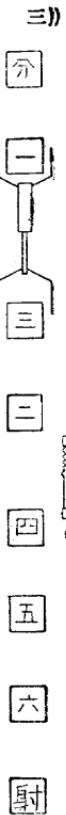
二列側面縱隊



第三篇 機銃教練 機銃分隊教練

一四二

一列側面縱隊



二列側面縱隊



分

一

二

三

四

五

六

射

分離シアル機銃ヲ組立ツルニハ、銃ヲ組メノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ

減員運

各銃手ハ行進間ニ在リテハ停止シ(一)(二)(三)(一)(二)(三)(四)ハ銃ト銃架トヲ組立テ「集レ」ノ位置ニ就キ行進間ニアリテハ續キテ行進ス

第二百八十三

(一)(二)(三)(三)人運搬ハ敵ノ認識ヲ避クルトキ其ノ他小道ノ通過又ハ減員ノトキ等ニ用フ

(一)(二)(三)(三)人運搬ヲ爲サシムルニハ銃手ヲ指定シ要スレバ隊形ヲ指定シテ行フ指定セラレタル銃手ハ左例ノ如キ位置ニ就キ指示隊形ヲ作り行進間ニ在リテハ續キテ行進ス

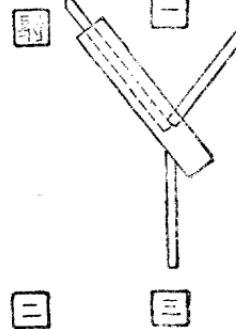
〔一〕、〔三提ダ〕

六

四

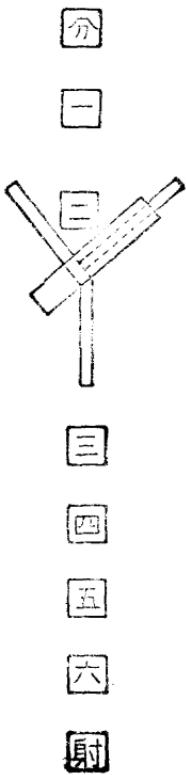
五

六

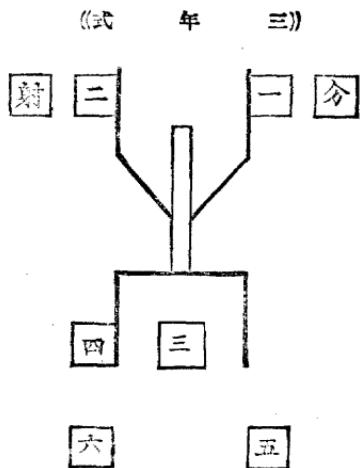


前方ニ就ク銃手ハ銃ヲ面向ニ運シ脚ニ就ク

〔二機銃一列、背面綻隊作レ〕

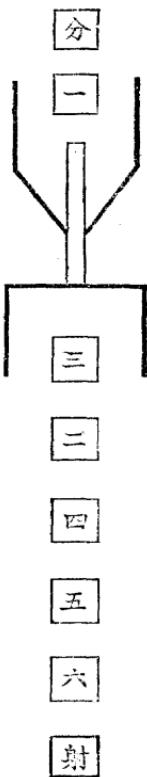


「一二三提ゲ」



「(一)(三)提ゲ一列側面縦隊作ヒ」

((式年三))



銃手ヲ集レノ位置ニ就カシムルニハ「定位ニ付ケ」ノ號令ヲ下ス各銃手ハ集レノ位置ニ就キ行進間ニ在リテハ續キテ行進ス
第二百八十四
 敵ノ認識ヲ避ケ又ハ敵火ノ被害ヲ減ズル爲散開ヲ爲サシムルコトアリ

散開ヲ爲サシムルニハ要スレバ機銃ノ位置ヲ示シ「散レ」(其ノ場ニ散レ)ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ分ハ機銃ノ前方ニ位置シ(二)(三)(二)(四)(指定セラレタル銃手)ハ脚(棍)ニ就キ二人運搬トナリ速ニ指示位置ニ

就キ其ノ他ノ銃手ハ執銃教練ニ準ジ機銃ヲ基準トシ奇數番號銃手ハ右へ射及偶數番號銃手ハ左へ散開ス散開シアルトキ銃手ヲ集レノ位置ニ就カシムルニハ「定位ニ就ケ」ノ號令ヲ下ス各銃手ハ集レノ位置ニ就キ行進間ニ在リテハ續キテ行進ス

機銃ヲ分離シアルトキノ散開ハ銃架ヲ基準トスル外前項ニ準ズ

四、陣地進入

入陣地進

第二百八十五 陣地進入ノ準備ハ如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハズ確實迅速ニ行フヲ要ス

戰闘

行進間ニ在リテハ停止シ(一)(二)(三)(一)(二)(三)(四)ハ銃ヲ下ロシ分離シアルトキハ之ヲ組立テ銃覆ヲ脱シ(三)(四)ハ之ヲ携ヘ各銃手ハ左ノ要領ニ從ヒ

各部ノ點検ヲ圖ス

(射)ハ彈倉逆轉留ノリ作ヲ檢シワツツ開挺ヲ後方ニ引キ戻回子、彈倉逆轉留及藥室ヲ檢シ(一)ハ槍口及銃身口蓋ヲ檢シ瓦斯調整器及其ノ留鋸ヲ檢

ス(射)ハ引金ヲ引キ機關ノ動作ヲ檢シ發條衡ヲ以テ推進發條ノ力ヲ檢シ(通常十ボンド附近ヲ適當トス)(五)(六)ハ彈藥包取出シノ準備ヲ爲ス

(射)ハ開挺ヲ充分後方ニ引キ唧筒鋸ヲ後退ノ位置ニ懸ケ開挺ヲ復シ裝彈器室蓋ヲ開キ裝彈器室、藥室及油槽ヲ檢ス

(一)ハ膳中及調速章目盛ヲ檢ス(通常十五乃至二十ヲ適當トス)

(射)ハ裝彈器室蓋ヲ閉メ唧筒鋸ヲ壓シ引金ヲ引キ機關ノ狀態ヲ檢シ更ニ開挺ヲ後方ニ引キ之ヲ保持シタル儘唧筒鋸ヲ壓シ引金ヲ引キ開挺ノ前端ガ照尺座ニ達スル稍前ニ於テ保彈鉗受ヲ起ン右側覆鉗ヲ閉デ開挺ヲ前方ニ進メ舊位ニ復ス(五)(六)ハ彈藥包取出シノ準備ヲ爲ス)

(射)一又ハ指示銃手ハ脚(棍)ニ就キ(二)ハ要具筐ヲ(四)(五)(六)(五)(六)ハ彈薬筐ニ就キ各箇進ノ準備ヲ爲ス

(要スレバ棍ヲ脱ス此ノ場合ニ在リテハ前棍ハ(三)(四)後棍ハ(二)之ヲ携フルモノトス)

陣地進入ニ先チ分ハ射擊位置偵察ノ爲先行スルコト多シ

第二百八十七 機銃ノ射擊位置ハ所要ノ射界ヲ有シ銃ノ安定良好ナル地形土質ニシテ且敵眼及敵火ニ對シ遮蔽シアルコトニ顧慮スベシ而シテ一小堆土ト雖モ之ヲ利用スルコトニ努メ要スレバ掩護工事及偽裝ヲ施スベシ
又銃口前ノ土質ニ依リ射擊ニ際シ敵ニ發見セラレ易キコトアルニ注意スルコト肝要ナリ之ガ爲要スレバ銃口附近ニ撒水又ハ草、濕泥ヲ數ク等ノ處置ヲ爲スベシ

第二百八十八 機銃ハ敵ノ不意ニ乘ジ奇襲的射擊ヲ開始スルヲ特ニ有利トス之ガ爲陣地進入ハ最敏速ナルヲ要スルト共ニ地形地物ノ利用ヲ適切ナラシメ隊形及步度ヲ適當ニ選ビ或ハ充分低キ姿勢ヲ用ヒ若ハ偽裝ヲ利用シ情況ニ依リ各個前進ヲ行フ等手段ヲ盡シ敵ヲシテ機銃タルコトヲ察知セシメザルコト緊要ナリ

第二百八十九 機銃ヲ陣地ニ就カシムルニハ通常射擊方向及据エ附ケ位置爲シ得レバ目標(射撃區域)打方及照尺距離ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

陣地ニ就ケ

(分)ハ分隊ノ陣地進入ヲ指導シ機銃ノ位置及方向ヲ明確ニ指示シ各疏手ノ動作特ニ機銃ノ据エ附ケ方向ニ注意シ要スレバ各部ノ點檢ヲ爲サシメ(射)一又ハ指示銃手ハ機銃ヲ指示位置ニ指示方向ニ据エ(射)ハ(後棍ヲ

脱シ之ヲ左圖ノ位置ニ置キ)銃ノ傾キニ注意シ(ト共ニ脚ヲ堅固ニ据エ射撃ニ適スル如ク通常伏臥ヲ爲シ)ハ裝填ニ適スル如ク通常伏臥ヲ爲ス(前混ヲ脱スル必要アルトキハ(分ノ指示ニ依リ)一ハ之ヲ脱シ左圖ノ位置ニ置ク)

目標(射撃區域)打方及照尺距離ヲ豫メ示サレタル場合ハ(射)ハ照尺ヲ調へ照準ヲ爲シ(射)一ハ裝填ヲ行フ
平坦地ニ在リテハ概ネ五ハ銃ヲ据エ終ラントスルニ先チ又六ハ(五)ノ供給終リタル後携帶セル彈藥筐ヲ(一)ノ身邊ニ運搬シ更ニ彈藥隊ヨリ彈藥ヲ受取り射撃開始後概ネ左圖ノ位置ニ在リテ彈藥供給ニ從事ス

(一ハ(五)及(六)ノ運搬セシ彈藥筐ヲ左圖ノ如ク配置ス

(三)(四)ハ平坦地ニ在リテハ射撃開始後概ネ左圖ノ位置ニ在リテ彈藥供給ニ從事ス

(二)ハ平坦地ニ在リテハ射撃開始後(要具^モテ銃ノ右側ニ置キ)適當ノ位置ニ在リテ小隊長トノ間ノ連絡其ノ他(分ノ補助ニ任ズ



第三篇 機銃教練 機銃分隊教練

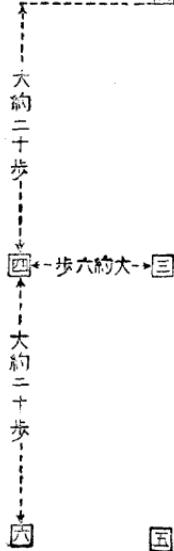
一五四

備考 (二) ハ小隊長ノ位置ニ依リ連絡ニ便ナル如ク右又ハ左ニ位置スルモノトス

三



四



五

陣地進入ニ當リ要スレバ(分ハ彈倉・保弾鉢)數個ヲ携行シ(五)(六)ハ彈藥筐ヲ射擊開始後銃側ニ運搬ス

五、射擊

射擊

要旨

第二百九十一 射擊ハ機銃唯一ノ戰闘手段ニシテ如何ナル場合ニ於テモ正確迅速ニ有效ナル射擊ヲ實施シ得ル如ク練成スルヲ要ス又射擊ハ最後ノ一兵ニ至ル迄之ヲ行ヒ得ザルベカラズ
射擊ニ當リ精神ノ沈著並ニ射擊諸動作特ニ照準及裝填ノ正確迅速ナルハ最緊要ナリ

第二百九十一 分隊下士官ハ小隊長ヲ補佐シ其ノ意圖ノ實行ヲ以テ主要ナル任務トス

射擊ニ當リ分隊下士官ハ通常(射)ノ後方ニ在リテ各兵ヲ監督シ小隊長ノ命令號令ヲ確實ニ實施セシメ常ニ敵情及隣接友隊ニ注意シ射擊ヲ適切

第三篇 機銃教練 機銃分隊教練

一五五

任務ノ下
士官分隊

第三篇 機銃教練 機銃分隊教練

一五六

ナラシムルコトニ努メ弾薬ノ供給ヲ適當ナラシムル等其ノ機銃ノ射撃實施ニ關シ直接ノ責任ヲ有スルモノトス

又分隊下士官ハ必要ニ應ジ一時(射)ニ代リ射撃ヲ行ヒ或ハ小隊長ノ指示ニ基キ分隊ノ射撃ヲ指揮スルコトアリ

故ニ地形地物ノ利用、目標ノ判断、打方ノ選定、射彈ノ観測、距離ノ測定等ニ習熟セザルベカラズ

打方點射

第二百九十二 打方ハ目標ノ種類ニ應ジ之ヲ分チテ點射及薙射トス
點射ハ一點ヲ照準シテ發射スルモノニシテ通常銃口ヲ僅ニ左右ニ移動シ得ル程度ニ旋回留テ緊メテ行フモノトス特ニ彈著ヲ集中セシムルヲ有利トスルトキハ小隊長ノ命ニ依リ旋回留ヲ充分緊ムルモノトス

薙射ハ上下照準ヲ一定シ照準線ヲ左右ニ移動シツツ射撃スベキ全正面ニ對シ平等ニ射彈ヲ散布シ得ル如ク發射スルモノニシテ通常正面ノ左

端ヨリ右端ニ向ヒ徐々且平等ニ薙ギ右端ニ至ラバ引金ヲ引キタル體左端ニ向ヒ同ジ要領ニ依リテ薙ギ爾後之ヲ反復實施スルモノトス而シテ薙グ速度ハ目標其ノ他ノ情況ニ依リ一定シ難キモ多クノ場合十度ヲ約二十秒間ニ薙グ速度ヲ以テ標準トスルヲ可トス

第二百九十三 射擊ノ號令ハ左例ニ從フ

點射ノ場合

森ゾ右ノ密集隊

千二百

打方始メ

薙射ノ場合

斜左黒イ堆土ヨリ右指一本ニ渡ル散兵

(照準點ハ稜鏡ノ上際)

薙射(テイザツ)

五百

打方始メ

第二百九十四 裝填ヲ爲シ射撃ヲ準備セシムルニハ「方向」「目標」(要ス
レバ照準點彈種) 及打方ヲ令ス

(射) ハ機銃ヲ指示方向目標ニ向ク射(一) ハ彈藥包ヲ装填ス其ノ法注目シテ
(一) ハ右手ノ拇指ニテ彈倉回轉留ヲ壓シツツ彈倉軸ノ凸部ニ嵌合シ確實
ニ壓入シ要スレバ之ヲ右ニ廻ス(射) ハ開挺ヲ充分後方ニ引キ彈藥包ヲ裝
填ス(射) ハ右手ヲ以テ開挺ヲ充分後方ニ引キタル後之ヲ舊位ニ復ス(一)
ハ保弾紙函ノ蓋ヲ脫シ左手ヲ以テ紙函ノ左端ヲ、右手ヲ以テ側方ヨ
リ右端ニ近キ所ヲ何レモ拇指ヲ下ニシ其ノ他ノ指ヲ上ニシテ持チ保弾

鍍ヲ保弾直受ニ載セ正シク軌道ニ嵌合シ左手ヲ水平ヨリモ少シク高ク
保チ一舉ニ力ヲ加ヘ活音ヲ聞ク迄挿入シ彈藥包ヲ裝填ス)

第二百九十五 照尺ヲ調ヘ照準ヲ爲サシムルニハ照尺距離ヲ令ス

(射) ハ復唱シテ照尺ヲ調ヘ照準ヲ爲ス

點射ノ照準ニ在リテハ通常左手ヲ以テ後方ヨリ(拇指ヲ左方握柄ノ上
端ニ當テ食指ヲ用心金ノ外側ニ沿ヒテ伸シ拇指ト他ノ指トヲ以テ) 握
柄ヲ握リ之ヲ壓下シ右手ニテ旋回留ノ緊定ヲ弛メ照準線ヲ移動シテ概
略ノ方向照準ヲ行ヒ銃口ヲ僅ニ左右ニ移動シ得ル程度ニ旋回留ヲ緊メ
次ニ右手ヲ以テ(右方握柄ヲ左手ノ如ク握リ左手ヲ以テ離合挺ヲ直立
セシメ) 倚仰轉輪ヲ廻シ精密ニ上下照準ヲ行ヒタル後銃把(離合挺ヲ
後方に倒シ左右握柄)ヲ握リ食指ヲ用心金ノ中ニ入レテ伸シ兩手ヲ以
テ精密ニ方向ヲ正シ之ヲ保持ス上下照準ニ當リ照準線ノ上下スル度大

ナルトキハ先づ俯仰留ヲ弛メ（離合挺ヲ前方ニ倒シテ）概略ノ照準ヲ行フモノトス而シテ頭門照星及照準點ノ關係ヲ精密ニ左圖ノ如ク導クモノトス



要スレバ脚（昇降装置）ニ依リ高低ヲ加減ス

緊定セル點射ノ照準ハ前項ノ方法ニ準ジ照準ヲ行ヒタル後更ニ充分旋回留テ緊ムルモノトス

薙射ノ照準ヲ行ヒハ通常目標ノ左端（特ニ目標ニ明暗アルトキハ照準容易ナル部分）ニ就キ點射ニ示ス方法ニ從ヒ上下照準及概略ノ方向

打方始

第二百九十六

照準ヲ行ヒ旋回留ヲ緊ムルコトナク目標ニ沿ヒ左右ニ照準線ヲ移動シテ上下照準ヲ檢シ要スレバ兩前脚ノ高低ヲ修正スルモノトス

令ニテ射ハ引金ヲ引キ射擊ヲ爲ス其ノ要領ハ機銃ノ震動ニ對シ照準ヲ確實ニ保持スル爲姿勢ハ常ニ堅確ニシテ上體ハ努メテ射方向ト一致スル如クシ爾肘ハコトサラニ外方ニ開クコトナク少シク體重ヲ兩肘ニ托スル如クシ銃尾ヲ自然ニ壓下シ頬ヲ握柄ニ近ヅケ右手（兩手）ノ食指ヲ以テ一擧ニ引クモノトス

射（一）ハ裝填ヲ繼續シ（三）（四）ハ銃側ニ（五）（六）ハ（三）（四）ノ位置ニ各彈藥供給ヲ爲ス

打方待

第二百九十七

射擊ヲ中止セシムルニハ「打方待テ」ノ號令ヲ下ス

打方止

第二百九十八 射擊ヲ止メシムルニハ「打方止メ」ノ號令ヲ下ス

此ノ號令ニテ(射)ハ直ニ照準發射ヲ中止シ食指ヲ引金ヨリ外シ銃ヲ目標ノ方向ニ保ツ彈藥包ヲ打蓋シタル時ニ在リテハ(射)(一)ハ更ニ裝填ス

(一)ハ右手ノ拇指ヲ以テ彈倉ノ回轉留ヲ壓シツツ彈倉ヲ抜キ取り(射)ハ開挺ヲ後方ニ引き之ヲ確實ニ保持シタル儘引金ヲ引キ開挺ヲ靜ニ前進セシメ彈藥包ノ尾栓室ニ落チタルヲ確メ引金ヲ放チ開挺ヲ後方ニ引き安全裝置ニナシ彈藥包ヲ抜キ取り之ヲ(一)ニ渡ス(一)ハ之ヲ彈倉ニ挿入シ彈倉ヲ彈藥筐ニ納メ(射)ハ樂室ヲ檢シ安全數ヲ下ロシ開挺ヲ保持シタル儘引金ヲ引キ機關ヲ靜ニ前進セシム(射)ハ開挺ヲ後方ニ引き装彈器室蓋ヲ開キ(一)ハ唧筒保留ヲ左方ニ壓シ保彈數ヲ抜キ取り之ヲ彈藥筐ニ納メ(射)ハ樂室ヲ檢シ裝彈器室蓋ヲ元ニ復シ「戰鬪」ニ於ケル如ク銃尾ヲ閉

換陣地變換

ス)射ハ照尺ヲ舊位ニ復シ機銃ヲ最低姿勢ニ爲シ中央水平位置ニ固定シ〔要具筐ヲ携ヘ(一)(二)(三)(四)ハ棍ヲ取付ケ〕(四)(五)(六)(五)(六)ハ彈藥筐ヲ元ニ復シ各銃手ハ「集レ」ノ位置ニ就ク

六、陣地變換

第二百九十九 阵地變換ノ動作ノ適否ハ爾後ノ射撃及損害ノ多寡ニ影響

スルコト頗ル大ナルヲ以テ各員ハ動作ヲ敏活ニシ極力遮蔽ニ注意シ速ニ新陣地ニ就キテ射撃ヲ開始シ得ルコトニ努ムベシ

第三百 射擊中ノ機銃ヲ直ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前進用意駆歩(前進用意早駆)(前進用意)
前へ

「前進用意駆歩」ノ號令ニテ各員ハ姿勢ヲ高クスルコトナク(射)ハ照準發射ヲ止メ照尺ヲ倒シ安全裝置ニナシ(一)ハ旋回留ヲ繁メ(射)(一)ハ(打方止

メノ動作ヲ行ヒ銃ニ就キ發進ノ準備ヲ爲ス「前ヘ」ノ號令ニテ(二)ハ要具筐及棍)(三)(四)ハ銃側ノ彈薬管ヲ(四)(三)ハ携行セル彈薬管及(三)(四)ノ残セシモノヲ(五)及(六)ハ携行セル彈薬管ヲ携ヘ現時ノ關係位置ヲ保チ散兵ノ行進要領ニ準ジ駆歩(早斬)(速歩)ニテ指示セラレタル方向ニ前進ス前項以外ノ方法ヲ以テ前進セシムルニハ「前進用意」ノ號令ノ次ニ其ノ隊形及所要ノ事項ヲ指示スルモノトス

前進中ノ機銃ヲ更ニ陣地ニ就カシムルニハ射撃位置ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

陣地ニ就ケ

各員ハ第二百八十八ニ準ジ動作ス

新陣地近キトキハ「前ヘ」ノ號令ヲ用フルコトナク新陣地ヲ示シ直ニ「陣地ニ就ケ」ヲ令スルコトヲ得

故障ノ處置

第三百一 射撃中故障ヲ生ジタルトキハ概ネ次ノ要領ニ依リ(分)射要スレバ

(一)(二)協力シテ速ニ之ヲ復舊シ射撃ヲ繼續スベシ

第三百二 射撃中故障ヲ生ジタルトキ射ハ「故障」ト報ジ直ニ引金ヲ緩メ要スレバ銃口ニ注意シ銃尾ヲ左方ニ移動シ故障ノ情況ヲ檢シ之ガ排除ノ處置ヲ爲ス故障ノ排除終レバ直ニ次發ノ準備ヲ整ヘ自ラ射撃ヲ開始ス

(分)ハ故障ニ對スル處置ヲ爲ス間之ヲ監視シ要スレバ自ラ所要ノ處置ヲ爲スモノトス

第三百三 不發ノ場合ニハ(射)ハ「不發」ト報ジ直ニ引金ヲ緩メ開挺ヲ充分後方エ引キ(之ヲ舊位ニ復シ)發射ヲ爲ス尙不發シタルトキハ引金ヲ緩メ靜ニ開挺ヲ引キツツ機銃ノ軋ノ有無ニ注意シ彈薬包ヲ飛サザル如ク

第六章

拔キ出シ之ヲ(分ニ渡ス)ハ不發彈ヲ檢シ其ノ原因ヲ探究シ要スレバ機銃ノ分解點檢ヲ命ジ部分品交換或ハ異物排除等所要ノ處置ヲ爲サシム之ヲ後方ニ(照尺座ノ後端迄)引キ右手ヲ以テ底脫殼拔(回螺器附嵌子)ニテ突込彈ヲ排出シ次發ノ準備ヲ爲ス

薬莢藥室ニ殘留セル爲突込ミヲ生ジタル場合ニ在リテハ(射)ハ「彈倉」ト令シ(一)ハ彈倉ヲ拔キ取り(射)ハ開挺ヲ充分後方ニ引キ突込彈ヲ取出シ(射)ハ突込彈ヲ取出シタル後靜ニ開挺ヲ充分後方ニ引キ「保彈鋏」ト令シ(一)ハ右手ニテ唧筒鋏留ヲ、左手ニテ保彈鋏ヲ握り要スレバ(射)ノ補助ニ依リ僅ニ之ヲ左方ニ移シ(射)ハ保彈鋏ノ位置適當ナルヲ確メタル後開挺ヲ舊位ニ復シ引金ヲ引キテ擊發ヲ行ヒ殘留セル薬莢ヲ拔キ出ス

前項ノ方法ニ依ルモ尙拔キ出シ得ザル場合ニ於テハ(射)ハ之ヲ分ニ報ジ

(分)ハ膳中掃除具ヲ銃口ヨリ挿入シテ薬莢ヲ拔キ出ス此ノ際(射)ハ薬莢ヲ底筐内ニ落サザル爲底脫殼拔(回螺器附嵌子)ヲ以テ之ヲ防ギタル後薬莢ヲ除去ス(分)ハ薬莢及殼拔ヲ檢シ續キテ發射セシムベキヤ殼拔ヲ交換スベキヤ等ヲ決定シテ之ヲ指示ス

切斷セル薬莢藥室ニ殘留セル爲突込ミヲ生ジタルトキハ(一)ハ彈倉ヲ抜キ取り(保彈鋏ヲ僅ニ左方ニ拔キ出シ)(射)ハ突込彈ヲ取り出シ(分)ハ底脫殼拔ヲ藥室ニ挿入シ其ノ位置正シキヤヲ檢シタル後「打テ」ト令シ(射)ハ引金ヲ引キ擊發ヲ行ヒ開挺ヲ引キ底脫殼拔ヲ抜キ出ス(此ノ際之ヲ遠ク飛サザル如ク注意スベシ)又情況之ヲ要スレバ藥室ニ塗油スルヲ要

ス

第三百五 連線故障ヲ生ジタルトキハ(分)ハ其ノ原因ヲ判斷シ瓦斯調整螺

(調速錐目盛)ヲ調整セシムルカ(保彈鋏又ハ銃身留螺栓ヲ交換セシム

ルカ）或ハ分解點検ヲ命ズル等適宜處置スルモノトス

（薬莢底筐内ニ落ナタル場合ニハ（分）ハ（射）ト協力シテ銃尾ヲ分解シ落チタル薬莢ヲ除去シ結合ス）

第二章 機銃小隊教練

第一節 密 集

密集隊形

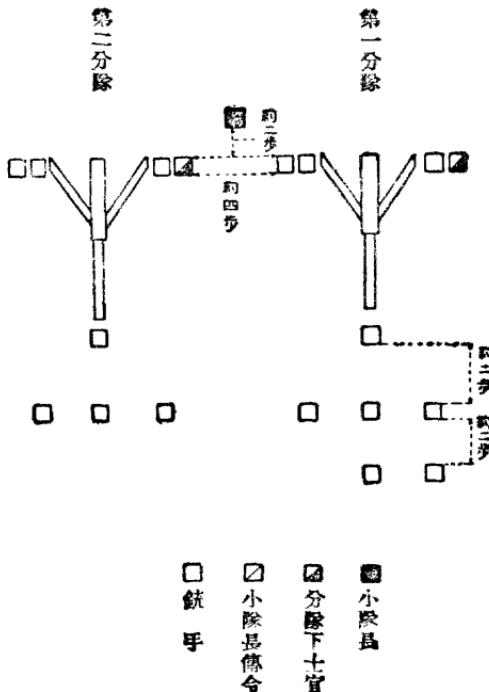
一、密集隊形

第三百六 機銃小隊ノ密集隊形ハ横隊又側面縱隊トス

横隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ用ヒ側面縱隊ハ主トシテ運動ニ

用フ

第三百七 橫隊ノ隊形左圖ノ如シ



小隊長傳令ハ第一分隊ト共ニ運動ス

要スレバ小隊長ハ各部ノ距離ヲ伸縮シ傳令ノ位置ヲ適宜定ムルユトテ得

第三百八 側面縱隊ハ分隊ヲ重疊シタルモノトス

側面縱隊ニ在リテハ小隊長ハ通常先頭分隊ノ(射)(分)ノ外側ニ接シテ位置ス

第三百九 彈薬隊ヲ配屬セラレタル機銃小隊ノ隊形及動作ハ機銃中隊ニ準ズ

二、集合

第三百十 集合ニ當リテハ第一分隊ノ(分)ハ速ニ小隊長ノ通常約六歩前ニ來リ他ノ分隊ハ之ニ準ヒ横隊ノ定位ニ就ク

三、整頓

整頓

第三百十一 整頓ハ豫令ニテ各銃手ハ第二百七十七ニ從ヒ機銃及彈薬筐(要具筐)ヲ持チ動令ニテ(分)(射)ハ頭ヲ右(左)ニ廻シ右(左)ノ方ニ整頓ス其ノ他ノ銃手ハ(分)(射)ヲ基準トシテ定位ニ就ク但シ各銃手ハ左手ヲ腰ニ當ツルコトナク且先頭列ノ銃手及傳令ノ外頭ヲ廻スコトナシ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ各銃手ハ機銃及彈薬筐(要具筐)ヲ靜ニ下ニ置ク

四、右(左)向キ及後口向キ

第三百十二 右(左)向キ及後口向キハ各分隊毎ニ第二百七十七ニ從ヒ進間ニ在リテハ第二百七十八ニ從フ

五、行進

第三百十三 行進ハ第二百七十八ニ從フ

六、隊形變換及方向變換

機銃形變 第三百十四

側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ルニハ先頭分隊ハ動カズル
カ或ハ續キテ行進シ其ノ他ノ分隊ハ近道ヲ經テ逐次新線ニ就キ右隣分
隊ニ整頓スルカ或ハ之ニ準ヒテ行進ス行進間ニ在リテハ先頭分隊ノ外
駆歩ヲ用フ

機銃形變 第三百十五

横隊ノ方向變換ハ停止間ニ在リテハ軸翼分隊ハ第二百七十九ニ從ヒ方向ヲ換ヘ其ノ他ノ
七ニ從ヒ右(左)向キヲ爲シ其ノ他ノ分隊ハ近道ヲ經テ逐次新線ニ到リ
テ停止シ右(左)隣分隊ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ軸翼分隊ハ第二百七十九ニ從ヒ方向ヲ換ヘ其ノ他ノ
分隊ハ駆歩ヲ以テ方向ヲ換ヘ新線ニ就キ續キテ新方向ニ行進ス

第三百十六 側面縱隊ノ方向變換ハ銃隊ニ於ケル側面縱隊ノ方向變換ニ
準ジ方向ヲ換ヘツツ行進ヲ起シ又ハ續キテ行進ス

第二節 接敵運動及射擊

概 言

第三百十七 機銃小隊長ハ中隊長ノ意圖ニ基キ又ハ所屬隊長ノ企圖ニ從
ヒ全般ノ情況ニ適合シタル計畫ヲ立テ友隊ト密接ナル連繫ヲ保チ適切
ナル協同ニ依リ其ノ國的テ達スルコトニ努メザルベカラズ又小隊長ハ
急激ナル情況ノ變化ニ依リ獨斷ヲ以テ好機ニ投ズルヲ要スルコト極メ
テ多キモノトス

第三百十八 機銃小隊ハ行動間ト陣地進入後トヲ間ハズ特ニ地形地物ノ
利用ヲ巧ニシ適當ナル隙形及步度ヲ選ビ若ハ遮蔽物、偽裝等ニ依リ其
ノ所在ヲ祕シ以テ敵ノ不意ニ乘ジテ奇襲的射撃ヲ開始スルコトニ努ム
ルヲ要ス

第三百十九 本節ハ彈薬隊ヲ配屬セラレタル場合ニ就キ規定ス

一、接敵運動

第三百二十 機銃小隊敵ニ近接スルニハ努メテ緊縮隊形ヲ用ヒ所要ノ警戒ヲ爲シ情況、地形ニ應ジ適當ナル隊形ヲ取り前進スルモノトス此ノ際努メテ附近ニ在ル部隊ト類似ノ隊形ヲ取り敵ヲシテ機銃タルヲ認識セシメザルコトニ注意スルヲ必要トス

第三百二十一 接敵ニ際シ小隊ハ地形ノ利用歩度ノ選擇ニ充分注意シ情況ニ應ジ躍進ヲ用ヒ又ハ分隊毎ニ前進セシメ成ルベク機銃ノ所在ヲ敵ニ祕スル如ク其ノ行動ナ律スルコト極メテ肝要ナリ
接敵間小隊長傳令ハ特ニ活動シテ連絡ニ遺憾ナキヲ期スベシ

第三百二十二 蔽蔽地、小道、急坂、散兵壕内等ノ運動及長距離ノ行進ハ機銃ヲ分離運搬スルヲ便トスルコトアリ
分離運搬ハ銃手ノ疲勞大ナラザルト敵ニ機銃タルコトヲ察知セラレ難

入陣地遣

キ利アルモ急速ニ射擊開始ヲ要スル場合殊ニ敵火ノ下ニ在リテハ往々銃ノ組立ノ爲射擊開始ヲ遲延セシムルコトアルニ留意スルヲ要ス

二、陣地進入

第三百二十三

機銃小隊ノ陣地進入ハ通常最效果ヲ發揮シ得ベキ極メテ緊要ノ時機ニ於テスルモノトス戰闘ノ初期ヨリ射擊位置ニ就カシムルハ多クノ場合徒ニ其ノ所在ヲ敵ニ知ラシムルノミナラズ情況ノ變化ニ依リ敵火ノ下ニ於テ陣地ヲ變換スル困難ヲ伴フコトアリ

第三百二十四

適切ナル時機ニ於ケル機銃小隊ノ戰闘加入ハ屢決勝ノ動機トナルコトアリ故ニ之ガ爲ニハ百方手段ヲ盡スベク損害ノ如キハ毫モ顧ミルヲ許サザルコトアリ

第三百二十五

機銃小隊ハ戰闘加入ニ先チ通常所屬隊長ヨリ其ノ使用方面又ハ概略ノ陣地、射擊目標又ハ地域、陣地進入ノ時機等ニ關シ豫メ

必要ナル指示ヲ受クベキモノトス

第三百二十六 機銃小隊ノ戰闘加入時機ハ通常所屬隊長ヨリ命令セラルベキモノトス然レ共小隊長ハ屢機ニ臨ミ獨斷之ヲ決行スルヲ要スルコトアリ

- 第三百二十七** 機銃小隊豫備隊トシテ控置セラレアルトキハ所屬隊長ノ意圖ニ合シ機ヲ失セズ陣地進入ヲ爲シ得ル準備ヲ整ヘアルヲ要ス之ガ爲小隊長ハ絶エズ一般ノ戰況ニ注意シ所屬隊長及近傍ニ在ル我部隊ト確實ニ連絡ヲ保チ陣地進入ニ關シ諸般ノ偵察ヲ爲スコト緊要ナリ
- 第三百二十八** 機銃小隊ハ通常之ヲ分割スルコトナク同一任務ニ使用スルモノトス然レ共情況ニ依リ分隊毎ニ分割スルヲ有利トスルコトアリ
- 第三百二十九** 小隊長ハ情況ノ許ス限り陣地進入ニ先チ受ケタル任務ニ基テ射撃スペキ目標若ハ地區、照尺距離、射撃位置、進入路及進入法、陣地ノ

彈薬隊ノ位置、各部トノ連絡等ニ關シ偵察ヲ行ヒ必要ナル決定ヲ爲スベキモノトス

第三百三十 運動場ニ於テ小隊長偵察ニ赴クヲ要スル場合ニハ通常小隊ノ引率ヲ先任者ニ委ネ到著スベキ地點若ハ行進方向要スレバ行進路等ヲ示シ所要ノ人員ヲ隨ヘ先行スルモノトス此ノ際小隊長ト小隊トノ連絡ヲ失セザルコトニ注意スルヲ要ス

第三百三十一 陣地ハ任務及情況ニ適合シ不意ニ射撃ヲ開始スルニ適成ルベク射線ニ直角ナラシメ且永ク敵ヲ斜射若ハ側射シ得ルヲ可トス之ガ爲能ク地上竝ニ上空ノ敵特ニ敵砲隊ニ對シ遮蔽シ火線ノ翼ニ於チ高起シタル地點ハ一般ニ此ノ目的ニ適ス然レドモ完全ナル陣地ヲ發見スルハ通常困難ナルヲ以テ強ヒテ最良ノ陣地ヲ求メントニテ却テ戰機ヲ逸スルコトアルベカラズ

敵同體射及

陣地ハ著明ナル地物ノ附近ニ選定スルヲ避ケ遮蔽物、蔭影等ヲ利用シ背景ニ顧慮シ又偽裝ヲ施ス等極力其ノ所在ヲ密置スルコト緊要ナリ

第三百三十二 情況ニ依リ友軍ヲ超過シテ行フ射擊ニ於テハ照準線ハ友軍頭上少クモ射距離ノ百分ノ一以上（射距離二百米以内ノ場合ニ於テハ少クモ三米）ヲ離隔シアルヲ要ス

又友軍ノ後方ヨリ射擊スル場合ニ於テハ友軍ニ危害ヲ與ヘザル爲射線ハ友軍ノ翼ヨリ少クモ射距離ノ百分ノ一以上（射距離四百米以内ノ場合ニ於テハ少クモ五米）ヲ離隔シアルヲ要ス
但シ風力強キトキハ之ニ依ル偏移量ヲ又友軍行動中ナルトキハ其ノ行進方向ヲ顧慮スルコト緊要ナリ

第三百三十三 陣地ニ於ケル機銃間ノ距離ハ情況、地形、指揮ノ難易等ニ依リ一定シ難キモ通常三十米以上ヲ可トス

第三百三十四 陣地ニハ情況ノ許ス限り工事ヲ施スヲ要ス然レドモ之ガ爲決シテ射擊開始ヲ遲延セシムベカラズ又戰況ノ變化ニ際シテハ要スレバ斷然之ヲ放棄スルニ躊躇スベカラズ

第三百三十五 住民地ノ戰闘ニ於テ機銃ハ道路ヲ縱射シ又ハ市街ノ入口

ニ銃火ヲ集中シ得ル如ク使用スルヲ可トスルコト多シ若シ之ヲ堅固ナル家屋、圍壁等ニ配置セバ更ニ有效ニ其ノ火力ヲ發揚シ得ルモノトス

第三百三十六 小隊長ハ機銃隊ノ陣地決定セバ成ルベク速ニ所屬隊長及其ノ附近ノ友隊ト連絡ヲ計ルベシ特ニ火線内ニ射擊位置ヲ選定スルヲ必要トスル場合ニハ速ニ該地區ニ於ケル銃隊ニ之ヲ通報シ豫メ所要ノ協定ヲ爲シ銃隊ニ於テ之ニ應ジ適當ナル部署ヲ爲ス餘裕アラシムルコト肝要ナリ然フザレバ往々射擊指揮ヲ混亂シ且無益ノ損害ヲ被ルコトアリ

第三百三十七 機銃小隊ノ陣地進入用意ハ通常小隊長ノ號令ヲ以テ行フ
モノニシテ成ルベク陣地ニ近ク敵ニ蔭蔽シテ行ヒ且進入ノ機ニ遲レザ
ル如ク完了スペシ若シ小隊長其ノ位置ニ在ラザル場合ニハ先任者ハ獨
斷テ以テ之ヲ實施スルヲ要スルコト多シ

第三百三十八 小隊長ハ陣地進入ニ先チ通常分隊下士官及爲シ得レバ(射)
ヲモ招致シ現在ノ情況、各銃ノ射擊位置、射擊目標若ハ目標指示ノ基
點、打方、照尺距離、要スレバ使用彈種及彈數等ヲ成ルベク綿密ニ指
示シタル後陣地進入ヲ令シ進入後直ニ射擊ヲ開始スルコトニ努ムベシ
第三百三十九 各機銃ノ射擊位置ハ通常小隊長其ノ概位ヲ分隊下士官ニ
指示シ分隊下士官ヲシテ決定セシムルモノトス然レ共情況ニ依リ小隊
長自ラ細部ノ指示ヲ爲スヲ可トスルコトアリ

第三百四十 陣地進入ハ最敏速ニ實施シテ速ニ射擊ヲ開始スルヲ要ス之

ガ爲小隊長ノ適切ナル指揮ト各分隊下士官ノ機敏ナル指導ヲ要ス

情況ニ依リ小隊長ハ射撃位置ニ止リ先任者ヲシテ小隊ヲ射撃位置ニ率
キ來ラシムルヲ可トスルコトアリ

第三百四十一 彈藥隊ハ「戰闘」ノ號令ニテ發進ノ準備ヲ爲スカ又ハ指示
位置ニ就キ彈藥供給ノ準備ヲ爲スモノトス

三、射擊

第三百四十二 戰闘間小隊長ハ小隊ヲ指揮スルニ便ナル地ニ占位シ敵情
ヲ觀察シ隣接部隊ノ情況ニ注意シ之ニ適應スル如ク小隊ヲ誘導シ直接
射擊指揮ニ任シ彈藥ノ使用並ニ供給ヲ適當ナラシムルコトニ注意シ友
隊ニ協力シテ戰闘ヲ實施スペシ小隊長ハ彈藥ノ現狀ニ關シ適宜中隊長
若ハ所屬隊長ニ報告スベキモノトス

第三百四十三 射擊中ハ爆聲激烈ニシテ號令報告等ノ徹底極メテ困難ナ

標射整目

ルヲ以テ小隊長ハ傳令ノ使用ヲ適切ナラシメ又ハ記號ヲ用フル等ノ手段ヲ盡スヲ要ス

分隊下士官モ亦小隊長トノ連絡ニ關シ充分努力スルコト肝要ナリ

第三百四十四 射擊目標ハ任務ニ基キ最多ク我ニ危害ヲ與フルモノ若ハ速ニ擊滅スルヲ要スルモノノ如キ戰術上ノ價值ニ從ヒ選定スペキモノニシテ多クノ場合敵ノ自動火器又ハ濃密ナル散兵線ヲ選ブベシト雖モ若シ其ノ後方ニ在ル敵ノ密集隊其ノ他特ニ好目標ニシテ之ニ對スル射擊却テ一般ノ戰況ニ有利ナリト認ムルトキハ之ヲ射擊スルモノトス

第三百四十五 射擊目標ヲ示スニハ射擊スペキ區域又ハ個々ノ目標ヲ以テスルモノトス

目標ノ指示ハ正確簡明ナルヲ要ス之ガ爲情況之ヲ許サバ射擊開始前目標附近ノ數個ノ地物ヲ基點トシテ選定シ之ニ番號又ハ簡單ナル名稱ヲ

附シ目標指示ニ資スルヲ便トスルコトアリ

第三百四十六 打方ハ目標ノ狀態、射擊ノ目的、距離ノ遠近、射手ノ伎倆、彈著観測ノ難易及銃ノ精度等ニ依リ定ムベキモノトス
點射ハ狹正面ニ射彈ヲ集中スルニ適シ概ネ左ノ如キ場合ニ應用セラルルコト多シ

狹正面ノ目標ニシテ明瞭ニ照準シ得ルトキ

敵ノ近接ヲ防止スペキ地區若ハ廣正面ノ目標ヲ側射スルトキ

狹隘ナル通路若ハ縱長ナル目標ヲ縱射スルトキ

分散セル目標中ノ狹小ナル濃厚部又ハ重要部ヲ射擊スルトキ

遠キ距離ニアル狹小ナル目標ニ對シ其ノ彈著ヲ觀測シテ射擊シ得ルトキ

試射ノ目的ヲ以テ射擊スルトキ

薙射ハ横廣ニ射彈ヲ散布スルニ適シ概ネ左ノ如キ場合ニ應用セラル
コト多シ

突撃準備又ハ突入直前某區域ヲ平等ニ制壓セントスルトキ
村端・稜線及林縁等ヲ占領スル目視困難ナル敵ニ對シ射擊ヲ行フ
トキ

夜間若ハ濃霧又ハ煙幕ニテ遮断セラレタル場合某地域ニ射擊ヲ行フ
トキ

濃霧ナル故、兵ニ對シ射擊ヲ行フトキ

第三百四十七 小隊長ハ小隊ノ射擊目標（區域）ヲ示シ要スレバ之ヲ分隊
ニ分割シ打方、照尺距離其ノ他所要ノ事項ヲ示シテ射擊ヲ開始ス
時宜ニ依リ小隊長ハ分隊毎ニ射擊任務ヲ與ヘ分隊下士官ヲシテ直接射
擊指揮ヲ爲サシムルヲ有利トスルコトアリ

第三百四十八 射擊ハ近距離ニ於テ行フヲ有利トス然レ共目標特ニ有利
ナルカ或ハ射擊スルニ非ザレバ友軍ノ前進困難ナル場合ニ於テハ中距
離以上ニ於テモ射擊セザルベカラザルコトアリ

第三百四十九 彈藥ノ節用ハ機銃ニ於テ特ニ緊要ナリ故ニ一目標ヲ射擊
スルニ決セバ好機ニ投ジ猛烈ナル射擊ヲ以テ瞬時ニ所望ノ效果ヲ獲得
スルコトニ努ムルヲ要ス效果充分ナラザル射擊ノ持続ハ多クノ場合ニ
於テ彈薬ノ浪費ニ過ザルモノトス

第三百五十 既ニ戰闘ニ加入シタル機銃ハ過度ニ屢其ノ位置ヲ變換スル
ハ避クベキコトトス然レドモ必要ニ際シテハ機ヲ失セズ之ヲ決行スル
コト緊要ナリ又機銃ハ敵ノ集弾ヲ受ケ易キヲ以テ緊要ナラザル時機ニ
於テハ各銃毎ニ若干其ノ位置ヲ移動スルヲ可トスルコトアリ敵ノ砲火
ノ集中ヲ受ケントスル時機ニ於テ特ニ然リトス

第三百五十一 陣地變換ノ必要ヲ豫期スル場合ニハ小隊長ハ努メテ新陣地ニ關シ所要ノ偵察ヲ行ヒ豫メ準備スルヲ可トス又陣地變換ニ際シ弾薬供給ヲ中絶セザルコトニ注意スルヲ要ス

第三百五十二 火線内ニ射擊位置ヲ占メタル機銃ハ火線ノ前進ニ伴ヒ其ノ位置ヲ變換セザルヲ得ザル場合多キモノトス
テ有利トスルコトアリ

第三百五十三 突擊ノ時期迫ラバ機銃ハ突擊點ヲ猛射シ極力銃隊ニ協同シ銃隊突擊ニ移ラバ益火力ヲ發揚シ新ニ現ハレタル敵ノ抵抗及逆襲等突擊隊ニ最危害ヲ與フルモノヲ排除シ友隊ノ突擊ヲ成功セシムルニ遺憾ナキヲ要ス

又鐵條網ニ對スル近距離ニ於ケル機銃ノ射擊ハ之ヲ破壊スルニ有效ナ

ルコトアリ

第三百五十四 攻撃功ヲ奏シタルトキハ機銃隊ハ一部ト雖モ速ニ進出シテ追撃ニ參加シ又ハ敵ノ回復攻撃ニ備フベシ萬一攻擊不利ナル場合ニ於テモ毫モ損害ヲ顧ミルコトナク勇敢ナル動作ヲ以テ銃隊ヲ援助シ突擊復行ノ支點タラザルベカラズ

第三百五十五 射擊中止ノ時機ニ於テハ情況ノ許ス限り手段ヲ盡シテ銃身ヲ冷却シ各部ヲ拭淨シ必要ナル注油ヲ爲シ且弾薬ノ整理ヲ爲スコト緊要ナリ

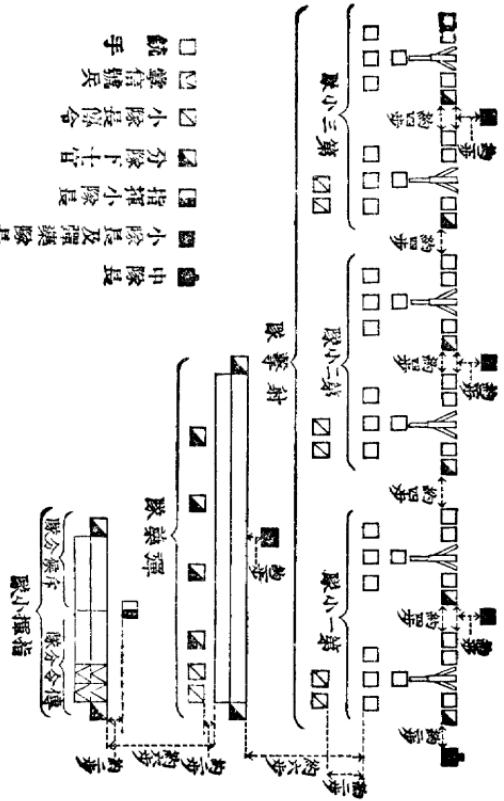
第三章 機銃中隊教練

第一節 密 集

第三百五十六 機銃中隊ノ密集隊形ハ横隊、側面縱隊及併立縱隊トス
各種隊形ノ用法ハ第三百六ニ準ズ但シ併立縱隊ハ特ニ必要ノ場合ニ於

ケル運動ニ用フ

第三百五十七 橫隊ノ隊形左ノ如シ



要スレバ中隊長ハ各部ノ距離ヲ伸縮シ小隊ノ順序ニ拘ラズ配列シ且弾薬隊及指揮小隊ノ位置ヲ適宜定ムルコトヲ得

第三百五十八 側面縱隊ハ側面向キニ在ル指揮小隊・射撃隊及弾薬隊ヲ前後ニ並ベタルモノ併立縱隊ハ横隊ヲ側面向キト爲シタルモノトス但シ左ヲ向キ併立縱隊ヲ作リタル場合ニ弾薬隊及指揮小隊ハ射撃隊ト齊頭トナル爲特ニ位置ヲ變ズルコトナシ

第三百五十九 機銃中隊ノ集合、整頓、行進、隊形變換及方向變換ハ機銃小隊ニ準ズ但シ指揮小隊及弾薬隊ハ概ネ執銃教練ニ於ケル小隊ニ準シ動作スルモノトス

整頓ニ於テ弾薬隊ハ豫合ニテ弾薬筐ヲ提グ「直レ」ノ號合ニテ之ヲ下ニ置ク

解散ニ當リテハ指揮小隊及弾薬隊ハ通常豫メ又銃セシメタル後解散ス

機銃通

第二節 攻撃

第三百六十 機銃中隊敵ニ近接スルニハ努メテ緊縮隊形ヲ用ヒ所要ノ警戒ヲ爲シ、情況地形ニ應ジ適當ナル隊形及歩度ヲ選ビ必要ニ應ジ各小隊及弾薬隊ノ距離ヲ開キテ前進ス此ノ場合ハ基準小隊及其ノ行進目標或ハ共同ノ行進目標ヲ示スベシ

第三百六十一 各小隊及弾薬隊距離ヲ開クニ到ラバ射撃隊ハ通常中隊長ノ命令ニ依リ小隊長ノ號令ヲ以テ動作シ弾薬隊ハ弾薬隊長ニ別ニ行動ノ準據ヲ與ヘ其ノ指揮ニ依リ動作セシムルモノトス
又指揮小隊ハ中隊長ニ隨從シ各部ノ連絡ニ任ジ各部モ亦中隊長並ニ小隊相互ノ連繫ヲ失セザルコトニ注意スルヲ要ス

第三百六十二 機銃中隊ハ銃隊ノ掩護ナキトキハ自ラ所要ノ警戒ヲ爲ス

ベキモノトス之ガ爲中隊長ハ通常指揮小隊又ハ彈薬隊ノ一部ヲ用フ

第三百六十三 機銃中隊ノ使用ハ通常所屬隊長ノ意圖ニ從ヒ中隊長之ヲ定ムルモノトス之ガ爲機銃中隊ハ接敵間ト戰鬪間ト問ハズ常ニ所屬

隊長ト密接ナル連繫ヲ保ツト共ニ全般ノ情況ニ對シ注意スルヲ要ス

第三百六十四 機銃中隊ハ之ヲ分割シテ使用スベキヤ又ハ一途ニ使用スベキヤハ情況地形ニ依ルベキモノナレドモ多クノ場合短時間ニ集團的効果ヲ發揮スル爲ニハ機銃中隊ノ主力ヲ決戰方面ニ使用スルヲ要ス機銃中隊ノ一部ヲ遠ク分派スルトキハ該方面ノ銃隊ト密接ナル連絡ヲ保タシムルヲ要ス

第三百六十五 機銃中隊ハ必要ノ瞬時ニ於テ最迅速ニ陣地ニ就キ敵ノ不意ニ乘ジテ射擊ヲ開始スルコト肝要ナリ之ガ爲成ルベク豫メ必要ナル偵察ヲ遂グ充分ノ準備ヲ爲シ置クヲ要ス

第三百六十六 機銃中隊ハ全部ヲ同時ニ展開シテ戰闘ニ加入セシムベキヤ又ハ所要ニ應ジ逐次ニ加入セシムベキヤハ情況ニ依ルベキモノナリト雖モ必要ノ時機ニ猛烈ナル射擊威力ヲ短時間ニ發揮スル爲ニハ全體ヲ同時ニ展開セシムルヲ要スルコト多キモノトス

第三百六十七 機銃中隊展開ヲ行フニハ中隊長ハ成ルベク各小隊長及彈藥隊長ヲ集メ現地ニ就キ現在ノ情況ヲ示シ通常小隊毎ニ任務ヲ與ヘ且各小隊展開ノ概位ヲ示スベシ而シテ展開ノ時機ハ全ク情況ニ依ルモノ

トス
彈藥隊ノ位置ハ射擊位置ニ近ク彈藥供給ニ便ニシテ且成ルベク敵眼及敵火ニ遮蔽シアルヲ要ス

第三百六十八 展開ニ當リ彈藥隊ヲ全部射擊隊ニ分屬セシムルトキハ彈藥供給ニ便ニシテ其ノ一部ヲ以テ全射擊隊ニ供給セシムルトキハ必要

ニ應ジ彈薬隊ヲ銃隊トシテ使用スルニ便ナリ

射撃隊ノ一部ヲ遠ク分派スルトキハ所要ノ彈薬隊ヲ之ニ配屬セシムル
ヲ要ス

任務
機銃隊
中隊
長ノ間

第三百六十九 展開後機銃中隊長ハ所屬隊長、部下各小隊竝ニ比隣銃隊
トノ連絡ヲ保ツコト最モ肝要ナリ此ノ連絡ハ主トシテ指揮小隊ノ任ズ

ベキモノニシテ傳令員ハ充分活動シテ遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

第三百七十 戰闘間毎銃中隊長ハ敵情竝ニ比隣部隊ノ情況ヲ觀察シ部下
小隊ヲ指揮スルニ便ニシテ且所屬隊長トノ連絡容易ナル地ニ占位シ
般ノ戰況ニ注意シ機銃中隊ノ射擊效果ヲ觀察シテ之ヲ適切ニ指導シ彈
薬ノ使用竝ニ供給ニ關シ充分注意シ特ニ各小隊陣地ノ變換ノ時機竝ニ
新陣地ヲシテ全般ノ戰況ニ適應シ友隊トノ協同ヲ適切ナラシムルコト
緊要ナリ

機銃中隊長ハ彈薬ノ現狀ニ就テ適時所屬隊長ニ報告スベシ

第三百七十一 機銃中隊長ハ情況ニ依リ彈薬隊ノ一部又ハ全部ヲ以テ銃
隊ヲ編成シ之ヲ第一線ニ使用スルヲ要スルコトアリ

第三百七十二 機銃中隊ハ決戦時機迫ルニ從ヒ愈其ノ火力ヲ所望ノ地點

ニ集中シテ極力友隊ヲ援助スルコト必要ナリ

而シテ此ノ時機ニ於テハ指揮益困難トナルベキヲ以テ中隊長ハ充分指
揮小隊ヲ活用シ各部ノ連絡ヲ計ルコト肝要ナリ

第三百七十三 彈薬隊長ハ常ニ射撃隊ト確實ナル連絡ヲ保チ戰況ニ應ジ
彈薬ノ供給ヲ適切ニ實施スペキ任務ヲ有スルモノトス

又彈薬隊長ハ爲シ得ル限り新ニ彈薬ヲ補充スルコトニ努メ且戰闘間彈
藥ノ現狀ニ關シ適時中隊長ニ報告スベシ
彈薬隊ハ情況ニ依リ敵ノ奇襲ニ對シ射撃隊ノ側背ヲ掩護シ且一般ニ銃

隊トシテ使用セラルコト屢ナルヲ以テ之ニ即應シ得ルノ準備アルヲ要ス

第三節 防禦

第三百七十四 防禦ニ於ケル機銃ハ主トシテ斜射側射ニ依リ前地ヲ最有効ニ射撃シ火力配置ノ爲重要ナル任務ヲ擔任ス而シテ防禦ニ在リテハ通常時間ノ餘裕アルヲ以テ情況ノ許ス限り充分偵察ヲ遂ゲ所屬隊長ノ意圖ニ合スル如ク陣地ヲ選ビ所要ノ工事ヲ施シ成シ得ル限り適切ナル射撃準備ヲ爲スヲ要ス

第三百七十五 防禦ニ在リテハ機銃ハ通常小隊時宜ニ依リ分隊毎ニ分置スルモノトス然レドモ已ムヲ得ザル場合ノ外之ヲ第一線ニ於ケル銃隊ニ配屬セシメザルヲ可トス

第三百七十六 防禦ニ在リテ機銃ハ所要ノ射撃地區ニ對シ死角ヲ生ゼザル如ク射撃位置ヲ選定スルコト肝要ニシテ且一般ニ數多ノ位置ヲ準備シ置クヲ可トス此ノ場合適切ナル偽裝ノ利用ハ特ニ有利ナルコト多シ
第三百七十七 防禦ニ於テ機銃ノ射撃位置ヲ陣地ノ突出部ニ選定セバ射界廣キ利點ヲ有スレドモ敵ノ集弾ヲ受ケ易キヲ以テ巧ニ地形ヲ利用シ努メテ堅固ナル工事ヲ施シ充分ニ掩護スルコト肝要ナリ

第三百七十八 機銃ハ特ニ必要ナル場合ノ外最初ヨリ之ヲ陣地ニ配置スルコトナク通常陣地附近ニ隠匿シ置クヲ要ス然レドモ之ガ爲陣地ニ就クニ常リ機ヲ失スルコトナク又其ノ陣地ヲ發見セラレ或ハ損害ヲ被ラザル如ク注意スルコト肝要ナリ

第三百七十九 敵兵漸次我ニ近接シ次デ突撃ニ移ルニ際シテ機銃ハ毫モ損害ヲ顧ミルコトナク猛烈ナル射撃ヲ行ヒ突進シ來ル敵兵ノ擊滅ヲ圖

リ以テ逆襲ノ好機ヲ誘起スルコトニ努メザルベカラズ又大隊逆襲ニ移ルニ際シテ要スレバ斷然其ノ陣地ヲ放棄シ適時適當ナル地點ニ進出シ最有效ニ協力セザルベカラズ

第三百八十 敵兵我陣地内ニ突入スルニ到レバ機銃ハ勇敢ナル動作ニ依リ防禦ノ支點トナリ以テ我銃隊ノ逆襲ヲ容易ナラシムルヲ要ス之ガ爲突入セシ部隊ニ射撃ヲ行フベキヤ或ハ其ノ後續部隊ヲ射撃スベキヤハ一二情況ニ依ルモ各部隊長ハ獨斷ヲ以テ機宜ノ處置ヲ講ジ機銃ノ特性ヲ遺憾ナク發揮スルヲ要ス

第四節 追撃及退却

建 築 第三百八十一 追撃ニ當リ機銃ノ機宜ニ適スル行動ハ敵ニ大ナル損害ヲ與ヘ之ヲ漬亂ニ陥ラシムルモノトス

攻撃功ヲ奏シ敵陣ヲ奪取スルヤ機銃ハ機ヲ失セズ射撃ニ便ナル位置ニ進出シテ追撃射撃ヲ行ヒ敵ニ殲滅的打撃ヲ與フルト共ニ爾後ノ前進ヲ準備シ有效射撃ヲ行ヒ得ザルニ到レバ直ニ陣地ヲ變換シテ友軍ノ追撃ニ協力スルヲ要ス

第三百八十二 追撃ニ當リ一部ノ機銃ト雖モ退却スル敵ノ側背ニ進出シ射撃ヲ行フヲ得バ其ノ效果特ニ顯著ナリトス又突進スル友軍銃隊ノ側面ハ屢敵ノ反撃ニ暴露スルコトアルヲ以テ機銃ハ所要ニ際シ機ヲ失セズ之ヲ掩護スルヲ要ス

退 却 第三百八十三 退却ノ止ムナキ情況ニ當リテハ機銃隊ハ毫モ損害ヲ顧ミルコトナク肉迫スル敵ヲ猛射シ以テ銃隊ヲシテ敵ト離隔セシムルコトニ努力スルヲ要スルコト多シ此ノ際ニ於ケル機銃隊ノ奮闘ハ能ク敵ノ前進ヲ遲滞セシメ友軍ヲ危地ヨリ脱セシムルコトヲ得ルモノトス

第五節 夜 戰

夜間ノ
攻撃ノ

第三百八十四 夜間攻撃ニ於ケル機銃ハ奪取セル陣地ノ確保ニ任ズルモノトス之ガ爲通常豫備隊ト共ニ行動ス時トシテ射撃ニ依リ直接夜間攻撃ニ參加スルコトアリ

第三百八十五 夜間ノ防禦ニ於テ機銃ハ敵ノ行進路ヲ縱射シ若ハ敵ノ必ズ通過セザルベカラザル一定ノ小地區ヲ射撃シ得ル如ク準備セバ最有效ナリ此ノ場合情況ニ依リ最初ヨリ機銃ヲ射撃位置ニ就カシムルヲ有利トルコトアリ

第三百八十六 夜間ノ陣地進入ハ情況ノ許ス限り晝間豫メ偵察ヲ行ヒ射撃地圖、進入路、射撃位置、彈薬隊ノ位置等ヲ標示シ且所要ノ射撃設備ヲ整へ置クヲ要ス

第三百八十七 夜間射撃ハ其ノ設備ノ良否ニ依リ射撃效果ニ多大ノ影響アルモノトス之ガ爲所要ノ方向ニ脚ヲ正シク固定スルコト杭ヲ以テ銃ノ上下及方向照準ヲ爲シ得ル如ク標示シ薙射ノ限界ヲ示スコト及照明裝置等ヲ準備スルコトハ特ニ重要ナリ而シテ夜間ニ在リテハ友軍ニ危害ヲ及サザル如ク確實ニ之ト連繋ヲ保ツコト緊要ナリ夜間射撃ニ用ヒタル機銃ハ夜明前其ノ位置ヲ變換スルヲ要スルコト多シ

第四篇 大隊教練

通 則

第三百八十八 大隊教練ハ軍紀ヲ練リ各隊幹部ノ適切ナル協同動作ト獨

斷專行トヲ練磨シ大隊ヲ統一シテ戰鬪ヲ實施シ得ル如ク練成スルヲ主

眼トス

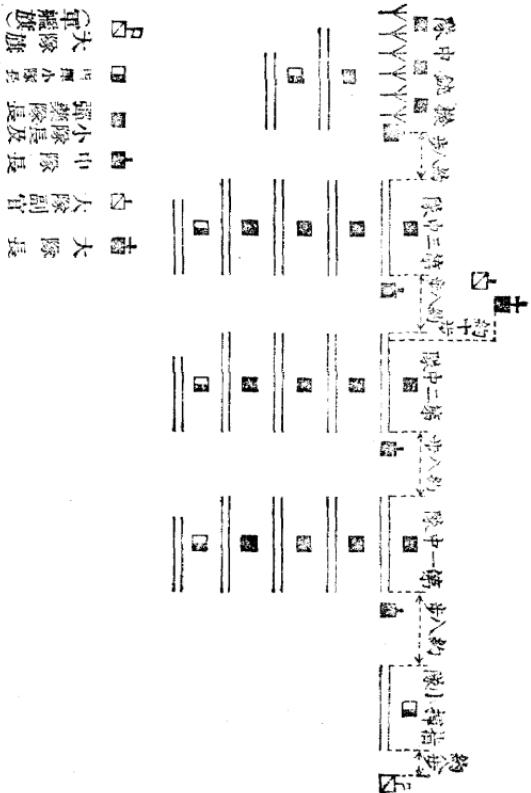
大隊二個以上聯合シテ行フ教練ノ主旨亦之ニ同ジ

第三百八十九 大隊長ハ大隊ヲ指揮スル爲號令若ハ命令ヲ用フ

第一章 密集教練

第三百九十 大隊密集教練ハ特ニ定ムルモノノ外中隊教練ノ規定ヲ準用
ス

第三百九十一 大隊ノ密集隊形ハ通常大隊横隊及大隊縱隊トス
第三百九十二 大隊横隊ノ隊形左ノ如シ



大隊縱隊ハ大隊ノ指揮小隊及各中隊ヲ前後ニ重疊シタルモノヲ云フ
併立縱隊ヲ以テ作リタル隊形ハ之ヲ併立縱隊ノ大隊旗隊若ハ大隊縱隊
ト云フ

特ニ必要ナル場合ニハ重複縱隊ヲ作ル重複縱隊ハ中隊ヲ併列シタルモ
ノヲ更ニ前後ニ重疊シタルモノトス

各隊形ニ於テ中隊間ノ距離ハ特令ナケレバ約八歩トシ要スレバ大隊長
ハ各部ノ距離ヲ伸縮シ中隊ノ順序ニ拘ラズ配置セシメ且大隊旗及指揮
小隊ノ位置ヲ適宜定ムルコトヲ得

第三百九十三 大隊旗（軍艦旗）ハ密集隊形ニ在リテハ通常指揮小隊ノ右
翼若ハ先頭ニ位置ス

第三百九十四 大隊長ハ情況ニ依リ密集教練ニ於テハ大隊ノ指揮小隊及
機銃中隊ヲ分離セシムルコトヲ得又大隊ニ附屬隊ヲ附セラレタル場合

其ノ位置ハ大隊長適宜之ヲ定ムルモノトス

第三百九十五 大隊ノ整頓、行進、隊形變換及方向變換ヲ爲スニ當リ要
スレバ基準中隊及各中隊ノ關係位置等ヲ示スモノトス
行進中ノ大隊ヲ停止セシムルニハ「大隊 止レ」ノ號令ヲ下ス

第二章 戰鬪

第三百九十六 大隊ノ戰鬪ニ陸戰教範戰鬪ノ部ニ定ムルトコトニ從ヒ之
ヲ實施スルモノトス

第五篇 附屬隊教練

通則

第三百九十七 各附屬隊ハ其ノ分擔ニ從ヒ各最善ヲ盡シ戰闘部隊ノ任務遂行ヲ容易ナラシムルコトニ努ムベキモノトス之ガ爲各附屬隊ノ教練ハ軍人精神ヲ^{培養}ヒ軍紀ヲ^{整頓}ヒ其ノ分擔事項ニ就キ各充分ニ能力ヲ發揮シ戰闘部隊ニ協力スルコトヲ演練スルヲ主眼トス

第三百九十八 附屬隊教練ハ本篇ニ規定スル外第一篇及第二篇ノ規定ヲ準用ス

第三百九十九 附屬隊ノ集合ニハ特ニ規定スルモノノ外横隊ヲ用ヒ隊長ハ通常隊ノ中央前約二歩ノ所ニ位置ス

第四百一 各附屬隊ノ長ハ適時ニ命令ヲ受領シ難キ場合屢ナルヲ以テ徒ニ指揮官ノ命令ノミヲ待ツコトナク進ンテ意見ヲ具申シ要スレバ獨斷ヲ以テ機宜ニ適スル處置ヲ爲スコト肝要ナリ

通信隊

第一章 通信隊

第四百一 通信隊ハ主トシテ遠隔セル各部隊長間ノ通信連絡ニ任ズベキ

モノニシテ通常手旗、發音、發光、旗旛信號、電話及無線電信ヲ主用シ必要ニ應ジ各種ノ器具ヲ使用シテ其ノ任務達成ニ努ムベキモノトス

第四百二 通信作業ハ通常晝夜ヲ問ハズ日長時間ニ亘ルヲ以テ各員ハ特ニ熱心事ニ從フト共ニ器具ノ取扱ニ精通シ充分其ノ能力ヲ發揮シテ通信ノ確實迅速ヲ期スルヲ要ス

第四百三 通信網ノ構成ハ攻撃ト防禦トヲ問ハズ通信能力發揮ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ現在並ニ將來ノ情況ニ鑑ミ特ニ注意シテ選定スルヲ要ス

第四百四 通信所ノ長ハ通信所下所屬隊長及附近ニ在ル友軍トノ連絡ニ

第五篇 附屬隊教練 通信隊

關シ注意スルヲ要ス

第四百五 通信ニ關シテハ本章ニ記載スルモノノ外陸戰教範指揮及連絡ニ關スル章ニ依ルベシ

工作隊 第二章 工作隊

第四百六 工作隊ハ主トシテ陣地ノ構築及破壊作業ノ内其ノ重要ナル部分ノ實施ニ任ジテ戰闘部隊ニ協力シ且交通及通信機器並ニ宿營設備等ノ工事ヲ實施スペキモノトス

第四百七 工作隊ノ作業ハ通常休憩ヲ屢シ連續實施スルヲ要スルヲ以テ各員ハ常ニ旺盛ナル志氣ト不撓ノ忍耐トヲ以テ之ニ當ラザルベカラズ又敵彈下ニ於ケル礮破ノ如キ作業ハ特ニ果敢ト敏速トヲ要スルモノトス

第四百八 工作隊ニ關シテハ本章ニ記載スルモノノ外陸戰教範陸上工作ニ關スル章ニ依ルベシ

第三章 豫備彈藥隊

第四百九 豫備彈藥隊ハ彈藥ノ運搬及配給ニ當ルベキモノニシテ戰況ニ應じ適時所要ノ地點ニ達シ弾藥配給ノ準備ヲ整ヘアルヲ要ス之ガ爲各員ハ堅忍不拔必要ニ際シテハ如何ナル困難ト雖モ之ニ打チ勝チ以テ任務遂行ノ一途ニ邁進スルコト肝要ナリ

第四百十 戰闘間豫備彈藥隊ハ各隊ニ分屬セラレタル場合ト一所ニ集合シアル場合トヲ問ハズ其ノ位置ヲ適當ニ選定スルハ最緊要ニシテ通常其ノ所屬隊長ヨリ命令セラルベキモノナレドモ豫備彈藥隊長ノ獨斷ニ依リ情況ニ適應スル如ク決セラルルコトモ少カラズ而シテ多クノ場合

其ノ隊ノ豫備隊ト遠ク離隔セザルヲ可トス

戦闘間豫備彈藥隊其ノ位置ヲ決定セバ之ヲ關係各部ニ通報シ置クヲ要ス

第四百十一 戰場ニ於テ彈藥ハ最重要ナリ故ニ其ノ取扱ハ充分ノ注意ヲ要ス又豫備彈藥ノ配給ハ通常所屬隊長ノ命令ニ依ルベキモノトス

第四百十二 豫備彈藥隊長ハ一部ト雖モ彈藥ヲ配給シタルトキハ爲シ得ル限リ速ナル時機ニ於テ更ニ之ガ補充ニ努ムベシ

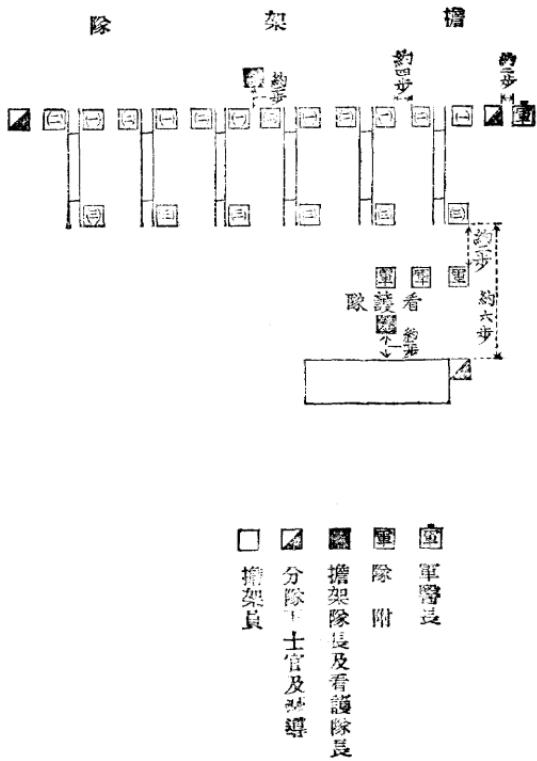
第四百十三 豫備彈藥隊長ハ戰闘間適時彈藥ノ現狀ヲ所屬隊長ニ報告スベシ

醫務隊

第四章 醫務隊

第一節 集合隊形

集合隊



第二節 擔架隊

第四百十五 擔架隊ノ運動ハ豫令ニテ擔架ヲ持チ動令ニテ發動シ動作ヲ終リタル後之ヲ地上ニ置ク外徒手教練ニ達ズ
 一 擔架ノ運動ハ(一)先頭擋架手(左ニ方向ヲ變換スルトキハ(二))ヲ基準
 ツシテ動作スルモノトス

第四百十六 擔架隊ハ戰闘ニ際シ要スレバ各隊、治療所及繩帶所ニ豫メ分属ミシムベキモノニシテ其ノ配屬ノ決定ハ豫想スル戰況及戰線ト治療所又ハ繩帶所トノ間ノ交通ノ便否ニ依ルベシ

而シテ其ノ配置、通常陸戰隊指揮官ノ指示ニ依リ軍醫長ノ決スベキモノトス

第四百十七 各隊ニ分封セラレタル擔架隊員ハ當該隊長ノ區署ヲ受ケ多

クハ豫備隊ノ附近ニ位置シ死傷者ヲ生ジタルトキハ應急處理ヲ爲シ且步行スルコトヲ得ザル傷者ヲ治療所又ハ繩帶所ニ運搬スルモノトス之ガ爲擔架隊員ハ傷者ノ應急手當ヲ爲シ且障礙物ヲ越エテ傷者ヲ運搬スルコトニ習熟スルヲ要ス

第四百十八 擔架隊員傷者ヲ運搬スルニハ傷者ノ彈藥ヲ附近ノ兵ニ交付シ小銃ハ彈藥包ヲ抜キ出シ所持品ハ爲シ得ル限リ傷者ト共ニ運搬スペシ

第四百十九 飲料水ハ傷者ノ爲屢必要ナルヲ以テ擔架隊員ハ常ニ之ヲ準備シ置クヲ要ス

第四百二十 戰線ニ於ケル死者ハ傷者ヲ運搬シタル後之ヲ處置スルモノトス

第四百二十一 擔架隊員ハ傷者運搬ノ途中死狀ヲ呈シ若ハ死歿スルモノ

ニ之ヲ死者トシテ取扱フベカラズ

第四百二十二 戰鬪後擔架隊員ハ各隊ノ搜索員ト協力シテ戰線ノ近傍ヲ
搜索シ死傷者ノ收集ニ從事スベシ搜索ニ當リテハ蔭蔽地、壕内等ハ特
ニ注意シ又夜間敵前ニ於ケル搜索ニ在リテハ靜肅ヲ保チ燈火ノ使用ニ
注意スルヲ要ス

看護隊

第三節 看護隊

第四百二十三 戰鬪ニ當リ看護隊ハ治療所ヲ開設シ傷者ノ治療ニ任ジ要
スレバ 戰線ニ近ク別ニ繡帶所ヲ設ケ傷者ノ應急手當ニ任ズルモノトス

第四百二十四 治療所ノ概位ハ通常陸戰隊指揮官之ヲ軍醫長ニ示シ軍醫
長ハ之ニ基キ其ノ位置ヲ決定スベキモノニシテ成ルベク敵火ヲ避ケ且
戰線各部トノ交通便利ニシテ水ヲ得ルニ容易ナル地點ヲ選ビ家屋ヲ利
シ

用スルヲ可トス

第四百二十五 繡帶所ハ治療所ト遠隔セル戰線ノ後方ニ必要ニ應ジ設ク
ベキモノニシテ其ノ開設ハ通常陸戰隊指揮官ノ命令ニ依ルベキモノナ
レドモ情況ニ應ジ軍醫長ノ獨斷ニ依ルコトアリ

第四百二十六 繡帶所ニハ看護隊ヨリ所要ノ人員ヲ分派スルモノニシテ
其ノ位置ハ治療所ニ準ジ選定スベキモノトス

第四百二十七 治療所及繡帶所ニハ赤十字旗ヲ國旗ト共ニ掲揚シ夜間ハ
更ニ赤十字燈ヲ掲ゲテ其ノ位置ヲ標示シ且要スレバ道路標識ヲ設クベ
シ

治療所及繡帶所ノ位置ヲ決定セバ通常各部隊ニ通報スルモノトス
第四百二十八 死者及重傷者ノ貴重品ハ軍醫長之ヲ保管シ目録ヲ添ヘ主
計長ニ移スモノトス

主計隊 第五章 主計隊

第四百二十九 戰闘間主計隊ハ食事ヲ準備スルヲ主要ナル任務トシシ爲シ得ル限り主計隊自ラ之ヲ各隊ニ分配スルモノトス又情況ニ依リ一部ヲ以テ醫務隊ノ作業其ノ他ヲ援助スルコトアリ

第四百三十 炊事場ノ概位ハ通常陸戦隊指揮官之ヲ主計長ニ示シ主計長ハ之ニ基キ其ノ位置ヲ決定スペキモノニシテ成ルベク敵火ヲ避け且交通便利ニシテ水ヲ得ルニ容易ナル地點ヲ選ビ家屋ヲ利用スルヲ可トス炊事場ノ位置ハ要スレバ標識ヲ設ケ明示スペシ

第四百三十一 主計隊ニ關シテハ本章ニ記載スルモノノ外陸戦教範ノ駐軍及給與ニ關スル章ニ依ルベシ

第六篇 軽機銃教練

通則

四四

第四百三十二 軽機銃ハ通常銃隊と行動ヲ共ニシ密接ニ之ニ協力シ其ノ連續發射ノ威力ヲ發揮スルヲ本務トス故ニ銃手ハ射擊ニ熟達シ且銃各部ノ構造機能ヲ知悉シ以テ故障ノ豫防及其ノ排除ニ習熟スルト共ニ克ク長距離ノ運動ニ堪フルヲ要ス

第四百三十三 銃手ハ(一)及(二)等トシ(射)以外ノ銃手ハ情況ニ依リ適宜之ヲ定メ主トシテ彈薬供給ニ任ズルモノトス
爲シ得レバ輕機銃一挺ヲ以テ分隊ヲ編成シ銃手ノ外ニ分隊下士官ヲ置クモノトス

第四百三十四 軽機銃ノ彈薬、要具囊及手入具囊等ハ銃手ノ負數ニ應ジ適宜之ヲ分擔 指行スルモノトス

第四百三十五 駆機銃ノ操作ニ就キテハ本篇ニ規定スル外執銃教練及機銃教練ノ規定ヲ擧居シ其ノ取扱ニ關シテハ艦砲取扱教範ニ依ルモノトス

一、不動ノ姿勢
不動ノ姿勢
右(左)向キ及後ロ向キヲ爲スニハ左手ヲ以テ銃口ノ下ノ

方ヲ握リ兩手ヲ以テ少シ銃ヲ上ゲ小銃ヲ持ツトキノ如ク廻リ動作終レバ床尾踵ヲ置ク所ニ注目シテ靜ニ之ヲ下ロシ左手ヲ舊位ニ復ス

第四百三十八 「組メ銃」ノ號令ニテ軽機銃ヲ持ツ者ハ脚ヲ開キ概不又銃ヲ下ロス

ニ準ヒテ銃ヲ地ニ置キ「解ケ銃」ノ號令ニテ脚ヲ閉ヂ不動ノ姿勢ヲ取ル
二、擔銃及立銃
立銃及反擔銃

第四百三十九

擔銃ハ上體ヲ前ニ曲グ左手ヲ以テ銃把ヲ握リ上體ヲ起スト同時ニ兩手ヲ以テ銃ヲ上ゲ銃身ヲ上ニスル如ク銃ヲ右肩ニ擔ヒ次ニ右手ヲ以テ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握リ銃ハ概ニ體ノ中央ノ線ト平行セシメ用心金ヲ右乳ノ上ニ在ラシムル如クシ左手ヲ下ロス

第四百四十 擔銃ヨリ立銃ヲ爲スニハ左手ヲ以テ銃把ヲ握リ銃ヲ少シク下ダ右手ヲ以テ放熱筒ノ下部ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ下ロシ上體ヲ前ニ曲グ床尾踵ヲ置ク所ニ注目シテ靜ニ之ヲ置キ左手ヲ放チ上體ヲ起ス

三、折敷ケ及伏セ

反折伏セ

第四百四十一 折敷ケハ執銃ニ準ジテ姿勢ヲ取り左手ヲ以テ銃把ヲ握リ

第六篇 輕機銃教練 通則

床尾踵ヲ置ク所ニ注目シテ右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ以テ概ネ放熱筒ノ下部ヲ握リ右臂ヲ伸シ左前臂ヲ左膝ノ上ニ置ク伏セハ執銃ニ準ジラ姿勢ヲ取り脚ノ基部ヲ左手ノ掌ニ托シ開挺ヲ左ニシ銃ヲ保ツ「立テ」ニテ立チタル後左手ヲ以テ銃口ノ下ノ方ヲ握リ不動ノ姿勢ニ復ス

四、射撃及運動

打方ノ 第四百四十二 打方ハ數發每ノ點射、連續點射及續射トス

數發每ノ點射ハ一粒ニ用フル打方ニシテ通常約五發常發射シ一點目標ニ對シテハ之ヲ反復シ疎散ナル廣正面ノ目標ニ對シテハ之ヲ移動スルモノトス

連續點射ハ瞬間現出スル有利ナル一點目標ニ對シ又癮射ハ瞬間現出スル機密ニシテ廣正面ヲ有スル大ナル目標ニ對シ一時之ヲ行フモノトス

第四百四十三 射撃姿勢ハ通常伏打トス

伏打ノ姿勢ヲ取ルニハ腕ニ注目シテ之ヲ體ニ托シ兩手ヲ以テ脚ヲ開キ左手ヲ以テ脚ノ基部ヲ右手ヲ以テ銃把ヲ握ルト同時ニ左足ヲ約一步前ニ踏み出シ銃把ヲ左足尖ノ右傍ニ在ランムル如ク示サレタル目標（方向）ニ對シ銃ヲ据エタル後銃床ノ兩側ニ兩手ヲ署キ體ノ方向ヲ銃ト約十度ノ角度ヲ保ソ如ク左後方ニ伏臥シ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ左手ヲ以テ壓持ヲ上方ニ起シ彈薬小袋（弾薬盒）ノ蓋ヲ開キ弾薬包ヲ撮ミ出シ弾頭ヲ前ニシ弾倉内ニ込メ壓持ヲ閉チ確實ニ開挺ヲ握リ一擧ニ充分後方ニ引キ裝填シ舊位ニ復シタル後銃床鼻ノ前方ヲ左上方ヨリ握ル

第四百四十四 裝填及抜キ出シハ通常銃隊ト同時ニ行ハザルモノトス特令ニ依リ弾倉内ニ弾薬包ヲ填元スルニハ伏打ニ準ジテ銃ヲ地ニ置キ適宜ノ姿勢ニテ弾倉内ニ弾薬包ヲ填充シタル後安全裝置ニ爲ス

装填 牛出

照據
準統及

第四百四十五 据銃ハ概ニ左圖ニ示ス要領ニ從ヒ照準ハ成ルベク左眼ヲ
拔キ出シハ打方止メニ於ケル動作ニ準ズ
閉ヅルコトナク行フヲ可トス



確滅ラ來シ射弾ヲ散布セシムル原因トナシ

一一一

一、體ト筋身ノ角度ハ儀
二、兩手ヲ以テ銃ノ左ニ傾シ
三、肩ハ擬レコトナリ自體
四、右手ハ腕ヲ要ス
五、左手ハ五指ヲ擴ヘテ腕
六、頬ハ輕ク床ニ接シ頭
七、兩肘ハ肩ノ幅ヨリ僅ニ
八、腰ト筋前方ニ出スラ
九、腰筋放鬆
十、指トタヌケ向シ指ト
十一、腕ヲ充分迴シ握把ニ接著
十二、カザルム如ク銃床ヲ保持シ
十三、床尾歎ハ肩三疊署ス
十四、力モ左ニ矢符
十五、兩手ヲ以テ銃ノ左ニ傾シ
十六、少ナルヲ要ス
十七、體ト筋身ノ角度ハ儀
十八、儀ト筋身ノ角度ハ儀
十九、腰筋放鬆
二十、腰筋放鬆
二十一、腰筋放鬆
二十二、腰筋放鬆
二十三、腰筋放鬆
二十四、腰筋放鬆
二十五、腰筋放鬆
二十六、腰筋放鬆
二十七、腰筋放鬆
二十八、腰筋放鬆
二十九、腰筋放鬆
三十、腰筋放鬆
三十一、腰筋放鬆
三十二、腰筋放鬆
三十三、腰筋放鬆
三十四、腰筋放鬆
三十五、腰筋放鬆
三十六、腰筋放鬆
三十七、腰筋放鬆
三十八、腰筋放鬆
三十九、腰筋放鬆
四十、腰筋放鬆
四十一、腰筋放鬆
四十二、腰筋放鬆
四十三、腰筋放鬆
四十四、腰筋放鬆
四十五、腰筋放鬆
四十六、腰筋放鬆
四十七、腰筋放鬆
四十八、腰筋放鬆
四十九、腰筋放鬆
五十、腰筋放鬆
五十一、腰筋放鬆
五十二、腰筋放鬆
五十三、腰筋放鬆
五十四、腰筋放鬆
五十五、腰筋放鬆
五十六、腰筋放鬆
五十七、腰筋放鬆
五十八、腰筋放鬆
五十九、腰筋放鬆
六十、腰筋放鬆
六十一、腰筋放鬆
六十二、腰筋放鬆
六十三、腰筋放鬆
六十四、腰筋放鬆
六十五、腰筋放鬆
六十六、腰筋放鬆
六十七、腰筋放鬆
六十八、腰筋放鬆
六十九、腰筋放鬆
七十、腰筋放鬆
七十一、腰筋放鬆
七十二、腰筋放鬆
七十三、腰筋放鬆
七十四、腰筋放鬆
七十五、腰筋放鬆
七十六、腰筋放鬆
七十七、腰筋放鬆
七十八、腰筋放鬆
七十九、腰筋放鬆
八十、腰筋放鬆
八十一、腰筋放鬆
八十二、腰筋放鬆
八十三、腰筋放鬆
八十四、腰筋放鬆
八十五、腰筋放鬆
八十六、腰筋放鬆
八十七、腰筋放鬆
八十八、腰筋放鬆
八十九、腰筋放鬆
九十、腰筋放鬆
九十一、腰筋放鬆
九十二、腰筋放鬆
九十三、腰筋放鬆
九十四、腰筋放鬆
九十五、腰筋放鬆
九十六、腰筋放鬆
九十七、腰筋放鬆
九十八、腰筋放鬆
九十九、腰筋放鬆
一百、腰筋放鬆
一百零一、腰筋放鬆
一百零二、腰筋放鬆
一百零三、腰筋放鬆
一百零四、腰筋放鬆
一百零五、腰筋放鬆
一百零六、腰筋放鬆
一百零七、腰筋放鬆
一百零八、腰筋放鬆
一百零九、腰筋放鬆
一百一十、腰筋放鬆
一百一十一、腰筋放鬆
一百一十二、腰筋放鬆
一百一十三、腰筋放鬆
一百一十四、腰筋放鬆
一百一十五、腰筋放鬆
一百一十六、腰筋放鬆
一百一十七、腰筋放鬆
一百一十八、腰筋放鬆
一百一十九、腰筋放鬆
一百二十、腰筋放鬆
一百二十一、腰筋放鬆
一百二十二、腰筋放鬆
一百二十三、腰筋放鬆
一百二十四、腰筋放鬆
一百二十五、腰筋放鬆
一百二十六、腰筋放鬆
一百二十七、腰筋放鬆
一百二十八、腰筋放鬆
一百二十九、腰筋放鬆
一百三十、腰筋放鬆
一百三十一、腰筋放鬆
一百三十二、腰筋放鬆
一百三十三、腰筋放鬆
一百三十四、腰筋放鬆
一百三十五、腰筋放鬆
一百三十六、腰筋放鬆
一百三十七、腰筋放鬆
一百三十八、腰筋放鬆
一百三十九、腰筋放鬆
一百四十、腰筋放鬆
一百四十一、腰筋放鬆
一百四十二、腰筋放鬆
一百四十三、腰筋放鬆
一百四十四、腰筋放鬆
一百四十五、腰筋放鬆
一百四十六、腰筋放鬆
一百四十七、腰筋放鬆
一百四十八、腰筋放鬆
一百四十九、腰筋放鬆
一百五十、腰筋放鬆
一百五十一、腰筋放鬆
一百五十二、腰筋放鬆
一百五十三、腰筋放鬆
一百五十四、腰筋放鬆
一百五十五、腰筋放鬆
一百五十六、腰筋放鬆
一百五十七、腰筋放鬆
一百五十八、腰筋放鬆
一百五十九、腰筋放鬆
一百六十、腰筋放鬆
一百六十一、腰筋放鬆
一百六十二、腰筋放鬆
一百六十三、腰筋放鬆
一百六十四、腰筋放鬆
一百六十五、腰筋放鬆
一百六十六、腰筋放鬆
一百六十七、腰筋放鬆
一百六十八、腰筋放鬆
一百六十九、腰筋放鬆
一百七十、腰筋放鬆
一百七十一、腰筋放鬆
一百七十二、腰筋放鬆
一百七十三、腰筋放鬆
一百七十四、腰筋放鬆
一百七十五、腰筋放鬆
一百七十六、腰筋放鬆
一百七十七、腰筋放鬆
一百七十八、腰筋放鬆
一百七十九、腰筋放鬆
一百八十、腰筋放鬆
一百八十一、腰筋放鬆
一百八十二、腰筋放鬆
一百八十三、腰筋放鬆
一百八十四、腰筋放鬆
一百八十五、腰筋放鬆
一百八十六、腰筋放鬆
一百八十七、腰筋放鬆
一百八十八、腰筋放鬆
一百八十九、腰筋放鬆
一百九十、腰筋放鬆
一百九十一、腰筋放鬆
一百九十二、腰筋放鬆
一百九十三、腰筋放鬆
一百九十四、腰筋放鬆
一百九十五、腰筋放鬆
一百九十六、腰筋放鬆
一百九十七、腰筋放鬆
一百九十八、腰筋放鬆
一百九十九、腰筋放鬆
二〇〇、腰筋放鬆

打方始

第四百四十六 引金ヲ引クニハ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメザル爲右手ヲ以テ銃把ヲ確實ニ握リ食指ノ第三節ヲ根ニ近ク或ハ第二節ヲ引金ニ掛ケテ之ヲ壓シ微弱ノ力ニテ終ニ撃發シ得ルニ至ラシム而シテ連續發射中食指ヲ緩メザルコト及撃發ノ後敏速ニ食指ヲ伸スコトニ熟スルコト繫要ナリ

打方待

第四百四十七 「打方待テ」ノ號令ニテ食指ヲ引金ヨリ外シ床尾飯ヲ肩ヨリ下ロシ注目シテ彈倉内ニ弾薬包ヲ補フ

打方止

第四百四十八 「打方止メ」ノ號令ニテ食指ヲ引金ヨリ外シ床尾飯ヲ肩ヨリ下ロシ注目シテ左手ヲ以テ壓搾ヲ上方ニ起シ弾薬包ヲ縁ミ出ス最下層ノ弾薬包ヲ抜キ出スニハ左手ノ指ヲ押彈子落下窓ニ入レ挿弾子ヲ押シ上ゲ右手ヲ以テ撮ミ出シ弾薬小篋(弾薬盒)ニ入レタル後彈受坐ノ上ニ弾薬包アラバ打穀拔(罕)ヲ以テ之ヲ抜キ出シ更ニ残弾ナキヲ踏メタ

運動

第四百四十九 攻撃ニ在リテ火線燐成後撃交続ハ銃隊ヨリ先行セシムベキヤ銃隊ト行動ヲ共ニセシムベキヤ或ハ其ノ後方に在リテ銃隊ノ前進ヲ援助セシムベキヤハ一般ノ情況特ニ地形ニ依ルト雖モ情況之ヲ許セバ努メテ前方ニ進出シ以テ銃隊ノ前進ヲ援助セシムルコトニ顧慮スルヲ必要トス

而シテ射撃シアルトキ「廻歩」「早廻」「前ヘ」ノ號令アルトキハ射ハ「廻歩」(早廻)ノ號令ニテ銃ヲ安全裝置ニシ「前ヘ」ノ號令ニテ體ヲ起シ右手ヲ以テ銃把ヲ左手ヲ以テ握革ニ依リ放熱筒ノ中央部附近ヲ下方

ヨリ握リ直ニ駆歩(早駆)ニテ前進ス速歩ニテ前進スル場合モ之ニ準ズ
第四百五十 攻撃ニ在リテハ軽機銃ハ當初ヨリ之ヲ火線ニ出シ銃隊ノ攻
 撃ヲ容易ナラシムルヲ主眼トシテ行動セシムルモノトス而シテ其ノ射
 擊目標ハ通常固定セル一地區ヲ與フルコトヲ避ケ成ル可ク目標變換ノ
 迅速ナル特性ヲ發揮セシムル如ク使用スルヲ可トス

輕機銃ハ敵火ノ集中ヲ被リ易キヲ以テ努メテ地形ヲ利用シテ敏活ニ行
 動シ、停止セバ迅速適切ニ地形地物ヲ利用シテ銃ヲ据エ擊發裝置ニシ
 射擊ノ用意ヲ整フルモノトス

第四百五十一 輕機銃ハ地形地物ヲ利用スル射擊ニ在リテモ通常脚ヲ用
 フルモノトス

地形地物ヲ利用シテ射擊スル爲銃ヲ据エルニハ敵ノ位置及兩脚竝ニ兩
 肘ノ位置ノ高低ノ關係ヲ適當アラシムルコト特ニ緊要ナリ又銃ノ位置

ハ發射ニ當リ銃口前ニ塵煙ノ揚ラザル如ク顧慮スルヲ要ス

銃ヲ直接地物ニ依託シテ射擊スルノ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ瓦斯排
 出孔ヲ塞ガザルコト、擲弾子ノ落下ヲ妨ゲザルコト及銃口ハ地面ヨリ
 少クモ一握程ヲ離隔セシムルコトニ注意スペシ

第四百五十二 防禦ニ在リテハ軽機銃ハ主トシテ斜射側射ニ用フルモノ

トス而シテ其ノ射擊區域内ニ充分ナル火力ヲ及シ得ザルベカラズ若シ
 同一位置ニ於テ充分ナル火力ヲ發揚シ得ザルトキハ射擊位置ノ移動ニ
 依リ此ノ缺ヲ補フ爲豫メ別ニ射擊位置ヲ準備シ置クコト必要ナリ

五、故障ノ處置

故障ノ

第四百五十三 射擊ノ效果ヲ發揚スルニハ射擊中故障ヲ生ゼシメザルコ

ト特ニ緊要ナリ之ガ爲戰闘間ト雖モ爲シ得ル限り銃ノ點檢及手入ヲ行
 ヒ以テ機能ヲ整備スルト共ニ射擊中常ニ爆音ノ調子ト打殼蹴リ出シノ

彈
下
不
落
彈
子

状態ニ留意スルヲ要ス特ニ爆音ノ状態ニ依リ機能ノ良否ヲ判別シテ故障ヲ豫防シ若シ故障ヲ生ジタル場合ハ射ハ(要スレバ)(一分ハ之ヲ助ク)速ニ之ヲ排除シ永ク射击ヲ中絶セザルコト肝要ナリ

第四百五十四 射撃中故障ヲ生ジタルトキハ直ニ挿弾子落下窓ヲ換ス若シ挿弾子落下不良ナルトキハ速ニ据銃ノ儘左手ヲ以テ之ヲ除去ス尙取レザル場合ハ左手ヲ以テ壓擣テ上方ニ起スカ已ムヲ得ザレバ薬莢包ヲ抜キ出シテ除去ス

打
不
落
彈
子
彈
不
落
彈
子

打設就出不良ノ場合ハ開撃ヲ引キ尾栓ヲ僅ニ後退セシメ打設ヲ除去シタル後更ニ開撃ヲ其ノ位置ヨリ充分引ク(此ノ際薬室ニ彈薬包裝填セラレアルコトアリ然ルトキヘ打設拔(甲)ヲ以テ之ヲ抜キ出シタル後開撃ヲ充分引ク)

第四百五十五 射撃中彈送不良ヲ生ジタル場合ハ先づ開撃ヲ引キ故障彈

ア 弾受坐上ノ正位ニ送ル若シ正位ニ送リ得ザルトキハ開撃ヲ後退セシメ之ヲ保持ス

栓拔ヲ以テ故薬弾ヲ彈倉内ニ突キ戻ス此ノ際突キ戻スニ從ヒ徐々ニ尾栓ヲ前進セシムベシ

若シ突キ戻シ得ザルトキハ彈倉内ノ彈薬包ヲ撮ミ出シタル後前項ニ準ジ排除スペシ

突
込
き

第四百五十六 射撃中突込ミヲ生ジタル場合ハ開撃ヲ引キ蓮ニ尾栓ヲ後退セシメ(尾栓ノ先端ガ薬莢^{カツカツイダ}出窓ノ後端附近ニ到ル迄)之ヲ保持ス打設拔(甲)ヲ以テ突込弾ヲ彈受坐上ニ押シ戻シ薬室内ノ打設薬莢ヲ抜キ出シタル後突込弾ヲ薬室内ニ押シ入レテ之ヲ抜キ出ス

打設薬莢莢室内ニ在ラザル場合ニ於テモ亦概ネ前項ニ準ズ

六、彈薬ノ補充

補
充
ノ

第四百五十七 充分ナル彈薬ノ準備ハ輕機銃ノ威力發揮上特ニ必要ナリ
之ガ爲情況特ニ目標ノ狀態、彈薬ノ現數ヲ顧慮シ爲シ得ル限り之ヲ節
用スルト共ニ其ノ補充ニ關シ深甚ノ注意ヲ怠ラズ必要ノ時機ニ有效ナ
ル射擊ヲ爲シ得ル如ク著意スルコト最緊要ナリ(分)(射)ハ時々彈薬ノ現
數ヲ所屬隊長ニ報告シ之ガ補充ヲ受クル等彈薬ニ不足ナカラシムルコ
トニ關シ其ノ責ニ任ズベキモノトス

第七篇 拳銃教練

總則

第四百五十八 拳銃ハ取扱輕易ニシテ不慮ノ危害ヲ生ジ易キヲ以テ其ノ
取扱及射擊ニ際シテハ深甚ノ注意ヲ要ス

第四百五十九 拳銃ノ操作ニ就キテハ本篇ニ規定スル外執銃教練ノ規定
ヲ準用ス

ノ 彈薬包 充

第四百六十 本篇ハ陸式拳銃ニ付キ規定ス一四式拳銃ニ付キテハ其ノ異
ル所ヲ(一)内ニ示シ其ノ他ノ拳銃ニ在リテハ之ニ準ヅルモノトス

第四百六十一 拳銃ハ彈薬包ヲ填充シタル彈倉ヲ銃把ニ嵌装シ(安全裝
置ニ爲シ)銃囊ニ收メ之ヲ携帶スルヲ例トス

第四百六十二 拳銃ヲ取り出スニハ注目シテ銃囊ノ蓋ヲ閉キ右手ヲ以テ
銃把ヲ握リ拳銃ヲ出シ拳ヲ右肩ノ前方一握程ノ所ニ於テ之ヲ保チ銃口
ヲ上ニ向ケ用心金ヲ前ニシ食指ヲ之ニ添ヘテ伸ス拳銃ヲ收ムルニハ出
ストキト概ネ反對ノ順序ヲ以テス

第四百六十三 彈倉ニ彈薬包ヲ填充スルニハ左手ヲ以テ彈倉ヲ握リ其ノ
拇指(はづき)ノ頭ニテ指掛ヲ少シク下方ニ壓シ右手ニテ彈薬包ヲ彈倉ニ裝入シ
逐次指掛ヲ少シツツ壓下シ彈藥包八發ヲ填充ス但シ彈藥包填充ノ儘長
期ニ亘リ使用スル場合ハ發條力保護ノ爲四、五發填充ノ狀態ニ在ラシ

ムルヲ可トス

彈倉ノ
機械

第四百六十五 銃銃ノ射撃ハ概不立打トス
 立打ノ姿勢ヲ取ルニハ先づ目標ニ正對シ左足ヲ約半歩側方ニ踏ミ開キ
 注目シテ拳銃ヲ取り出し右手ノ食指ヲ用心金ニ添ヘテ伸シ銃口ヲ前ニ
 向ケ(発砲装置ニ爲シ)尾栓ヲ充分後方に引キ更ニ之ヲ舊位ニ前進セシ
 メ弾薬包ヲ装填シ前の方ヲ直視シ右手ヲ伸シ拳銃ヲ機木眼ノ高サニシ
 左手ヲ以テ右手ノ上ヨリ銃把ヲ握ルカ又ハ右手ノ腕關節ヲ握ル

第四百六十六 射撃ヲ爲スニハ照尺ヲ調へ小鏡ニ準ジ照準シ右手ヲ以テ
 安全機ヲ離シ右手ノ食指ヲ以テ引金ヲ壓シ發射ヲ爲ス

第四百六十七 射撃ヲ中止スルニハ照準發射ヲ中止シ射撃姿勢ニ復ス
 穢倉ノ弾薬包ヲ打盡シタル場合ニ在リテハ彈倉ヲ交換シ空筒ヲ爲ス

第四百六十八 射撃ヲ止メタルトキハ照尺ヲ舊位ニ復シ彈倉ヲ抜キ出シ
 銃身ヲ下ニシ左手ニ拳銃ヲ持テ右手ヲ以テ尾栓ヲ後方に引キ彈薬室ニ
 在ル弾薬包ヲ抜キ取り尾栓ヲ前進セシメ右手ヲ以テ拳銃ヲ持チ銃口ニ
 注意シ輕ニ引金ヲ引き抜キ取りタル弾薬包ヲ彈倉ニ填在シ第四百六
 十四ニ準ジ弾薬包ヲ填充シタル彈倉ヲ銃把ニ嵌装シ(安全機置キニ爲シ)
 參照テ銃機ニ收メタル後右足ヲ左足ニ引キ著ケ不動ノ姿勢ニ復ス

第四百六十九 銃ノ點検ハ拳銃ヲ取り出シ彈倉ヲ抜キ取り之ヲ左手ニ持
 テ(擊發裝置ニ爲シ)尾栓ヲ充分後方ニ引キ之ヲ元ニ復ス

機械ノ點

點檢ニ際シ更ニ尾栓ヲ後方ニ引ク
點檢終ラバ各自尾栓ヲ元ニ復シ銃口ニ注意シ靜ニ引金ヲ引キ（安全裝置ニ爲シ）彈倉ヲ銃把ニ取装シ發銃ヲ銃叢ニ取ム

第八篇 射擊教育

通則

第四百七十 本篇ハ主トシテ小銃ニ就キ規定ス機銃、輕機銃及拳銃ニ就キテハ概ネ小銃ニ準ズ

第四百七十一 射擊教育ハ本篇ニ定ムル外小銃、機銃、拳銃等之訓練規則ヲ適用スベシ

第四百七十二 射擊術ノ精否ハ戰闘ニ至大ノ關係ヲ有ス故ニ之ガ訓練ハ

最綿密ナル注意ト不撓ノ熱心トヲ要ス

第四百七十三 射擊術ノ教育ニ於テ恐怖ノ念ヲ生ゼシメズ射擊ノ嗜好心ヲ起サシムルハ其ノ進歩ニ著シキ效果アルモノニシテ教育者ハ特ニ此ノ點ニ留意スルヲ要ス

第四百七十四 射擊ニ於テ精神ノ沈著、姿勢ノ堅確、眼心指ノ一致ハ命中ヲ良好ナラシムル要素ナリ

第四百七十五 射擊ニ於テハ其ノ動作ニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ強健トヲ要スルコト大ナリ故ニ射擊ノ教練ト共ニ屢體操ヲ行ヒ特に小銃ニ在リテハ各種姿勢ニ於ケル据銃ヲ反復練習シテ如何ナル場合ニ在リ

テモ迅速ニ堅確ナル據銃ヲ爲シ得ル如ク習熟セシムルヲ要ス

第四百七十六 射擊術ヲ訓練スルニハ裝填、據銃、照準、引金ノ引方並ニ故障ノ豫防及排除等規定ニ從フヲ要ス然レドモ徒ラニ外形ノ齊一ヲ

望ムコトナク射手ノ性質體格ヲ顧慮シ之ニ適應スル如ク教育スルコト
肝要ナリ

第四百七十七 小銃射撃ハ立打、膝打、伏打ノ順序ヲ以テ基礎ノ教育ヲ
行ヒ次ニ各種地形地物ヲ利用スル射撃動作ヲ教育スベシ

第四百七十八 射撃教育ニ於テ射手ノ伎倆進歩スルニ伴ヒ爲シ得レバ漸
次目標距離ヲ伸シ且視工難キ目標ニ對シ練習セシムベシ又激動後及夜
間ニ於ケル教育ヲ行フハ大ニ價值アルモノトス

第四百七十九 射撃教育ト共ニ兵器ヲ拿重装護スルノ精神ヲ養成シ兵器
保管ノ良否ハ火線ニ於ケル任務遂行ニ甚大ノ影響ヲ及ボスペキテ深ク
肝要セシムルヲ要ス

第一章 照準發射

四一 第四百八十 照準ノ要領ヲ初步ノ者ニ會得セシムルニハ教者ハ銃ヲ三脚
架等適宜ノ臺上ニ置キ約十米ノ距離ニアル直徑二釐ノ黒點ノ下際ヲ正
シタ照準シタル後射手ヲシテ銃ニ據ルルコトナク床尾端ノ後方ヨリ覗
覗シテ其ノ狀態ヲ知得セシムベシ

射手正シキ照準ノ狀態ヲ知得セバ臺上ニアル銃ニ就キ同様ノ目標ニ對
シ右眼ヲ銃床鼻ノ後方ニシテ頬ほほヲ床尾ニ觸ルルコトナク輕ク呼吸ヲ止メ
照準ヲ爲サシメ教者ハ射手ノ照準ヲ檢シ若シ誤リアルトキハ之ヲ教示
シテ射手ヲシテ修正セシムベシ又各射手ヲシテ他ノ射手ノ照準シタル
銃ヲ檢シテ照準ノ正否ヲ發見セシムルモ有利ナル一法ナリ

第四百八十一 照準ノ正否ヲ檢スル爲ニハ照準鑑查法ヲ行フ其ノ法銃ヲ
臺上ニ置キ白紙ヲ貼リタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設置シ之ニ對シ射手
ヲシテ先づ照準線ヲ指向セシメ次ニ助手ノ現ハス鑑查的（中心ニ細孔

ヲ穿チタル直徑約二種ノ黒圓鉛ニ細竿ヲ附シタルモノ）ノ下際ヲ照準線ニ達スル如ク導カシメ助手ハ鉛筆ヲ以テ鑑査的ノ中心ヲ記シ然ル後少シク之ヲ移動シ射手ハ銃ニ觸ルルコトナク以前ノ照準線ニ導ク如ク助手ヲシテ鑑査的ノ動カサシメ前項ト同法ニ依リ再ビ其ノ中心ヲ記サシム斯ノ如クシテ二點ヲ得バ其ノ二點間ノ距離ノ大小ニ依リ照準常ニ一様ナルヤ否ヤヲ判断スルヲ得ベシ若シ二點ニテ不充分ナルトキハ尙一回行ハシメ三點ヲ以テスルヲ可トス

此等ノ點ヲ得タル後教者ハ射手ニ代リテ照準ヲ行ヒ正確ナル一點ヲ得射手ノ得タル點ト比較シテ其ノ照準ノ正否ヲ検スルモノトス

第四百八十二

照準ノ際生ジ易キ諸種ノ照準誤差ハ左ノ如キ結果ヲ生ズ
一、照星ノ顯出過度ナルトキハ彈著ヲ高カラシメ過低ナルトキハ低カラシム



二、照星ノ顯出照門ノ一侧ニ偏スルトキハ其ノ偏シタル方ニ彈著ヲ偏セシム

三、銃ヲ右或ハ左ニ傾ケテ照準スルトキハ彈著ハ銃ノ傾キタル方ニ偏シ且彈著ヲ低カラシム

第四百八十三

照準時間ノ過度ニ長キコト及不正ナル照準ハ固辞トナリ
易キヲ以テ充分注意スルヲ要ス
テ充分注意シテ教育スルコト肝要ナリ



第四百八十四

射擊ニ於テ引金ノ引方ハ命中ニ影響スルコト頗ル大ニシ
剝歩ノモノニ對シ引金ノ引方ヲ教フルニハ最初据銃スルコトナク之ヲ行ヒ其ノ要領ヲ會得セシムルヲ可トス若シ引金ヲ壓スル爲力ヲ加フル要領ヲ充分了解セザルモノアルトキハ教者ハ射手ノ食指上ニ自己ノ食指ヲ添ヘテ引金ヲ壓シ其ノ引方ヲ會得セシムベシ又射手ヲシテ自己ノ

射撃彈

食指ヲ以テ教者ノ食指ヲ壓セシメ以テ眞ノ要領ヲ了解シタルヤ否ヤヲ
検知スベシ此ノ引金ノ壓シ方ノ適否ヲ容易ニ検知スルニハ食指ノ前部
ノ二節ノ運動ニ能ク注意スルヲ可トス之ガ爲教者ハ通常射手ノ左側前
ニ位置スルヲ適當トス

第四百八十五 極射彈射擊ハ射擊ノ要領株ニ照準及引金ノ引方ヲ練習セ
シムルニ有利ナリ

極射彈射擊ハ通常約十米ノ距離ニ於テ適宜ノ圓頭的ニ對シ行フモノト
ス

第二章 教練射撃

第四百八十六 教練射擊ノ目的ハ下士官兵ヲシテ兵備ノ使用ニ習熟セレ
ム實彈射擊ノ要領ヲ會得セシムルニ在リ

第四百八十七 極射彈射擊ニ在リテハ射手ヲシテ特ニ爆音及反動ヲ伴フ撃
發ノ要領及銃ノ特性ヲ理解セシメテ射擊術ノ向上進歩ヲ圖リ銃ト自己
ノ伎倆トニ確信ヲ得シムコト緊要ナリ

第四百八十八 教練射擊ニ於テ初步ノ者ニハ發發ノ後ト雖モ尙瞬時間其
ノ姿勢ヲ保チ次ニ左腕ヲ屈キ腰ニ食指ヲ伸シ銃ヲ下ロサスベシ是レ射
手ノ精神沈著セザルト姿勢動作ノ確實ナラザルトニ依リ生ズル過失ヲ
豫防シ且之ヲ矯正センガ爲ナリ

射擊ノ瞬時ニ於ケル照準線ト照準點トノ關係ヲ注視シ射擊後照準線ノ
達シタル方向ヲ報告セシムルハ極メテ必要ナリ然レドモ若シ之ヲ確認
シ能ハザルトキハ其ノ不明ナルコトヲ報告セシムベシ此ノ教育法ハ射
手ノ伎倆ヲ進歩セシムルニハ頗ル有益ナルモノトス

實包ヲ使用セザル場合ニ於テ据銃、照準及發射ノ動作ニ熟セルモノト

雖モ實彈射撃ニ於テ往々免レザル過失ハ照準宜シキニ適シタルトキ急激ニ引金ヲ壓シ或ハ撃發ノ際右眼ヲ閉ヂ頭ヲ動カシ或ハ肩ヲ進ムル等ナリ此ノ過失ハ撃發ノ好機ヲ失セシコトヲ顧慮スルト爆音ニ慣レザルト反動ニ抗セントスル等ヨリ偶然犯スモノニシテ射手ハ勿論教者ト雖モ之ヲ知ルコト因難ナリ然レドモ不發彈アルトキハ容易ニ發見シ得ルモノトス故ニ之ヲ矯正スルニハ教練射撃ノ際射手ニ覺ラレザル如ク不發彈若ハ教練用彈薬包ヲ装填シ或ハ全ク装填セザル銃ヲ與ヘテ射撃セシメ以テ自ラ其ノ過失ヲ悟ラシムベシ

第四百八十九 初歩ノモノニ對シテハ實彈射撃ヲ爲サシムルニ先チ空放射撃ヲ行ハシムルヲ可トス

第四百九十 命中點數ノ標示ハ左記ニ依ル

標示數ノ

點數	記	號
一〇	左右ニ振ル	
九	上下ス	
八	直立ス	
七	標的ニ對シ右斜ニ出ス	
六	標的ニ對シ右斜ニ出ス	
五	旗 赤	
四	旗 黄	
三	旗 紫	
二	標的ニ對シ右斜ニ出ス	
一	標的ニ對シ左斜ニ出ス	
○	標等ノ左右ニ振ル	

必要ニ應シ標竿(或痕標示板)ヲ以テ隕著ヲ示スモノトス

第三章 戰闘射撃

目的 第四百九十一 戰闘射撃ノ目的ハ主トシテ射擊指揮官ヲシテ諸種ノ情況ニ適應スル射擊指揮法ニ習熟セシムルト共ニ下士官兵ヲシテ實戰的射擊ノ要領ヲ會得セシムルニアリ

第四百九十二 戰闘射擊ヲ分チテ分隊戰闘射擊及小隊戰闘射擊トス

分隊戰闘射擊ハ主トシテ火線ニ於ケル列兵ノ射擊軍紀及射擊動作ヲ演練シ併セテ分隊下士官ノ射擊指揮ヲ訓練スルモノトス
小隊戰闘射擊ハ實戰の環境ニ於テ特ニ小隊長ノ射擊指揮及火線ニ於ケル分隊下士官ノ動作ヲ演練スルモノトス

第四百九十三 戰闘射擊ハ射擊教育上最重要ナルニ拘ラズ之ガ實施ニハ

計畫

諸種ノ射擊ヲ變タルモノナムヲ以テ其ノ組織及實施ヲシテ周密適切ナラシメ以テ克ク教育ノ目的ヲ達成センコトヲ期セザルベカラズ

第四百九十四 戰闘射擊ノ計畫ハ實包ヲ以テスルニ非ザレバ行ヒ難キ訓練ニ重點ヲ置キテ主要訓練項目ヲ定メ戰闘中ノ某時期ヲ捉ヘテ成ルベク簡單ナル戰況ヲ基礎トシテ演習ヲ構成シ國上ニ於テ其ノ概要ヲ決定シ現地ニ於テ詳細ナル偵察ヲ遂ゲ最終ノ決定ヲ爲スモノトス

第四百九十五 戰闘射擊ノ目標ハ部隊ノ能力ニ應ジ選定スルヲ要スレ共通常遠キ距離ニ在ル大ナル目標ヨリモ近キ距離ニ在ル小ナル目標ニ對スル射擊ヲ演練セシムルヲ可トスルコト多シ

第四百九十六 戰闘射擊ニ於ケル危險地界ハ通常窮擊方向ニ於テ約四千米射線ノ左右ニ於テ各約千メトス之ガ爲射擊方向及目標位置ノ選定ニ對シ充分注意スルト共ニ所要ノ地點ニ赤旗ヲ掲げ警戒兵ヲ配シテ警戒

スルヲ要ス

第四百九十七 監的員ニ對シテハ特ニ危險豫防ニ關シ注意スルヲ要ス
 射擊中射場ト監的壕トノ通信ニハ電話、振旗、喇叭等ヲ使用ス監的壕ノ
 位置ハ成ルベク標的線ノ側方ニテ監的員ヲ收容シ標的ヲ運轉スルニ充
 分ナル廣サヲ有シ且自然地下一米八十纏以上掘リ下グルヲ要ス若シ掘
 下グルヲ得ザル土質ニ在リテハ厚サ一米五十纏以上ノ積土ヲ以テ之ヲ
 補フコトヲ得

第四百九十八 戰闘射撃ノ實施ハ概不左記順序ニ依ル

一、標的準備、通信機關及警戒配備ヲ整備ス
 二、戰況等ヲ部隊ニ與ヘ弾薬包ヲ配給ス
 三、喇叭「伏セ」(通信ニハ電話ヲ併用ス)ヲ吹キ監的壕内ニテ了解ノタ
 メ赤旗ヲ振りタル後之ヲ倒シタルヲ見テ「打方始メ」ヲ吹キ射撃開始

- チ 一般ニ警報ス
 - 四、演習ヲ開始ス
 - 五、演習ヲ終ルニハ「打方止メ」ヲ令シ演習ヲ中止セシメ次デ其ノ場ニ
 於テ弾薬包ヲ抜キ出サシム
 - 六、全員弾薬包ヲ抜キ出シタルヲ確認シタル後「立テ」ヲ吹キ弾痕ヲ調
 查セシム
 - 七、銃ノ點檢ヲ行フ
 - 八、講評ヲ行ヒ演習ヲ終結ス
- 第四百九十九** 指導官又ハ補助員ハ射撃實施中射撃指揮官ニ對シ成ルベ
 ク干渉スルヲ避ケルヲ要ス然レドモ其ノ他ノ者ニ射シテハ位置動作等
 ニ付キ特ニ必要ヲ認メタルトキハ現地ニ於テ教示スルヲ可トスルコト
 アリ

但シ此ノ場合ニ於テモ成ルベク演習ノ氣勢ヲ殺ガザルコトニ注意スペシ

第五百一 指導官ハ戰闘射擊ノ實施ニ當リ所要ノ補助員ヲ使用シテ射擊指揮、各員ノ動作、實距離、照尺距離、目標ノ見エ工合、銃ノ指向、射彈散布ノ情況、射擊時間、各距離各目標ニ對スル射擊彈數、命中彈數、天候其ノ他射擊效果ニ及ボスベキ事項ヲ調査シ效力表ヲ參照シテ成ルベク正確ナル講評ノ資料ヲ集メ射擊終了後講評ヲ行フベシ

第五百一 戰闘射擊ニ於テハ任意ノ情況ヲ現スコト困難ナリ故ニ實包ヲ使用スルコトナク戰闘射擊ニ準ジ演習ヲ行フハ效果多キモノトス

第五百二 戰闘射擊ハ特ニ定ムル外陸戰隊砲射擊教官ノ章ヲ適用スペシ

附録

第一章 軍艦旗ノ保持法

法ノ保持規則

第一 軍艦旗ハ其ノ取扱最慎重ナルヲ要シ所要ニ應ジ之ガ護兵ヲ附スルモノトス

第二 軍艦旗ヲ保持スルニハ旗竿ノ下端ヲ右股ニ當テ右肘ヲ後ロニシ其ノ拳ヲ既ネ肩ノ高サニシ旗頭ヲ僅ニ前方ニ傾カシム

第二章 長剣ノ取扱法

長剣ノ取扱法

第三 銃隊及機銃隊ヲ指揮スル各級指揮官ハ密集隊形ニ在リテハ或劍ス

戰闘ニ際シテハ所要ノ時機ニ於テノミ拔劍スルモノトス但シ敵ノ目視

開鎗 軍艦旗ノ保持法 長剣ノ取扱法

附錄 長劍ノ取扱法

(二五〇)

ヲ避クルヲ要スルトキ其ノ他必要ナル場合ニハ拔劍セザルモ妨ナシ
道歩行進ニ在リテハ拔劍セザルヲ例トス

第四 長劍ヲ帶フルニハ上鏡ヲ鉤ニ懸ケ柄ヲ後ロニス

第五 長劍ヲ拔クニハ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ以テ柄ヲ前ニ向ケ上鏡
ノ所ヲ握リ右手ヲ以テ柄ヲ握リ劍身ヲ鞘ヨリ拔キ右臂ヲ右前方ヘ高ク
伸シ恰モ之ニテ一節ヲ示スガ如クシテ速ニ肩へ劍ヲ爲シ同時ニ左手ヲ
下ロス

肩へ劍ノ法ハ柄ヲ右手ノ拇指ト食指及中指トノ間ニ保チ他ノ二指ヲ柄
ノ外ニ附シ其ノ手ヲ右腕骨ノ稍下方ニ著ケ劍身ヲ垂直ニ立テ劍背ヲ肩
ニ托シ少シク肘ヲ後方ニ出ス

停止間拔劍ノ儘休憩スルニハ劍尖ヲ上ニシ右臂ヲ垂レ或ハ之ヲ體ノ前
ニ致シ左手ヲ以テ右手ヲ支ヘ劍身ヲ臂ニ托ス

第六 長劍ヲ納ムルニハ之ヲ垂直ニ上ゲ其ノ刃面ヲ頬ノ中央ニ對セシメ
鎧ヲ口ノ高サニ齊シク時ハ自然ニ體ニ接ス

同時ニ左手ヲ以テ上鏡ノ所ヲ握リ鯉口ヲ前ニ向ケ劍身ヲ左臂ニ添ヘテ
劍尖ヲ後ロニ下ゲツツ右拳ヲ高ク上ゲ頭ヲ稍左ニ傾ケ眼ヲ鯉口ニ注ギ
劍尖ヲ鞘ニ入レ全ク劍身ヲ納メ柄ヲ後ロニシ速ニ兩手ヲ下ゲ頭ヲ正面
ニス

第七 拔劍ノ儘行進スルトキハ通常右手ノ甲ヲ右ニシ鎧ヲ握リ臂ヲ垂レ
劍背ヲ上膊ニ托シ鞘ハ鉤ニ懸ケタル儘左手ヲ以テ之ヲ握リ兩手ハ自然
ニ振ル肩へ劍ノ儘行進スルトキハ本項ニ準ズ

第八 拔劍シアラザルトキ行進スルニハ左手ヲ以テ劍鞘ヲ握リ兩手ハ自
然ニ振ル

第九 「掛け 銛^{タチ}若ハ「頭 右(左)」」ノ號令ニ依リ長劍ノ敬禮ヲ爲ストキ

ハ動令ニテ動作ヲ始ムルモノトス

第十 長剣ノ敬禮ハ肩ヘ劍ヨリ行フモノトス

第一動 長剣ヲ垂直ニ上ゲ其ノ刃面ヲ額ノ中央ニ對セシメ劍ヲ口ノ高サニ齊シクシ時ハ自然ニ體ニ接ス

第二動 右臂ヲ全ク伸シ劍ヲ右斜ニ下ゲ及ラ左方ニシ右股ヨリ約三十度離シ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スペキモノニ注目ス
敬禮終レバ頭ヲ正面ニ復シ肩ヘ劍トナル

第三章 挿銃

第十一 挿銃ハ確實齊一ニ行フモノトス

挿銃ヲ爲サシムルニヘ左ノ號令ヲ下ス

標槍 挿銃

右手ヲ以テ銃ヲ上ゲ體ノ中央前ニ持チ來シ銃身ヲ後ロニシ之ヲ垂直ニス同時ニ左手ヲ以テ概ネ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿ヘテ伸シ前臂ヲ殆ド水平ニシ兩上膊ハ輕ク體ニ接ス然ル後直ニ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スペキモノニ注目ス
挿銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

之て 挿銃

第一動 頭ヲ正面ニ復シ右手ヲ以テ銃ヲ下ゲ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下

ロス

第二動 静ニ銃ヲ地ニ下ロス

第四章 觀兵式

觀兵式

第十二 觀兵式ニ於テハ通常閱兵式及分列式ヲ行フ

開鎗 觀兵式

二五三

附錄 觀兵式

二五四

閱兵式ハ觀閲官臨場ヨリ閱兵終リ指揮官敬禮ヲ行フ迄ヲ云ヒ分列式ハ先頭部隊觀閲官前方ノ行進線ニ入り後尾部隊兵ノ線ヲ通過シ終ル迄ヲ云フ

第十三 陸戰隊本部附及大隊ノ指揮小隊ハ中隊ニ準ジ通常其ノ先任者ノ號令ニ依リ動作スルモノトス

第十四 地形及兵數ノ多寡等ニ依リ陸戰隊指揮官ハ本規定ニ準ジ適宜ノ隊形及運動ヲ取ラシムルコトヲ得又機銃隊、附屬隊及陸戰隊本部附ハ閱兵式ノミニ止メ分列式ヲ行ハシメザルコトヲ得

軍樂隊ナキトキハ掌信號兵ヲ以テ之ニ代エ

第十五 閱兵式ノ隊形附圖第一圖ノ如シ

第十六 觀閲官觀兵式場ニ臨場セントスル少シク前ニ於テ陸戰隊指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ヲ合ス此ノ令ニテ各大隊及陸戰隊本部附ハ著剣ヲ爲ス但

閱兵式

シ銃ヲ背負ヒタル者ハ著剣スルコトナシ

第十七 觀閲官臨場セバ陸戰隊指揮官參謀(副官)一
名之ニ隨從スハ之ヲ迎ヘ長劍ノ敬禮ヲ行ヒ軍樂隊ヲシテ「海行カバ」一回ヲ奏樂セシメ當日出場ノ總人員ヲ申告シ觀閲官閱兵ノ先導ヲ爲ス

第十八 觀閲官閱兵ノ際ハ各大隊ハ海軍禮式令第百三十八條ノ規定ニ從ヒ觀閲官ニ對シ敬禮ヲ行フ

陸戰隊本部及各附屬隊ノ敬禮ハ前項ニ準ズ

行フ

第十九 閱兵終リタルトキハ陸戰隊指揮官ハ觀閲官ニ對シ長劍ノ敬禮ヲ

分列式

第二十 閱兵終ラバ陸戰隊指揮官ハ「分列準備隊形作レ」ト令ス (適宜ノ合國ヲ用フルコトヲ得)各大隊(各附屬隊)ハ各大隊長(各附屬隊ノ長)ノ號令ニ依リ右向キヲ爲シ併立縱隊(側面縱隊)ヲ作リ附圖第二圖ニ示

附錄 閱兵式

二五五

ス如キ隊形トナル但シ距離ハ最進ノ際ニ取ルモノトス

敬禮點ノ標兵ハ配置ニ就キ觀閲官ニ敬禮ヲ行ヒタル後著剣ヲ爲ス
標兵ノ位置通常左ノ如シ



第二十一 陸戦隊指揮官ノ發進ノ令ニ依リ（適宜ノ合図ヲ用フルコトテ得）先頭ヨリ逐次行進ヲ起ス軍樂隊ハ發進ト同時ニ奏樂ヲ爲ス
但シ各中隊及各附屬隊ノ發進ハ各中隊長及各附屬隊長ノ號令ニ依ル

第二十二 分列式中抜剣シアル者ハ肩ヘ剣ヲ爲スモノトス

第二十三 觀閲官前方ノ行進線ニ入ル旋回點ニ於テ各中隊及各附屬隊ハ行進間ノ左向キヲ爲シ中隊縱隊（横隊）ヲ作リ爾後此ノ隊形ヲ以テ行進ス此ノ時ニ於ケル中隊ノ距離ヲ約十六歩トス

第二十四 軍樂隊ハ敬禮點ノ標兵ニ達スル前適宜運動シテ觀閲官ヨリ適當ノ距離ニ於テ之ニ對シテ停止シ奏樂ヲ續ク

第二十五 大隊長以上並ニ同附隨者ハ標兵間觀閲官ニ對シ長剣若ハ只手ノ敬禮ヲ行フ陸戦隊指揮官參謀（副官）一
名之ニ置シ所要ノ申告ヲ爲ス敬禮ヲ止メタル後觀閲官ノ右側後ニ到リ分列終ル迄同所ニ位置シ所要ノ申告ヲ爲ス

第二十六 各中隊ハ標兵間海軍禮式令第八十五條ノ規定ニ從ヒ觀閲官ニ對シ敬禮ヲ行フ但シ各小隊ノ右翼分隊下士官ハ終始正面ヲ直視スルモノトス情況ニ依リ小隊毎ニ敬禮ヲ行フコトヲ得此ノ場合中隊長ノ敬禮

附錄 騰兵式

二五八

ハ 大隊長ニ準ズ

陸戰隊本部、大隊ノ指揮小隊及各附屬隊ノ敬禮ハ本項ニ準ズ

第二十七

分列終リタル各隊ハ閱兵ノ位置ニ復歸シ若ハ陸戰隊指揮官ノ指定セル位置ニ指示隊形ヲ作り各大隊及陸戰隊本部附ハ脱劍シ觀閱官退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス

第二十八

最後ノ部隊觀閱官ノ前面ヲ通過シタル後軍樂隊ハ適宜前進シテ觀閱官ニ敬禮ヲ行ヒタル後近道ヲ經テ指定ノ位置ニ就ク但シ通常最後ノ部隊停止スルマデ奏樂ヲ續クルモノトス

第二十九

分列全ク終ラバ陸戰隊指揮官ハ觀閱官ノ前面ニ到リ長劍ノ敬禮ヲ爲シ觀閱官退場ニ對スル位置ニ就ク

第三十

觀閱官退場ノ際陸戰隊指揮官ハ長劍ノ敬禮ヲ爲シ軍樂隊ヲシテ

通則

第五章 手榴彈投擲法

「海行カバ」一回ヲ奏樂セシメ次デ各隊ハ第十八ニ準ジテ敬禮ヲ行フ

通則

第三十一 手榴彈ハ接戦ニ於テ其ノ爆裂ニ依リ敵ヲ殺傷震駭スル爲使用スルモノトス故ニ各兵ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ沈著シテ能ク機ニ投ジ正確ニ投擲シ得ルニ到ラシメザルベカラズ

第三十二 投擲法ノ教育ハ通常立投^{タチタウ}、膝投^{ヒザタウ}、伏投^{ホタウ}ノ順序ヲ以テ基本ヲ修得セシメ次デ各種ノ目標ニ對シ行進間、壕内、不齊地、夜間等ニ於テ實施シ遂ニハ各種ノ情況ニ應ズル投擲ノ要領ニ習熟セシムルモノトス

第三十三 投擲ハ常ニ目標ヲ中心トスル半徑五米以内ニ落達セシメザル

ベカラズ

投擲距離ハ立投ヲ以テスル場合ニ於テ三十米ヲ標準トス

第三十四 手榴彈ノ投擲ハ其ノ時機適當ナラザルトキハ效果ヲ收ムルコト能ハザルノミナラズ自ラ危害ヲ被ルコトアリ故ニ各種ノ情況ニ應ズル投擲ノ時機ヲ會得セシムルコト肝要ナリ突擊ト連繫スル投擲動作ハ屢演練シ爆裂ノ瞬時ヲ利用シテ突入スルコトニ熟セシムルヲ要ス

第三十五 投擲ノ演習ニ在リテハ常に危害ノ豫防ニ留意スベシ教育ノ初期又ハ夜間ノ投擲ニ於テ特ニ然リトス

第一節 基本投擲

第三十六 立投ヲ爲スニハ概ネ立打ニ準ジテ姿勢ヲ取り兩踵ヲ目標トシネ一直線上ニ在ラシメ統ヲ左臂ニ托シ右手ヲ以テ信管頭ヲ下ニシ且信

管噴氣孔ヲ左方ニ向ケ確實ニ彈體ヲ握リ左手ヲ以テ安全栓ノ索ヲ撮ミテ之ヲ抜キ出シ銃ヲ左手ニ持チテ信管頭ヲ平ニ堅硬物體ニ打チ著ケ其ノ發火ヲ確認シタル後上體ヲ少シク後方ニ倒シテ體重ヲ右足ニ移シ左踵ヲ上ゲ又ハ左足ヲ地ヨリ離シ右脚ヲ後方ニ引キ次ニ體ヲ左ニ捻轉シワツ舊位ニ復セントスル際一旦右臂ヲ曲ゲ其ノ彈撥力を利用シテ前方ニ振り出シ體重ヲ左足ニ移シ要スレバ右足ヲ地ヨリ離シ右肘ヲ充分伸シテ強體ヲ放ツ

膝投ヲ爲スニハ膝打ニ準ジ右足尖ヲ立テ臂ヲ地ヨリ上ゲ姿勢ヲ取り其ノ他ノ動作ハ立投ニ準ズ

伏投ヲ爲スニハ伏打ニ準ジテ伏臥シ臀部ヲ成ルベク高クセザル如ク右脚ヲ腹部ノ下ニ深ク曲ゲ體重ヲ左脚ニ托シテ姿勢ヲ取り銃ヲ左前方ニ置ク次ニ左手ヲ以テ體ヲ押シ上ゲ膝投ノ要領ニテ投擲シ速ニ舊姿勢ニ

復ス其ノ他ノ動作ハ立投ニ準ズ

第二節 應用投擲

第三十七 手榴彈ハ情況特ニ目標ノ位置、地形、地物ノ状態及投擲距離
ノ大小等ニ應ジ適當ニ姿勢及方法ヲ選擇スルモノトス

第三十八 信管ヲ發火セシムル爲利用スベキ堅硬物體身邊ニナキトキハ
情況ニ應ジ床尾鋸、靴ノ踵、他ノ彈體等ヲ利用スルモノトス行進間ノ
發火動作ハヤヤモスレバ不確實トナリ點火セザルコトアルノミナラズ
噴氣孔ノ爲右手ニ危害ヲ被ルコトアリ故ニ各兵ハ沈著シテ動作スルト
共ニ必ず發火ヲ確認シテ投擲スルコト必要ナリ

第三十九 地形、地物ニ遮蔽シテ好機ニ投ジ機敏ニ投擲スルコト及遮蔽
物ノ後ロニ位置スル目標ニ對シ正確ニ投擲スルコトニ熟セザルベカラ

ズ

遮蔽物ノ後ロニ位置スル目標ニ對スル投擲及狹き壕内ヨリスル投擲ハ
斜方指向ニ行フヲ有利トルコトアリ

第四十 敵ニ直面シテ投擲スルトキハ自己モ亦同時ニ危害ヲ被ル虞アル
ヲ以テ適當ナレ落達地點ノ選定及掩護物ノ機敏ナル利用ニ依リ之ヲ憲
クルヲ要ス

第四十一 數人同時ニ投擲スル場合ニ在リテハ協同シテ概ネ一齊ニ行フ
ヲ可トス此ノ際互ニ投擲動作ヲ妨害セザル如ク適宜ノ距離ヲ保持スル
コト肝要ナリ

第六章 小銃及拳銃保存取扱法

通則

第四十二 小銃及拳銃ノ取扱保存ノ良否ハ直ニ戰闘力ヲ消長スルノミナラズ其ノ命數ニ影響スルコトモ亦大ナリ故ニ之ガ使用ノ任ニ在ルモノハ其ノ機嚮性能ニ通ジ保存取扱ニハ兵器委員會ノ議定ヲ以テ細密ナル注意ヲ拂フコト肝要ナリ

第四十三 小銃及拳銃ノ取扱法及分解結合法ハ特ニ規定スルモノノ外艦砲取扱教範ニ依ルベシ
第四十四 射彈ノ散布大ナル小銃ハ臍中検査器ヲ以テ銃口ニ就キ其ノ口径ヲ測定スベシ臍中ノ磨耗甚シキモノハ交換スルヲ要ス

令 銃

第一節 小 銃

各部
名稱

第四十五 三八式小銃各部ノ名稱附圖第三圖乃至第八圖ノ如シ

分離法

結合法

二、分解及結合法

第四十六 小銃ノ分解手入ヘ通常普通分解ニ止メ特別分解ヘ特ニ必要ナル場合ニ行フ

第四十七 普通分解及結合法左ノ如シ

分解法

一、銃口蓋ヲ脱シアルトキヘ之ヲ裝着ス

二、欄 杖

上帶發條ヲ壓シ欄杖ヲ拔キ出ス

三、尾 桟

銃身ヲ上ニシ床尾ヲ體ニ托シ左手ニテ用心金ノ下ヨリ銃ヲ握リ右手ニテ開鎖挺ヲ起シテ尾栓ガ尾栓留ニ鉤ル迄後退セシメ左手ノ拇指ニテ尾栓留ヲ充分外方ニ開キ右手ニテ機體覆ノ上ヨリ尾栓ノ後部ヲ握リ

静ニ機體覆ト共ニ後方ニ抜キ出ス、尾栓ヲ抜キ出ス際打針留ノ突子ニテ銃床尾ヲ損セザルコトニ注意スベシ

四、機體覆

尾栓ヨリ取離ス

五、打針留

尾栓頭ヲ下方ニシ左手ニテ尾栓ノ中央部ヲ握リ右手ノ掌ヲ打針留ノ前面ニ當テ之ヲ壓シツツ九十度右方ニ旋回シタル後靜ニ壓迫ラ緩メ打針留ヲ離脱ス

六、打針及打針發條

尾栓ヨリ打針ヲ、打針ヨリ打針發條ヲ離脱ス

七、殼拔及殼拔留環

尾栓頭部ヲ前方ニシ右手ヲ以テ開鎖挺ヲ握リ左手ヲ以テ下方ヨリ殼

拔ノ中央部ヲ尾栓ト共ニ握リ尾栓ヲ左方ニ旋回シテ殼拔ノ鈎部(爪ノ直後)ヲ尾栓ノ溝ヨリ脱シ次ニ殼拔ヲ上ニシ左手ニテ尾栓ノ中央部ヲ下ヨリ握リ兩拇指ニテ殼拔ノ後縁及背ノ股部ヲ前方ニ押シテ殼拔ヲ離脱ス
殼拔留環ヲ脱スルニハ回螺旋ヲ以テ接合部ヲ擴グ靜ニ之ヲ脱ス但シ必要ナケレバ行ハズ

八、彈倉底鉗、彈倉發條、彈藥受
左手ヲ底鉗ノ下ニ添ヘ右手ノ拇指ヲ以テ彈倉留柄ヲ壓シテ離脱ス彈倉發條ヲ離脱スルニハ彈倉底鉗及彈藥受ニ接スル屈曲部ヲ少シク起シテ靜ニ拔キ出ス

結合法

結合ハ分解ト反對ノ順序ニ行フ

附錄 小銃及拳銃保存取扱法

第四十八 特別分解及結合法

分解法

一、普通分解ノ一乃至八ヲ實施ス

二、背負革

銃身ヲ銃床ヨリ脱スル時ノ外離脱スルヲ要セズ
用心金及下支鐵

銃身ヲ下ニシ機體留螺子（上ハ長）ヲ螺出シ銃身ヲ上ニシ支鐵留螺子
ヲ螺出シ再び銃身ヲ下ニシ用心金ヲ靜ニ動カシツツ前後ヲ平等ニ下
支鐵ト共ニ離脱シ次ニ下支鐵ヲ脱ス

四、彈倉

彈倉ヲ摘ミ静ニ之ヲ取り出ス

五、彈倉留装置

彈倉留柄ヲ前方ニ壓シツツ彈倉留柄軸栓ヲ抜キ彈倉留柄、彈倉留及
同發條ヲ脱シ各之ヲ分離ス

六、上 帶

銃口蓋ヲ脱シ次ニ上帶發條ヲ強ク壓シ照星ニ接觸セザル如ク注意シテ之ヲ抜キ出ス
テ之ヲ抜キ出ス

七、下 帶

下帶發條ヲ壓シ照星ニ接觸セザル如ク注意シテ之ヲ抜キ出ス

八、木 被

木被ノ前端ヲ摘ミ少シク之ヲ起シ静ニ前方ニ脱ス

九、銃身及上支鐵、木被留座

銃身ヲ下ニシ之ヲ腋ノ下ニ挾ミ手ニテ彈倉ノ前ヲ輕打シ銃身ノ前後
ヲ成ルベク同時ニ銃床ヨリ離ル如ク銃身ヲ銃床ヨリ離脱シ次ニ上

支鐵及木被留座ヲ脱ス

一〇、留金

軸栓ヲ拔キ之ヲ脱シテ留金發條ヲ脱シ軸栓ヲ抜キテ引金ヲ分離ス但シ引金ハ必要ナケレバ脱セズ

一一、尾栓留及尾栓留發條

尾栓留發條ノ背部ヲ壓シナガラ留螺子（後方ノモノ）ヲ螺出シテ之ヲ脱シ尾栓留發條ヲ廻シテ之ヲ分離ス

一二、穀蹴

留螺子ヲ螺出シテ之ヲ脱ス

結合法

結合ハ分解ト反對ノ順序ニ行フ

三、手入法

手入法

第四十九 小銃手入ノ方法及注意事項概要左ノ如シ

一、臍中ヲ手入スルニハ尾栓ヲ除去シ特製ノ竹杆又ハ麻糸ニ鉛ヲ附シタルモノ或ハ梆杖ニ洗浄ヲ附シタルモノヲ尾栓口ヨリ挿入シ油ヲ浸シタル布片ヲ以テ靜ニ臍中ヲ掃除シ臍中ニ僅ニ光輝ヲ發スルニ至ラバ清潔ナル布片ニテ拭ヒ然ル後ニ小量ノ塗油ヲ爲ベシ此ノ際竹杆麻糸又ハ梆杖ヲ銃口ヨリ挿入スルハ銃口附近ノ旋條ヲ磨損スルヲ以テ避クルヲ要ス

樂室及彈倉ノ手入ハ特ニ注意スベシ

二、尾栓ハ特ニ必要ナルトキノ外分解スルコトナク手入シ活動部ニハ適當ニ塗油スベシ

三、各部特ニ活動部、切鐵部、螺子、穴等ハ清淨ニシ鑄・塵・泥・濕氣等ヲ留メザル如ク注意シ木部ハ塗油ヲ避ケ鐵部モ油ノ量多キニ過

ギザル如ク注意スペシ

四、劍身及劍鞘ノ内部ハ特に注意シテ清淨ニ保ツベシ

五、彈薬盒其ノ他革具類ハ塗油多量ニ過ギザルヲ要ス

第五十 小銃ニ鑄ヲ生ジタルトキハ能ク濕氣ヲ除キタル後油ヲ注ギ二、三時間後ニ布片ヲ以テ磨キ更ニ塗油ヲ施シ之ヲ反復シテ鑄ヲ除キ決シテ磨粉ヲ用フベカラズ

第五十一 小銃ハ射撃後戻ルベク速ニ手入ヲ行フベシ若シ長ク時間ヲ経過セバ掃除困難トナルモノナリ又射撃後ノ手入ハ綿密ニ行フモ一回ニテハ鑄ヲ生ジ易キヲ以テ數日間毎日手入ヲ行フヲ要ス

第五十二 小銃ヲ使用セシトキハ格納前必要ナル手入ヲ行ヒ手垢、塵等ヲ拭ヒ去ルベシ

置ケ銃及取レ銃

(附)置ケ銃及取レ銃

第五十三 置ケ銃ハ通常艦内ニ於テ武裝ヲ整フル等ノ場合行フモノトス置ケ銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

置ケ銃

銃身ヲ左ニ向ケ銃口ヲ右斜ニ開鎖挺ヲ右踵ニ竝ベ銃ヲ平ニ置ク置キタル銃ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

取レ銃

第二節 拳銃

拳銃各部ノ名稱

第五十四 陸式拳銃各部ノ名稱附圖第九圖ノ如シ一四式拳銃ハ陸式ニ準

ズ

附錄 小銃及拳銃保存取扱法

第五十五 陸式拳銃分解及結合法左ノ如シ一四式拳銃ハ陸式ニ準ズ

分解法

一、彈倉

彈倉留ヲ壓シ弾倉ヲ脱ス

二、打針留及打針發條

打針留ヲ壓シ左ヘ九十度轉回シテ打針留及打針發條ヲ脱ス

三、銃身

尾栓留ヲ後方ニ引キ之ヲ尾栓ノ後端ヨリ離シ左ヘ九十度轉回シタル
後靜ニ前進セシメ銃身ヲ後退セシメ發條留ヲ強ク壓シ用心金ヲ引キ
下ゲ銃ノ上面ヲ下方ニ向ケ靜ニ銃身ヲ出ス
〔銃身ヲ後退セシムルモ往々其ノ位置ヲ保タザルコトアリ此ノ場合

ニ於テハ尾栓ヲ少シク引キ出シ置クベシ〕

四、轆轤、尾栓及打針

銃身ヨリ轆轤及尾栓ヲ脱シ尾栓ヨリ打針ヲ脱ス

五、推進發條及其ノ軸

尾栓留ヲ螺出シ推進發條及其ノ軸ヲ脱ス

六、把板

弾倉留栓及把板留螺子ヲ脱シ把板ヲ脱ス

七、打鐵留

尾栓ヲ抜キ打鐵留ヲ脱ス

但シ五以下ハ特ニ必要ト認ムル場合ニ非ザレバ分解セザルモノトス

結合法

結合法ハ分解法ト反對ノ順序ヲ以テ行フ

附錄 小銃及拳銃保存取扱法

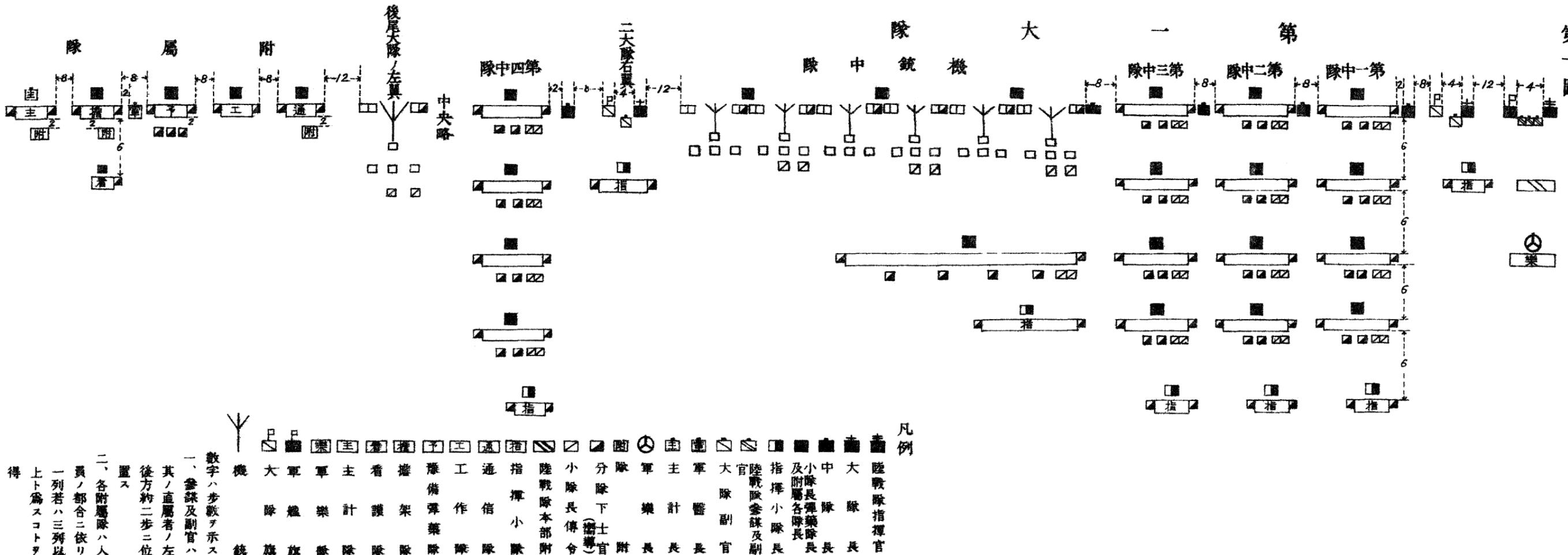
但シ弾倉留栓ノ發條留ノ矢符ハ必ず用心金ニ附シアル矢符ト一致ス
ル如ク結合スペシ

三、手入法

第五十六 拳銃ノ手入法ハ小銃ニ準ズ

第五十六 拳銃手入ノ際ニ往々不慮ノ危害ヲ生ジタルコトアリ故ニ
ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ手入ハ一列ニテ行フヲ要ス

第一回



第二圖

第一

一

大

隊

第二

大

隊

先

頭

後

尾

大

隊

後

尾

附

略

中

機

銃

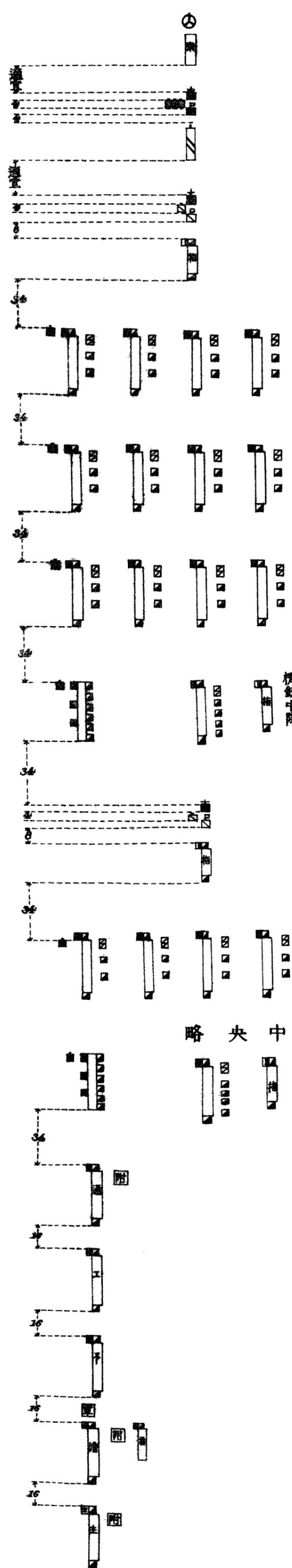
中

隊

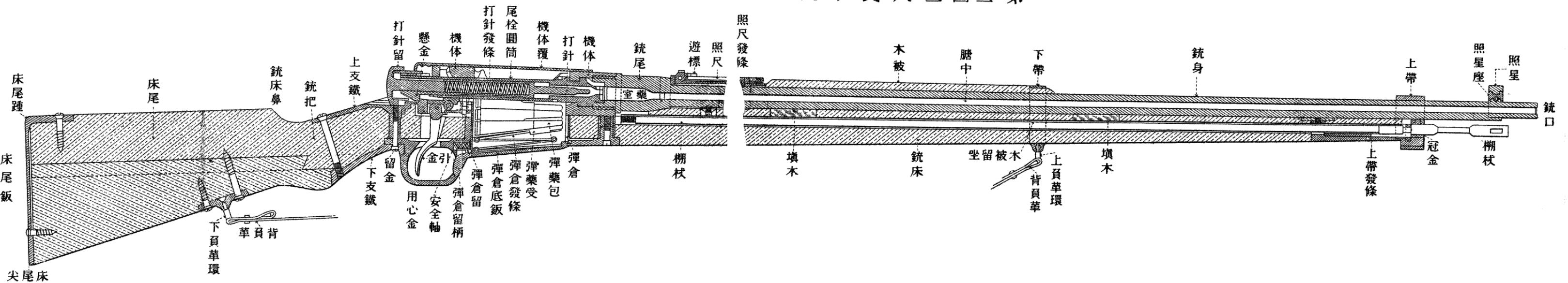
附

局

隊

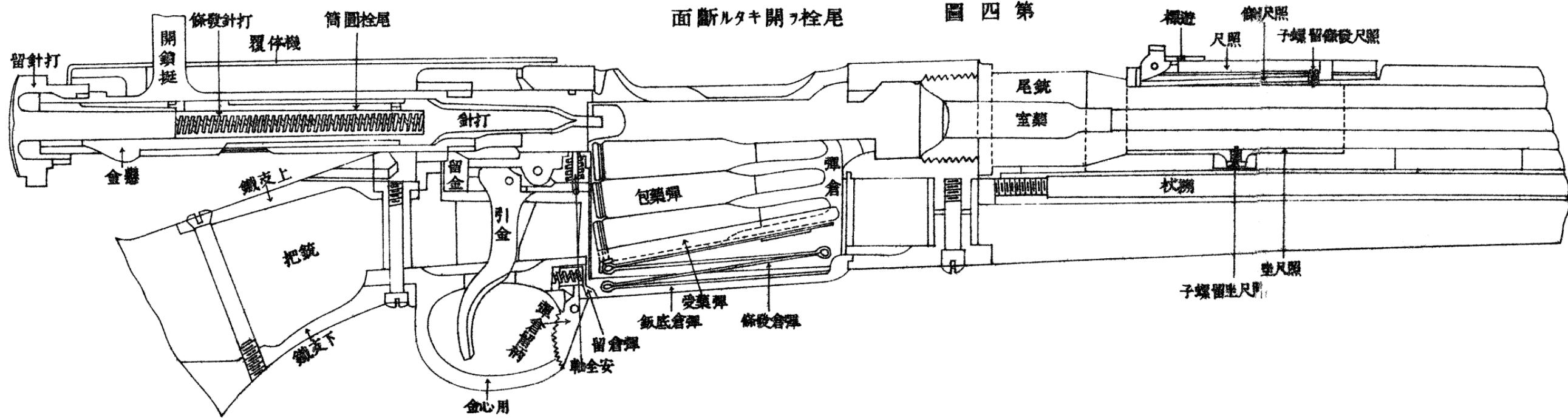


(面側及斷縱) 銃小式八三圖三第



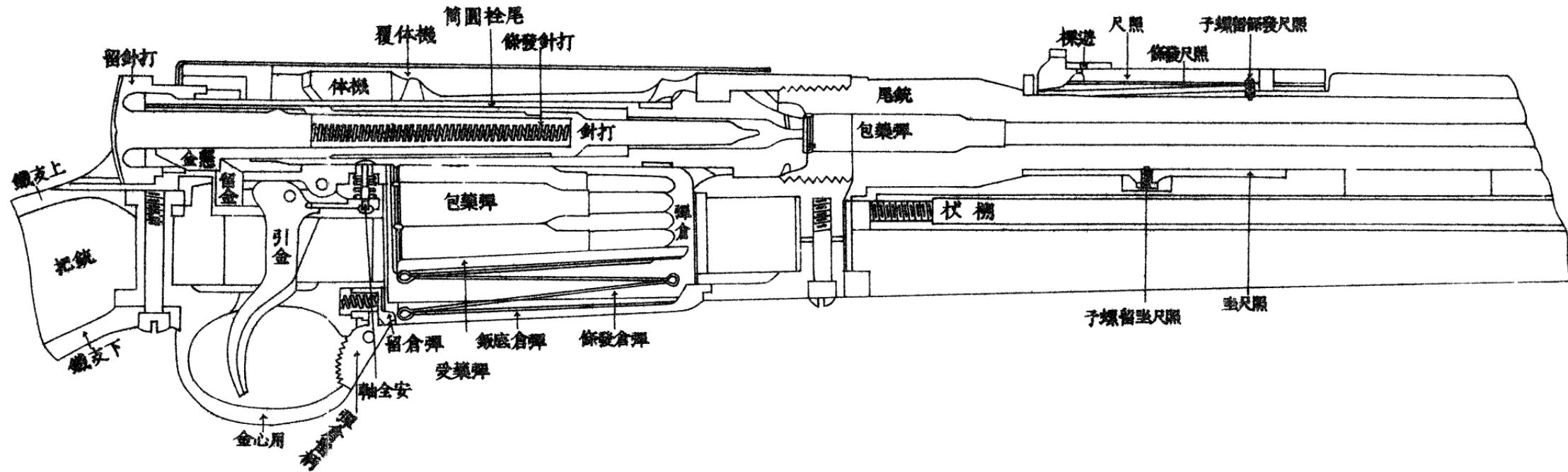
面断ルタキ開栓尾

圖四第

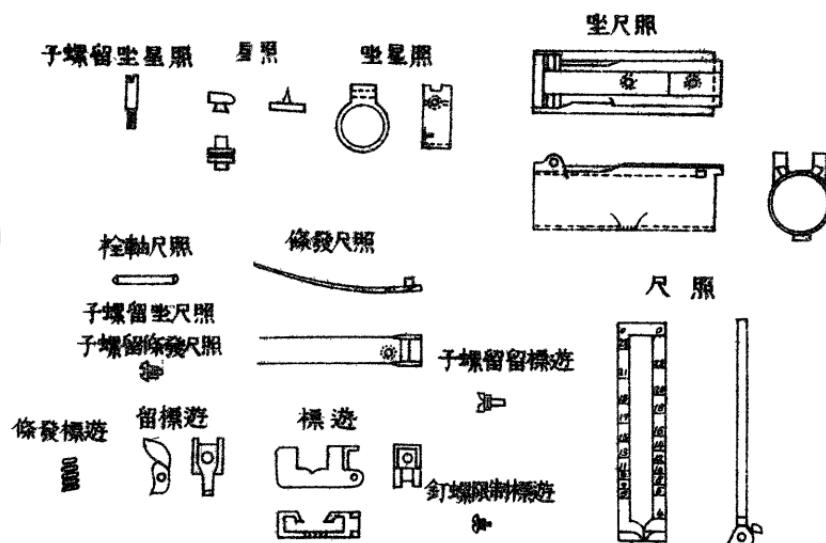
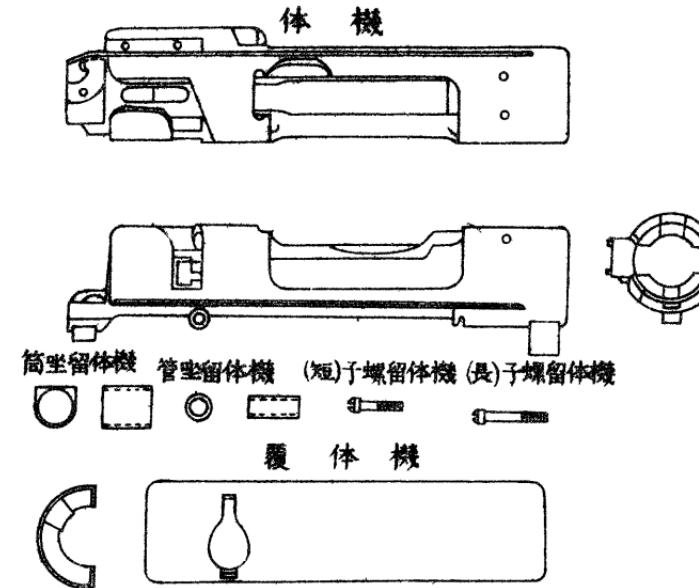
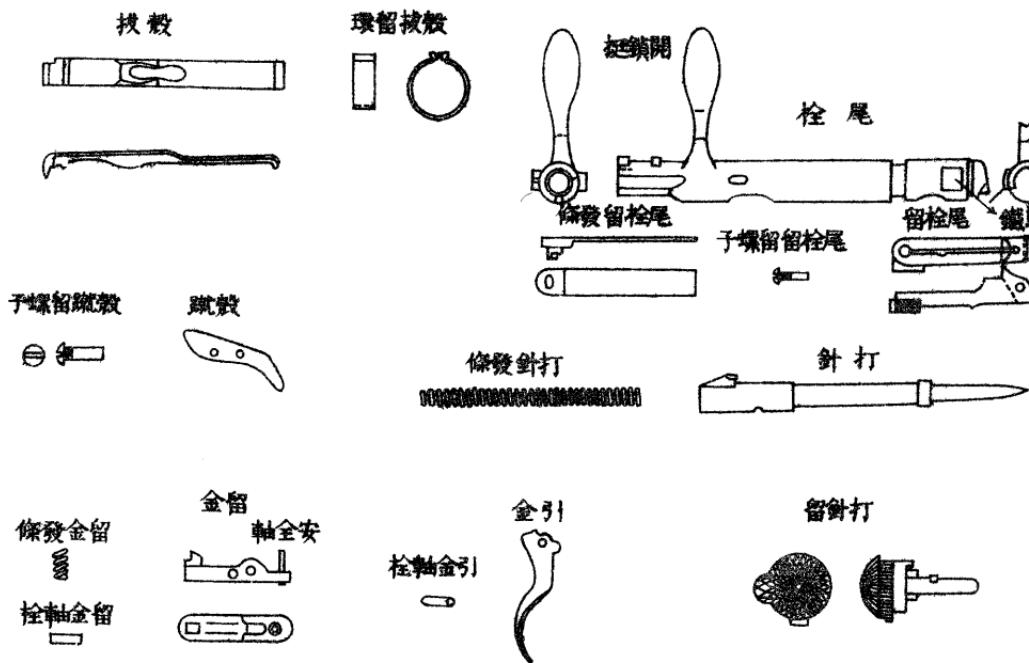


圖五第

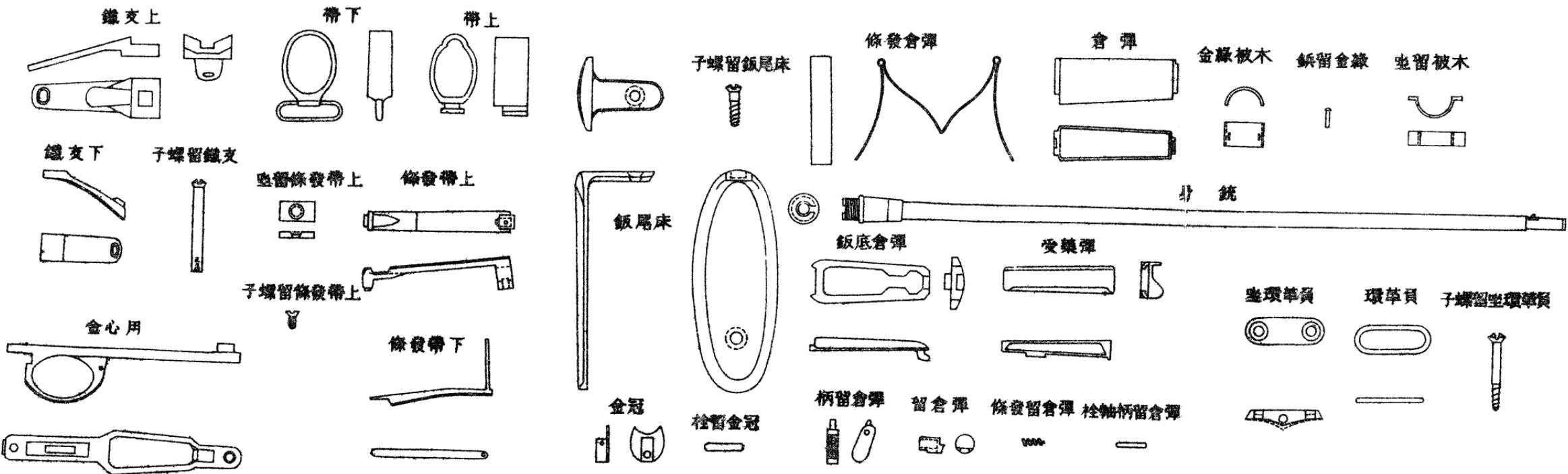
面断ルタジ閉栓尾



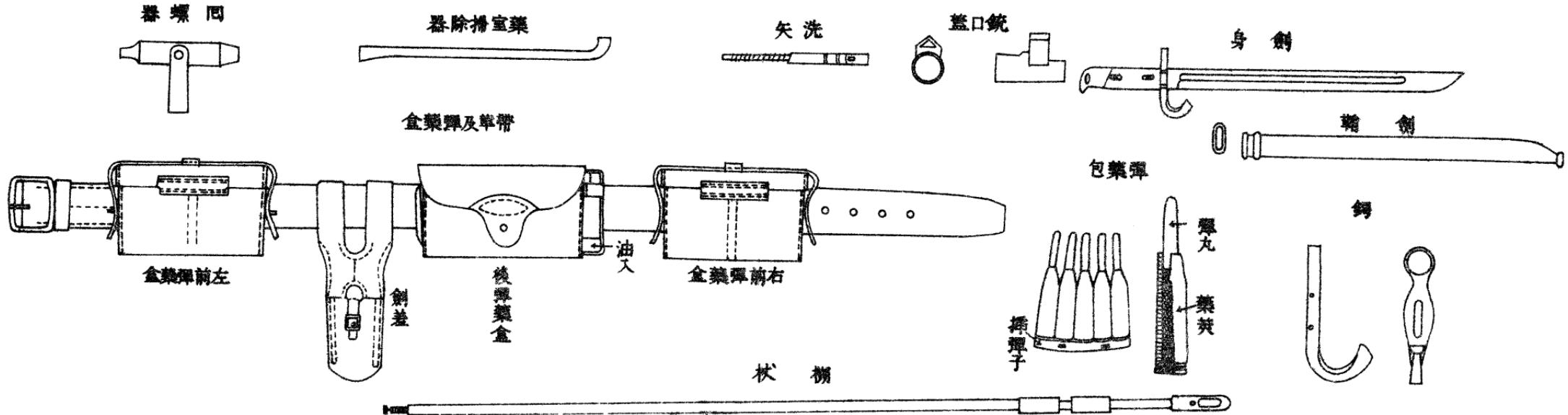
圖六第



圖七第

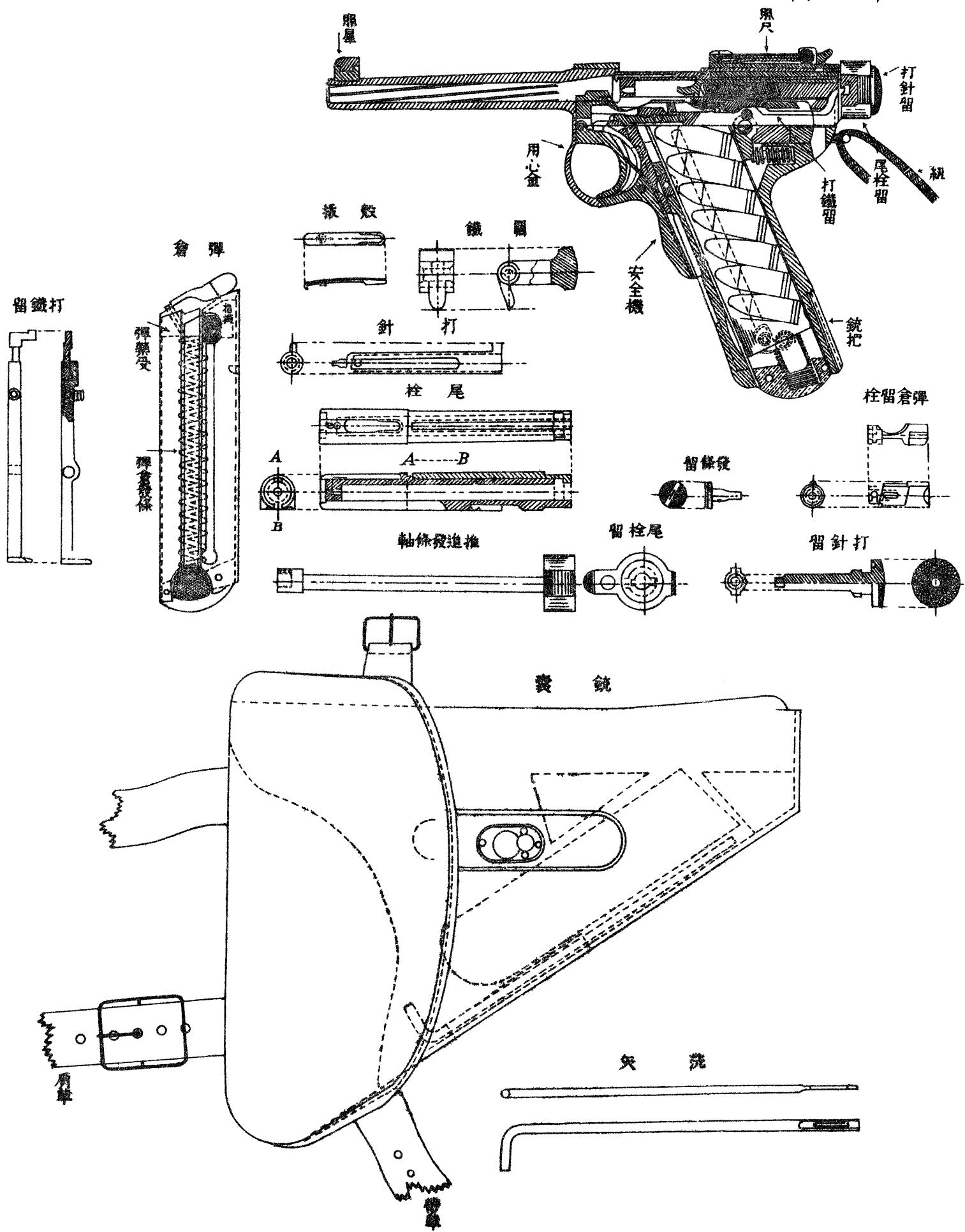


圖八 第



陸式拳銃各部及附属品名

圖九 第



落及角射發銃小式八三
(倍千/切正) 表切正角

(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫準基)

落角	仰角	射距離	落角	仰角	射距離
			耗角	耗角	米離
12.03	8.08	625	0.23	0.22	25
12.99	8.58	650	0.46	0.44	50
14.00	9.09	675	0.70	0.67	75
15.07	9.62	700	0.95	0.90	100
16.20	10.18	725	1.22	1.14	125
17.39	10.76	750	1.51	1.39	150
18.64	11.36	775	1.82	1.65	175
19.95	11.99	800	2.14	1.92	200
21.32	12.64	825	2.48	2.19	225
22.75	13.32	850	2.84	2.47	250
24.25	14.02	875	3.23	2.76	275
25.82	14.75	900	3.64	3.06	300
27.45	15.51	925	4.07	3.37	325
29.13	16.29	950	4.53	3.69	350
30.86	17.09	975	5.02	4.02	375
32.64	17.92	1000	5.54	4.36	400
34.48	18.78	1025	6.09	4.71	425
36.38	19.66	1050	6.68	5.08	450
38.34	20.57	1075	7.31	5.46	475
40.36	21.51	1100	7.98	5.85	500
42.44	22.48	1125	8.69	6.26	525
44.58	23.48	1150	9.45	6.69	550
46.78	24.50	1175	10.26	7.14	575
49.04	25.55	1200	11.12	7.60	600

第二表

表 射 銃 小 式 八 三

(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫準基)

存速 〔秒〕	飛行 時	迷界危險			上地平水 ルケ於二		界半數 〔標的〕 二於 〔標的〕 〔標的〕	射距 〔米〕	
		兵步徒			乘馬	兵			
		姿伏 高50 米	姿膝 高100 米	姿立 高155 米	高230 米	〔標的〕 〔標的〕 〔標的〕			
701	0.14	100	100	100	100	100	4.4	50	100
642	0.29	200	200	200	200	200	9.0	10.4	200
585	0.45	300	300	300	300	300	13.8	15.8	300
530	0.63	400	400	400	400	400	19.4	22.0	400
478	0.83	78	500	500	500	500	252	284	500
431	1.06	51	125	600	600	600	31.8	35.8	600
390	1.31	36	80	158	700	700	38.8	43.8	700
357	1.58	27	56	102	162	162	46.8	52.9	800
331	1.87	21	42	73	110	110	55.4	62.8	900
310	2.19	16	32	55	80	80	65.0	74.0	1000

第一表

(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫氣) (負八字赤) 表高道彈銃小式八三

最高度 米	離 三 至 高 度 米	離 距 離 米	高度 射 距離 米																				
			1000	950	900	850	800	750	700	650	600	550	500	450	400	350	300	250	200	150	100	50	
0.02	52	100*								392	312	244	185	137	97	64	39	20	07	0	02	100*	
0.10	105	200							522	420	332	257	194	140	97	61	34	14	0	08	10	07	200
0.25	159	300				685	557	445	349	266	195	137	90	51	22	0	15	23	25	22	13	300	
0.49	215	400			888	728	587	464	358	267	190	126	74	32	0	23	39	47	49	44	35	20	400
0.85	272	500	1134	936	761	607	473	356	257	172	102	045	0	35	60	76	84	84	79	67	50	27	500
1.36	331	600	973	784	614	467	340	230	138	062	0	49	86	112	129	136	135	128	113	093	067	036	600
2.09	391	700	784	599	440	301	183	083	0	067	120	160	187	203	209	207	196	178	154	123	087	046	700
3.09	452	800	560	386	235	107	0	090	163	218	260	288	304	309	304	290	267	237	201	159	111	058	800
4.41	514	900	299	135	0	120	215	292	352	395	424	438	441	432	414	386	350	306	256	200	138	072	900
6.31	576	1000	0	154	279	381	463	525	570	598	612	611	598	574	540	496	445	386	320	248	170	087	1000

表離距射二度温 / 銃小式八三

考備	1000	900	800	700	600	500	400	300	照 射 距 離 米	物 質 類
	776	698	620	542	463	384	304	223	米	-40 攝 氏 度
表中ノ氣温ハ氣壓七百六十一度減増三等シヨス故ニ若氣壓値ノ高低差アルトキハ氣	790	710	631	551	471	390	309	228	-35	
	803	723	642	561	479	397	314	232	-30	
	817	735	653	570	487	404	320	236	-25	
	831	747	663	580	495	411	325	240	-20	
	844	759	674	589	503	418	331	244	-15	
	857	771	685	599	511	424	336	248	-10	
	871	783	696	608	520	431	341	252	-5	
	884	796	707	618	528	438	347	256	0	
	898	808	717	627	536	444	352	260	+5	
	911	820	728	637	544	451	358	264	+10	
	925	832	739	646	552	458	363	268	+15	
	939	844	750	655	560	465	368	272	+20	
	952	856	761	665	568	472	374	276	+25	
	966	868	771	674	576	478	379	280	+30	
	979	881	782	684	584	485	385	284	+35	
	992	893	793	693	592	492	390	288	+40	

第五表

600	400	200	距離 種類 物質 類
0.91	1.10	0.99	土積常尋
0.75	0.90	1.10	雪ルセ固踏
0.60	0.75	0.60	砂
0.63	0.87	1.12	松ルサセ燥乾
通貫	通貫	通貫	壁瓦煉 (厚二十二サ厚)
痕凹 (厚二約サ薄)	通貫	通貫	鍛鐵耗八
痕凹 (厚四約サ薄)	通貫	通貫	鍛鋼軟耗五

第四表

距射ル依ニ速風向風ノ銃小式八三
表量移偏方側ノ點著彈及減増ノ離

考備		1000	900	800	700	600	500	400	300	距 風 向 風 速
ノ分風 テ求 ムル モノ ノトス ハ其 ノ風速 ハ下 ニ掲 クル 分力 風速 二乗										リヨ右
	27	22	17	13	10	0.7	0.4	0.2	リヨ左	1 米
	10	10							向方射	
	1.3	11	0.8	0.6	0.5	0.3	0.2	0.1	リヨ右	2
	40	32	2.6	2.0	1.4	1.0	0.6	0.4	リヨ左	
	20	1.0	1.0	1.0	1.0				向方射	3
	2.7	22	17	1.3	1.0	0.7	0.4	0.2	リヨ右	
	53	43	3.4	2.6	1.9	1.3	0.8	0.5	リヨ左	4
	3.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0			向方射	
	40	32	2.6	2.0	1.4	1.0	0.6	0.4	リヨ右	5
(備近零)表力分	6.7	54	4.3	3.3	2.4	1.7	1.1	0.6	リヨ左	
	3.0	3.0	2.0	2.0	1.0	1.0			向方射	6
	5.3	4.3	3.4	2.6	1.9	1.3	0.8	0.5	リヨ右	
	8.0	65	51	3.9	2.9	2.0	1.3	0.7	リヨ左	7
	4.0	3.0	3.0	2.0	1.0	1.0	1.0		向方射	
	6.7	54	4.3	3.3	2.4	1.7	1.1	0.6	リヨ右	
	9.3	7.6	6.0	4.6	3.4	2.3	1.5	0.8	リヨ左	
	5.0	40	30	3.0	2.0	1.0	1.0		向方射	8
	80	65	51	3.9	2.9	2.0	1.3	0.7	リヨ右	
ノ分 方 ノ分 力 03 10 05 09 07 07 09 05 10 03	101	86	6.8	52	3.8	2.7	1.7	1.0	リヨ左	9
	60	5.0	40	3.0	2.0	1.0	1.0		向方射	
	9.3	7.6	6.0	4.6	3.4	2.3	1.5	0.8	リヨ右	10
	12.0	97	77	59	43	30	19	11	リヨ左	
	70	60	40	30	20	20	10	10	向方射	
	107	8.6	6.8	52	3.8	2.7	1.7	1.0	リヨ右	10
	13.3	108	85	6.5	48	3.3	2.1	1.2	リヨ左	
	8.0	60	50	40	30	20	10	10	向方射	
	120	97	77	59	43	30	19	11	リヨ右	10
	147	119	94	72	5.3	3.7	2.3	1.3	リヨ左	
	9.0	7.0	5.0	40	30	20	10	10	向方射	

表力效中命擊射隊部銃小式八三

考 備		距離												目標種類		銃種	
1000	900	800	700	600	550	500	450	400	350	300	250	200	150	100	50	小銃部隊射擊效力%	
38	46	54	66	86	101	120	144	172	204	240	立	兵	步兵	獨	單		
29	37	47	60	82	98	117	141	169	202	240	勝	兵	散				
13	17	21	28	42	53	67	83	102	125	151	伏	(米一隔間心軸)					
09	10	12	17	26	33	42	53	67	83	103	頭						
117	127	136	144	150	155	160	165	170	175	178	立						
91	102	114	128	142	150	157	164	167	173	175	勝						
41	47	53	63	73	80	88	97	106	126	126	伏						
25	29	34	39	46	51	56	63	70	78	87	頭						
180	195	209	221	231	235	239					立						
140	157	175	197	218	229	241					勝						
63	72	81	97	112	123	135					伏						
204	213	221	228	236							立						
181	192	205	219	234							勝						
106	111	118	127	138							伏						
198	228	259	291	322							立						
166	193	224	257	293							勝						
161	169	174	178	180							勝						
88	113	143	184	235	268	302	336	369	398	421	勝						
48	63	80	106	140	163	189	216	247	277	300	伏						
25	33	43	59	81	96	118	142	171	208	252	低最						
192	166	144	122	102	92	82	73	64	55	48	直垂	銃	部銃小式八三	關機	輕		
174	150	130	110	92	83	74	66	58	50	42	平水						
1000		距離												集束彈道ノ中央目標下際二適中			
101	102	102	103	103	103	104	104	105	106	106	10						
198	100	102	104	106	107	108	109	110	111	112	20						
090	094	098	101	105	107	109	111	112	114	116	30						
078	085	091	096	101	104	107	110	113	116	120	40						
065	073	080	087	095	099	103	107	112	117	122	50						
050	058	067	077	087	093	098	104	110	117	123	60						
035	043	053	061	077	084	091	098	106	113	121	70						
024	031	041	052	066	074	082	083	099	109	119	80	遠					
015	021	030	041	056	064	074	074	093	104	115	90						
010	014	021	022	046	055	064	062	085	097	109	100						
006	010	015	023	036	044	054	055	076	089	102	110						
007	011	018	028	036	044	045	056	081	095	120							
005	007	012	021	028	035	034	056	070	086	130							
	004	008	015	020	027	027	045	059	077	140							
		006	011	015	020	020	037	050	069	150							
095	095	095	094	094	094	094	093	093	093	093	10						
084	085	086	086	086	086	086	086	085	085	085	20						
071	073	075	077	078	078	078	078	078	078	078	30						
058	061	064	067	070	071	071	071	071	071	071	40						
045	049	053	058	061	062	062	063	063	062	062	50						
035	039	044	048	052	053	054	054	054	054	054	60						
025	029	034	039	043	044	046	046	047	047	047	70						
017	021	026	032	036	038	039	040	040	041	041	80	近					
011	015	019	024	028	030	031	032	033	033	034	90						
007	010	014	018	022	024	025	026	027	028	029	100						
006	008	011	014	017	018	020	021	022	023	024	110						
007	009	011	014	015	017	018	019	020	021	021	120						
	006	009	011	012	013	014	015	016	017	130							
		007	009	010	011	012	013	013	013	014	140						
			005	007	008	009	010	011	011	011	150						
103	105	106	107	108	108	108	109	109	109	109	10						
106	108	111	113	115	115	116	117	118	118	119	20						
098	103	108	113	117	120	122	125	126	127	128	30						
088	095	104	112	119	123	127	130	134	135	136	40						
077	087	088	108	119	125	130	135	139	142	143	50						
063	075	089	103	117	124	131	137	144	148	149	60						
051	064	078	095	110	118	128	137	146	153	155	70						
038	050	060	065	083	103	114	124	133	147	156	80	遠					
026	037	051	070	092	104	117	131	145	158	164	90						
015	025	038	056	080	095	109	125	142	158	167	100						
009	016	028	045	069	089	100	112	137	156	168	110						
005	010	020	035	058	072	089	108	130	152	168	120						
004	013	027	047	061	076	098	121	146	166	170	130						
003	008	020	038	050	064	086	111	139	163	170	140						
	005	016	032	042	053	074	100	130	158	170	150						
090	090	090	090	091	091	091	091	091	091	091	10						
079	079	080	083	081	082	082	082	082	082	082	20						
066	068	070	071	071	072	072	072	073	073	073	30						
053	056	058	059	060	061	062	063	064	064	064	40						
040	043	047	049	051	052	053	054	055	055	056	50						
030	033	037	040	042	044	045	046	047	048	049	60						
022	026	030	033	036	037	038	039	040	041	042	70						
015	018	022	025	028	030	032	033	034	035	036	80	近					
011	014	017	019	023	024	026	027	028	029	030	90						
007	009	012	015	018	019	021	022	023	024	026	100						
003	006	009	012	014	015	017	018	019	020	021	110						
003	005	007	009	011	012	013	014	015	016	017	120						
001	003	005	006	009	010	010	011	012	013	014	130						
001	003	005	006	007	008	009	010	011	012	014	140						
001	003	005	005	006	006	008	009	009	009	015	150						
1000	900	800	700	600	550	500	450	400	350	300	250	200	150	100	50	距離	
098	098	098	097	096	095	094	092	090	087	083	020					集束彈道ノ中央目標下際二適中	
095	094	092	090	085	082	077	072	065	058	049	040					ノ中央線級二適中	
089	087	083	079	067	061	054	047	040	033	026	060					偏場ノ減耗係數ヲ乗スルモノトス	
082	077	072	063	050	042	034	027	021	015	009	080					合二於ケル命中効力	
074	067	059	041	035	027	020	014	009	005	001	100					偏場ノ減耗係數ヲ乗スルモノトス	
064	056	047	035	022	017	011	007	003			120					減耗係數	
054	046	036	025	014	009	005	001				140						
045	036	027	027	008	004	001					160						
037	028	019	013	004							180						
030	021	013	006	001							200						
023	015	009	003								220						
018	011	005									240						
013	007	002									260						
009	004										280						
006	002										300						

命中的公算數表

N	F	N	F	N	F
1.165	69	0.43	35	0.01	1
1.20	70	0.44	36	0.02	2
1.23	71	0.46	37	0.03	3
1.27	72	0.48	38	0.04	4
1.30	73	0.49	39	0.05	5
1.34	74	0.51	40	0.06	6
1.38	75	0.525	41	0.07	7
1.42	76	0.54	42	0.08	8
1.46	77	0.56	43	0.09	9
1.51	78	0.58	44	0.10	10
1.55	79	0.595	45	0.12	11
1.60	80	0.61	46	0.13	12
1.65	81	0.63	47	0.14	13
1.70	82	0.65	48	0.15	14
1.76	83	0.67	49	0.16	15
1.82	84	0.69	50	0.17	16
1.89	85	0.71	51	0.19	17
1.96	86	0.73	52	0.20	18
2.03	87	0.75	53	0.21	19
2.11	88	0.77	54	0.22	20
2.20	89	0.79	55	0.23	21
2.29	90	0.82	56	0.25	22
2.40	91	0.84	57	0.26	23
2.61	92	0.86	58	0.27	24
2.65	93	0.89	59	0.29	25
2.80	94	0.92	60	0.30	26
2.98	95	0.94	61	0.31	27
3.20	96	0.96	62	0.33	28
3.49	97	0.99	63	0.34	29
3.89	98	1.02	44	0.35	30
4.58	99	1.04	65	0.37	31
∞	100	1.07	66	0.38	32
		1.10	67	0.40	33
		1.13	68	0.41	34

設置的數=65命中彈=49

豫期命中的數計算
一例

$$\frac{49}{65} = 0.75 = N = \frac{\text{命中彈}}{\text{的}}$$

$$\frac{53}{100} = \frac{X}{65} \quad X = 34.45$$

豫期命中的數=34

三式機銃年表(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫氣均平)

第九表

射 距 離 (米)	照準角		發射角		落角		經 過 時 間 (秒)	存 速 (米)	最高點		水平地上ノ危險界(米)			半 界 (單 發 射)			
	度分	正切/ 千倍(炮) (制式圖) (寸度)	度分	正切/ 千倍(炮)	度分	正切/ 千倍(炮)			最高度 (米)		步兵						
									最高 度 (米)	最高 點至 地面 (米)	伏姿 0.50米	膝姿 1.00米	立姿 1.65米				
100	0.1265	0.9	003.15	0.92	0.033	0.97	0.14	695	0.02	52	100	100	100	100	6	3	
200	0.1622	1.9	006.72	1.96	0.075	2.19	0.29	636	0.10	105	200	200	200	200	8	4	
300	0.2023	3.1	010.73	3.12	0.128	3.72	0.46	579	0.26	159	300	300	300	300	11	6	
400	0.2476	4.5	015.26	4.44	0.195	5.67	0.64	524	0.51	215	172	400	400	400	13	8	
500	0.3001	6.2	020.51	5.97	0.280	8.16	0.84	473	0.87	272	76	500	500	500	16	10	
600	0.3611	8.1	026.61	974	0.390	11.34	1.07	427	1.40	331	50	122	600	600	20	13	
700	04324	10.3	033.74	9.81	0.528	15.37	1.32	387	2.14	391	35	78	153	700	24	15	
800	05156	12.8	042.06	12.23	1.09.9	2034	1.59	354	3.16	452	26	54	99	157	29	18	
900	10123	15.7	051.73	15.05	130.4	26.30	1.89	828	4.51	513	20	40	71	106	34	22	
1000	1.1232	19.1	1.0282	18.27	1.54.0	33.18	2.21	307	6.25	595	16	31	54	78	40	25	

(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫氣) 表(高道彈之負八字赤)道彈銃式年三

第十表

距離(米)	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000
射距離(米)																				
100	0.02	0	0.08	0.21	0.40	0.66	0.99	140	189	248	318	400								
200	0.08	0.10	0.08	0	0.14	0.35	0.63	0.99	1.43	1.98	2.63	3.39	4.29	5.33						
300	0.13	0.22	0.26	0.23	0.15	0	0.22	0.52	0.91	1.40	2.00	2.71	3.56	4.55	5.68	6.99				
400	0.20	0.35	0.45	0.50	0.48	0.39	0.24	0	0.33	0.75	1.29	1.94	2.73	3.66	4.74	5.99	7.43	9.06		
500	0.28	0.51	0.68	0.80	0.86	0.85	0.77	0.61	0.36	0	0.46	1.04	1.76	2.62	3.63	4.82	6.19	7.77	9.55	11.57
600	0.37	0.68	0.95	1.16	1.30	1.38	1.39	1.31	1.15	0.88	0.50	0	0.64	1.41	2.35	3.46	4.76	6.26	7.97	9.93
700	0.47	0.89	1.26	1.57	1.82	2.00	2.11	2.14	2.07	1.91	1.63	1.23	0.99	0	0.84	1.86	3.07	4.48	6.11	7.99
800	0.59	1.13	1.62	2.05	2.42	2.73	2.96	3.10	3.15	3.10	2.94	2.66	2.23	1.66	0.93	0	1.09	2.40	3.93	5.71
900	0.73	1.41	2.04	2.62	3.13	3.57	3.94	4.22	4.41	4.50	4.47	4.32	4.03	3.59	2.98	2.20	1.22	0	1.37	3.04
1000	0.89	1.74	2.53	3.26	3.93	4.54	5.06	5.51	5.86	6.10	6.23	6.24	6.10	5.81	5.35	4.72	3.89	2.85	1.57	0

(米) 表離距射フ伴ニ温氣銃機式年三

照尺 氣溫 度	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	考備
	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	表中氣温ハ氣温一度ノ減増ニ等シキモノト看做スヘシ
-40	256	341	426	511	596	681	766	852	937	1022	
-38	257	343	429	514	600	686	771	857	943	1028	
-36	259	345	431	517	604	690	776	862	949	1035	
-34	260	347	434	521	607	694	781	868	955	1041	
-32	262	349	437	524	611	699	786	873	961	1048	
-30	264	351	439	527	615	703	791	879	966	1054	
-28	265	354	442	530	619	707	796	884	972	1061	
-26	267	356	445	534	623	712	800	889	978	1067	
-24	269	358	447	537	626	716	805	895	984	1074	
-22	270	360	450	540	630	720	810	900	990	1080	
-20	272	362	453	543	634	724	815	906	996	1087	
-18	273	364	456	547	638	729	820	911	1002	1093	
-16	275	367	458	550	641	733	825	916	1008	1100	
-14	276	369	461	553	645	737	830	922	1014	1106	
-12	278	371	464	556	649	742	834	927	1020	1113	
-10	280	373	466	559	653	746	839	932	1026	1119	
-8	281	375	469	563	657	750	844	938	1032	1125	
-6	283	377	472	566	660	755	849	943	1038	1132	
-4	285	380	474	569	664	759	854	949	1044	1138	
-2	286	382	477	572	668	763	859	954	1050	1145	
0	288	384	480	576	672	768	864	959	1055	1151	
2	289	386	482	579	675	772	868	965	1061	1158	
4	291	388	485	582	679	776	873	970	1067	1164	
6	292	390	488	585	683	781	878	976	1073	1171	
8	294	392	491	589	687	785	883	981	1079	1177	
10	296	395	493	592	691	789	888	986	1085	1184	
12	298	397	496	595	694	794	893	992	1091	1190	
14	299	399	499	598	698	798	898	997	1097	1197	
15	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	
16	301	401	501	602	702	802	902	1003	1103	1203	
18	302	403	504	605	706	806	907	1008	1109	1210	
20	304	405	507	608	709	811	912	1014	1115	1216	
22	306	408	509	611	713	815	917	1019	1121	1223	
24	307	410	512	615	717	819	922	1024	1127	1229	
26	309	412	515	618	721	824	927	1030	1133	1236	
28	311	414	518	621	725	828	932	1035	1139	1242	
30	312	416	520	624	728	832	936	1041	1145	1249	
32	314	418	523	627	732	837	941	1046	1150	1255	
34	315	420	526	631	736	841	946	1051	1156	1262	
36	317	423	528	634	740	845	951	1057	1162	1268	
38	319	425	531	637	743	850	956	1062	1168	1274	
40	320	427	534	640	747	854	961	1067	1174	1281	
氣溫 照尺	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	

第十一表

考 備

增減の氣温一度の増減二度の増減の如きを測定する

表略量偏定並表量移偏方側及減增，離距射ルス應三米一速風銃機式年三

距離 區分	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	2000	2100	2200	距離 區分
	総風米				1	1	1	1	2	2	2	3	3	4	4	5	6	6	7	8	
横風米	0.1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.7	0.9	1.1	1.3	1.6	1.8	2.1	2.5	2.8	3.2	3.6	4.1	4.5	5.0	横風米
定偏米	0	0.5		1			2		3			4		5		6		7	8	定偏米	
備考	一風向射線：斜交スルトキハ其風速、射方向ト側方トノ分速ニ分ツシテ其分速ハ次ニ掲タル分力ヲ風速：乗シテ求ムルモノトス										分力	風向卜射方向 上爲人角度	15°	30°	45°	60°	75°				
	二某米ノ風速ケルトキハ本表ノ記載セル量：其風速ヲ乗シタル値ヲ採ルモノトス										表頭近似	射方向ノ分力	1	0.9	0.7	0.5	0.3				
											側方ノ分力	0.3	0.5	0.7	0.9	1					

(初速743.7米/秒) 表 射 銃 機 式 留
(彈量11.28瓦)

射 距 離 (米)	射 角 (度分秒)	落 角 (度分秒)	離頂 點 距 (米)	頂 點 高 (米)	存 速 (米/秒)	飛 行 時 (秒)
100	3 18	3 18			670	0.15
200	6 57	7 48	119	0.11	602	0.31
300	11 8	13 54	174	0.28	538	0.49
400	16 17	22 0	229	0.56	479	0.69
500	22 30	33 18	284	1.00	428	0.91
600	29 46	47 30	339	1.65	385	1.15
700	38 12	1 4 6	394	2.55	351	1.42
800	47 48	1 23 12	450	3.74	326	1.71
900	58 48	1 45 18	508	5.29	308	2.02
1000	1 11 14	2 10 30	568	7.27	293	2.35
1100	1 25 4	2 38 12	628	9.70	280	2.70
1200	1 39 58	3 7 54	688	12.6	268	3.07
1300	1 55 51	3 40 24	748	16.0	256	3.46
1400	2 13 3	4 16 6	808	19.9	245	3.86
1500	2 31 55	4 55 6	868	24.4	235	4.28
1600	2 52 40	5 38 0	928	29.8	225	4.72
1700	3 16 1	6 26 24	991	36.3	215	5.19

留式機銃彈道高度距離表

離ノ高度 距離 距離 射	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
200	0.11	0															
300	0.23	0.25	0														
400	0.37	0.53	0.44	0													
500	0.54	0.90	0.99	0.72	0												
600	0.78	1.33	1.63	1.57	1.07	0											
700	1.02	1.82	2.35	2.55	2.28	1.42	0										
800	1.29	2.38	3.20	3.66	3.68	3.14	1.96	0									
900	1.61	3.02	4.15	4.94	5.29	5.05	4.22	2.58	0								
1000	1.97	3.74	5.24	6.38	7.08	7.23	6.72	5.42	3.24	0							
1100	2.37	4.54	6.44	7.99	9.11	9.66	9.55	8.68	6.87	4.03	0						
1200	2.79	5.40	7.67	9.76	11.3	12.2	12.6	12.1	10.8	8.30	4.71	0					
1300	3.25	6.34	9.08	11.6	13.6	15.0	15.9	15.8	14.9	13.0	9.87	5.51	0				
1400	3.77	7.36	10.6	13.6	16.1	18.0	19.4	19.8	19.4	18.0	15.3	11.5	6.82	0			
1500	4.31	8.45	12.3	15.8	18.8	21.3	23.2	24.1	24.3	23.5	21.4	18.1	13.8	7.83	0		
1600	4.89	9.68	14.1	18.2	21.8	24.9	27.4	28.7	29.8	29.5	28.1	25.4	21.4	16.0	9.15	0	
1700	5.59	11.0	16.1	20.9	25.3	29.0	32.2	34.0	35.9	36.3	35.5	33.6	30.2	25.4	19.4	10.9	0

表射銃機輕式年一十

(耗十六百七噸氣度五十氏攝溫氣準基)

第十五表

存速	經過時間	方向偏差 風速	界險危			上地平水 ルケ路	界半數於直標的		射距		
			兵步				騎兵	平水			
			姿伏 高メ 050	姿膝 高メ 100	姿立 高メ 165		高メ 230	直垂			
679	015	001	100	100	100	100	64	59	100		
622	031	003	200	200	200	200	133	118	200		
566	047	006	300	300	300	300	206	178	300		
513	065	011	47	400	400	400	285	242	400		
463	085	018	74	500	500	500	368	313	500		
420	108	027	47	109	600	600	456	395	600		
384	133	039	3	73	141	700	549	493	700		
353	161	053	5	53	94	146	646	611	800		
327	191	071	19	39	69	102	749	756	900		
307	223	091	16	31	52	75	856	934	1000		
290	257	112	12	25	42	60	968	1154	1100		
275	294	134	10	20	33	48	1085	1422	1200		
262	335	159	8	16	28	39	1206	1750	1300		
250	380	186	7	14	23	33	1333	2144	1400		
239	427	266	6	12	20	28	1464	2622	1500		

表切正角落及角射發銃機輕式年一十

(耗十六百七噸氣度五十氏攝溫氣準基)

表切正角落及角射發											
落角	發射角	射距離	落角	發射角	射距離	落角	發射角	射距離	落角	發射角	射距離
4651	2492	1150	1906	1203	775	582	472	400	029	026	25
4882	2601	1175	2047	1268	800	635	508	425	058	052	50
5119	2713	1200	2194	1336	825	691	546	450	088	078	75
5362	2828	1225	2347	1407	850	750	585	475	119	105	100
5611	2946	1250	2506	1481	875	813	626	500	151	132	125
5866	3067	1275	2671	1558	900	880	669	525	183	160	150
6127	3191	1300	2842	1638	925	952	714	550	216	188	175
6394	3319	1325	3019	1721	950	1030	761	575	250	217	200
6668	3451	1350	3202	1807	975	1115	810	600	285	246	225
6949	3587	1375	3391	1896	1000	1207	861	625	321	276	250
7236	3727	1400	3586	1988	1025	1306	913	650	359	307	275
7530	3871	1425	3787	2083	1050	1412	967	675	399	338	300
7831	4020	1450	3994	2181	1075	1525	1023	700	441	370	325
8139	4174	1475	4207	2282	1100	1645	1081	725	485	403	350
8454	4333	1500	4426	2386	1125	1772	1141	750	532	437	375

第十六表

(耗十六百七壓氣度五十氏攝溫氣準基) 表(高道彈之負)高道彈鏡 機輕式年一十

最 高 度 米	距 離 至 高 度 (米) ル度	射 程 距 離 (米)	高度 距離 射程 (米)																								1度 高 度 距離 (米)						
			1500	1450	1400	1350	1300	1250	1200	1150	1100	1050	1000	950	900	850	800	750	700	650	600	550	500	450	400	350	300	250	200	150	100	50	
0.03	5.2	100																														100	
0.12	10.4	200																														200	
0.27	15.8	300																														300	
0.52	21.4	400																														400	
0.90	27.0	500																														500	
1.49	32.9	600																														600	
2.28	38.8	700																														700	
3.33	44.7	800																														800	
4.70	51.0	900																														900	
6.56	57.2	1000	3195	2719	2282	1882	1518	1188	891	625	369	181	0	158	289	397	484	552	602	635	653	656	641	614	576	528	471	408	338	262	180	93	1000
9.00	63.4	1100	2886	2225	1803	1418	1069	754	472	221	0	2.00	366	507	624	718	792	846	882	900	894	873	840	794	737	670	594	510	419	321	219	112	1100
12.00	69.5	1200	2124	1669	1263	895	563	265	0	2.44	451	630	782	908	1010	1090	1147	1183	1200	1191	1165	1124	1070	1000	920	830	731	623	511	392	265	134	1200
15.58	75.5	1300	1505	1069	677	320	0	294	547	769	962	1126	1264	1376	1463	1526	1567	1588	1569	1532	1478	1408	1324	1227	1118	998	869	737	600	459	311	158	1300
19.60	81.5	1400	793	376	0	348	647	911	1142	1341	1509	1648	1760	1846	1907	1944	1960	1939	1903	1847	1774	1685	1581	1464	1335	1195	1045	886	719	544	365	185	1400
24.20	87.3	1500	0	407	756	1067	1342	1583	1791	1967	2112	2227	2314	2374	2409	2420	2397	2353	2289	2206	2106	1990	1859	1714	1556	1387	1208	1020	825	626	422	214	1500